足利市の教育目標

第７次具現状況評価報告書

足利市生涯学習推進本部

足利市生涯学習推進委員会

足 利 市 教 育 委 員 会

ご あ い さ つ

近年、人口の減少と超高齢化社会を迎えたことに加え、国際化、情報化、科学技術の高度化、価値観の多様化など、社会情勢が著しく変化しています。

こうした変化に対応しつつ、市民の持てる力を存分に発揮し、足利に元気と活力を取り戻し、市民一人一人が生涯における学び、文化、スポーツ、国際交流などを通じて、生きがいや心の豊かさを実感できるとともに、自己実現の喜びが地域に還元されるよう、様々な機会をとらえていきいきと活動し続けることが求められています。

国においては、２１世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を進めていくための会議として、平成２５年１月に教育再生実行会議が設置され、教育委員会制度等の在り方や今後の学制等の在り方、「学び続ける」社会等の在り方など、様々な提言がなされております。

また、中央教育審議会においても、教育再生実行会議の提言を受けて、具体的な実施方法や法制化に関わる事項について検討が始められております。今後の社会の方向性としては、個人の「自立」、様々な人との「協働」、新たな価値の「創造」の三つを基軸とした社会モデルを実現するための生涯学習社会の構築を旗印として、教育の再生に向けた各般の施策が推進されていくことになります。

本市におきましても、生涯にわたって学習を行い、心豊かな充実した生活と連帯感あふれる地域社会づくりを目指して、昭和５６年に生涯教育の立場にたった「足利市の教育目標」が市民参加によって設定されました。

以来３４年、この教育目標の具現化を生涯学習社会の実現と位置づけ、生涯学習に関わる関係機関、各種団体や行政等が、それぞれの立場で様々な事業や施策を展開し、その具現化を推進してまいりました。平成２６年度の市民アンケートによる満足度調査では、「生涯学習機会の提供」が上位になるなど、その成果が着実にあがっており、市民の生涯学習活動は著しく拡大しております。

このたび、第７次教育目標具現状況調査を実施し、その結果をまとめた評価報告書を刊行する運びとなりました。

この具現状況評価のねらいは、評価すること自体を目的とするものではなく、生涯学習社会の実現を目指して、今後の教育目標具現化のための課題を確認し、よりよき改善のための方向や方策を明らかにするものです。

本年は、第７次足利市総合計画の策定を予定しています。本報告書を、その策定の際の基礎資料として役立てることにより、「足利市の教育目標」のさらなる具現化を推進するための施策を展開してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本報告書作成にあたり、アンケート調査にご協力をいただきました多くの市民の皆様と関係各位のご尽力に対し、心から感謝申し上げます。

平成２７年　３月

足利市生涯学習推進本部長（足利市長）　和泉　　聡

目　　次

第　１　部

Ⅰ「足利市の教育目標」第７次具現状況評価・・・・・・・・・・・・・・・６

１　生涯学習の立場にたった市民参加による
「足利市の教育目標」一覧

２　第７次具現状況評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（１）評価の必要性
（２）評 価 の 視 点
（３）調　査　項　目
（４）評　価　構　想

３　評価の概要
（１）調　査　内　容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
①　市民の目的的な生活実践状況について
②　教育目標具現と各課施策（事業）内容について
（２）調査対象・調査方法・配布数　等・・・・・・・・・・・・・・・１９

Ⅱ「足利市の教育目標」具現にかかわる課題・・・・・・・・・・・・・・２０

総　　括
１　郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興・・・・・・・・・・・・・２２
２　健康・安全の保持増進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
３　社会連帯感の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
４　よき家庭人の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
５　よき職業人の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
６　主体的な生活態度の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
７　国際社会に生きる日本人としての自覚・・・・・・・・・・・・・・２８
８　地域で取り組むべき課題と子どもの健全育成の意識について・・２９
９　行政各課の取り組みについての課題・・・・・・・・・・・・・・・３０

第　２　部

調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

１　人生各期における生活実践

（１）郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興・・・・・・・・・・・３４
（２）健康・安全の保持増進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
（３）社会連帯感の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
（４）よき家庭人の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
（５）よき職業人の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７７
（６）主体的な生活態度の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７８
（７）国際社会に生きる日本人としての自覚・・・・・・・・・・・１０２

２　「足利市の教育目標」と各課の事業数一覧・・・・・・・・・・１０６

３　「足利市の教育目標」と各課の業務内容・・・・・・・・・・・１０８

第　　1　　部

Ⅰ「足利市の教育目標」第７次具現状況評価

１　生涯学習の立場にたった市民参加による「足利市の教育目標」一覧

○ この目標は、足利市民の意識や実態をふまえてつくられたものです。
○ この目標は、乳幼児期から高齢期までを考えてつくられたものです。
○ この目標は、全部で７０の目標からできています。
○ この目標は、家庭教育、学校教育、社会教育など、教育のすべてをまとめてつくられたものです。
○ この目標は、家庭、学校、地域、職場、行政などが連携を図りながら達成するようにつくられたものです。
○ 人生各期欄の**太線**は、重点教育目標（市民一人ひとりが、早急に取り組むべき目標や特に重視していくべき目標）であり、これらは、自らの目標を立て実践していくための参考にしていただくものです。

教育目標内容の柱	教　育　目　標	人生各期						
		乳幼児期	児童期	青年前期	青年後期	壮年前期	壮年後期	高齢期
1 郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興	1 郷土の自然や文化に親しみ、その保護･振興発展に努める。		**―**	**―**	**―**	**―**	**―**	**―**
	2 動植物を愛し、自然に親しむ豊かな心を養う。	―	―					
	3 自然を敬い、感謝の気持ちを育てる宗教心を養う。			―				
2 健康･安全の保持増進	4 いろいろな運動を楽しみ、体力を身につける。		―					
	5 スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。			**―**	**―**			
	6 スポーツ、レクリエーションに親しみ、健康の増進に努める。					―	―	
	7 健康･安全に必要な基本的生活習慣や態度を身につける。	―	―					
	8 交通安全のための習慣を身につける。			―	―			
	9 健康･安全な生活環境づくりに努める。					―	―	
	10 子供の健康･安全な生活態度を育てる。					―	―	
	11 健康･安全と体力の保持に努める。							―
3 社会連帯感の育成	12 日常生活の中で、社会的に望ましい習慣や態度を身につける。	―						
	13 社会の一員としての自覚をもち、社会的態度を身につける。		―					
	14 個人または団体の利害だけにとらわれず、全体との調和を図っていくことができる。			**―**	**―**	**―**	**―**	
	15 社会の一員としての役割を自覚し、責任ある言動をとる。			―		―	―	
	16 地域の集団活動に積極的に参加し、自らの役割を果たす。							―
	17 時間を大切にし、時刻を守る。					―	―	
	18 友達と互いに協力し合うことができる。		―					
	19 相手の立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。			―	―			
	20 友情の尊さを理解し、友達との交際の仕方を身につける。			―	―			
	21 自分と異なる信条･宗教･主張などを理解し、広い心で接することができる。					―	―	
	22 若い世代の人達の立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。							―
	23 日常生活の中で善悪の区別がつけられる。	―						
	24 道徳的な態度を身につけ、実践することができる。		**―**	**―**	**―**	**―**	**―**	
	25 子供に日常生活の中で善悪の区別がつけられるようにする。					―	―	
	26 友達のだれとでも、積極的に仲よく遊べる態度を身につける。	―						
	27 よりよい仲間づくりをするために、不合理な差別や偏見をもたないで生活することができる。		―					
	28 同和問題をはじめ、人権問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない民主的な人間関係をつくることに努める。			―	―			
	29 同和問題をはじめ、人権問題を正しく認識し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。					**―**	**―**	**―**
	30 奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。		―	―	―			
	31 奉仕活動を通して生きがいがもてる。					―	―	―

教育目標 内容の柱	教　育　目　標	人生各期 乳幼児期	児童期	青年前期	青年後期	壮年前期	壮年後期	高齢期
4 よき家庭人の育成	32 敬老の精神を身につけ実践する。							
	33 子供に敬老の精神を育てる。							
	34 男女が協力して、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。							
	35 男女が互いの人格を認め合い、望ましい交際の仕方を身につける。							
	36 結婚の意義を理解し、健全な家庭生活を営む態度を身につける。							
	37 性について正しい理解をもち、家庭において指導することができる。							
	38 家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。							
	39 家庭や地域で行う行事に積極的に参加する。							
	40 よい家風を受け継ぎ、さらに新しい家風をつくりあげていくことができる。							
	41 人格の基本となる望ましい性格を身につける。							
	42 子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。							
5 よき職業人の育成	43 職業人としての自己研修にたえず努める。							
	44 職業人としての専門的技能や資格を身につける。							
	45 職業を通して生きがいがもてる。							
	46 勤労の尊さを理解し実践する。							
	47 正しい職業観に立ち、自分に合った職業を選択するための能力を身につける。							
	48 自分の仕事について家族に理解させる。							
	49 再就職では、身につけた知識や技能を生かすことができる。							
	50 資源の開発と活用を図り、産業の発展に努める。							
6 主体的な生活態度の育成	51 身近な事物現象に興味・関心をもつ。							
	52 基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。							
	53 基本的な生活行動を自分の力で進んで行う態度を身につける。							
	54 基本的な生活習慣を身につけ、自ら考え正しく判断し行動することができる。							
	55 日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。							
	56 社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努める。							
	57 高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。							
	58 自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。							
	59 困難にくじけず、ねばり強くやり遂げる態度を身につける。							
	60 将来を見通して計画的な生活をする。							
	61 ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。							
	62 余暇を有効に過ごす。							
	63 進んで計画的に余暇を活用する。							
	64 身のまわりの情報を整理し、活用する能力を身につける。							
	65 情報を的確にとらえ、自ら正しく判断し、活用できる。							
	66 高齢者としての役割を認識し、情報を若い世代に伝えることができる。							
7 国際社会に生きる日本人としての自覚	67 日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。							
	68 日本に対する愛情を深めるとともに、世界的な視野に立って広く考えることができる。							
	69 国際社会における郷土の産業の果たす役割を正しく理解できる。							
	70 国際感覚の上に立って、世界の高齢者の生き方を学ぶことができる。							

２　第７次具現状況評価について

（１）評価の必要性

足利市教育目標設定委員会が、その答申と合わせて行った具申内容の一つに「必要な時期に『足利市の教育目標』を評価しながら、その検討改善を願いたい。」とする「足利市の教育目標」の評価があげられている。

「足利市の教育目標」を具現推進していくためには、目標具現にかかわる課題を明確にし、その課題解決に対する有効な施策を策定していかなければならない。

そのためには、目標具現にかかわる課題を事実に基づき具体化するとともに、それを明確な展望のもとに構造的に把握することが必要である。

そこで、足利市では教育目標具現の見通しとして、５か年を一つの段階としておさえ、５年ごとに教育目標の具現状況評価を実施し、課題等を摘出して次のステップへの資料とする。

第１次教育目標具現化段階（昭和 56 年度～60 年度）
市民に目的的な行動を起こしてもらうことをねらいとして、市民及び行政の動きを“点”としてとらえた。
第２次教育目標具現化段階（昭和 61 年度～平成 2 年度）
市民の目的的な行動の広がりをねらいとして、市民及び行政の動きを“点”から“線”そして、“線”から “面”への拡大としてとらえた。
第３次教育目標具現化段階（平成 3 年度～7 年度）
市民及び行政の目的的な動きを“点”として、あるいは“線”“面”への広がりと同時に、“変化”としてとらえた。
第４次教育目標具現化段階（平成 8 年度～12 年度）
第 3 次教育目標具現化段階に引き続き、市民及び行政の目的的な行動を“点”として、あるいは“線”“面”への広がりと同時に、“変化”としてとらえた。
第５次教育目標具現化段階（平成 13 年度～17 年度）
第４次教育目標具現化段階に引き続き、市民及び行政の目的的な行動を“点”として、あるいは“線”“面”への広がりと同時に、“変化”としてとらえた。
第６次教育目標具現化段階（平成 18 年度～21 年度）
市民の目的的な実践状況と、行政各課や各種団体、学校などの施策や活動を 1 年前倒しで関連づけしたことにより、足利市総合計画見直しの基礎資料とする。
第７次教育目標具現化段階（平成 22 年度～26 年度）
市民の目的的な実践状況と、行政各課や各種団体、学校などの施策や活動を関連づけたことにより、足利市総合計画策定の基礎資料とする。

（２）評価の視点

① 市民の生活実践を目的的な動きとして把握するとともに、市民の生活実践に関する動きを“変化”としてとらえる。

② 教育目標具現に関する関係各課の施策を把握するとともに、施策の動きを“変化”としてとらえる。

・ 現段階における行政施策の内容を総合的にとらえる。

③　市民並びに行政の動きを教育目標の内容別、あるいは人生各期別に把握する。

・「足利市の教育目標」は、７０の人生各期の教育目標からなり、さらに２０の集約内容、そして７つの教育目標の柱に集約されている。そこで、市民並びに行政の動きを教育目標の内容別、あるいは人生各期別にとらえる。

④　地域住民が主体となったまちづくりのための課題と、地域全体で子どもの健全育成を図るための市民の意識をとらえる。

（３）　調　査　項　目

①　教育目標に関する定点観測の調査項目（第６次具現状況評価と同様）

ア　郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興　　イ　健康・安全の保持増進

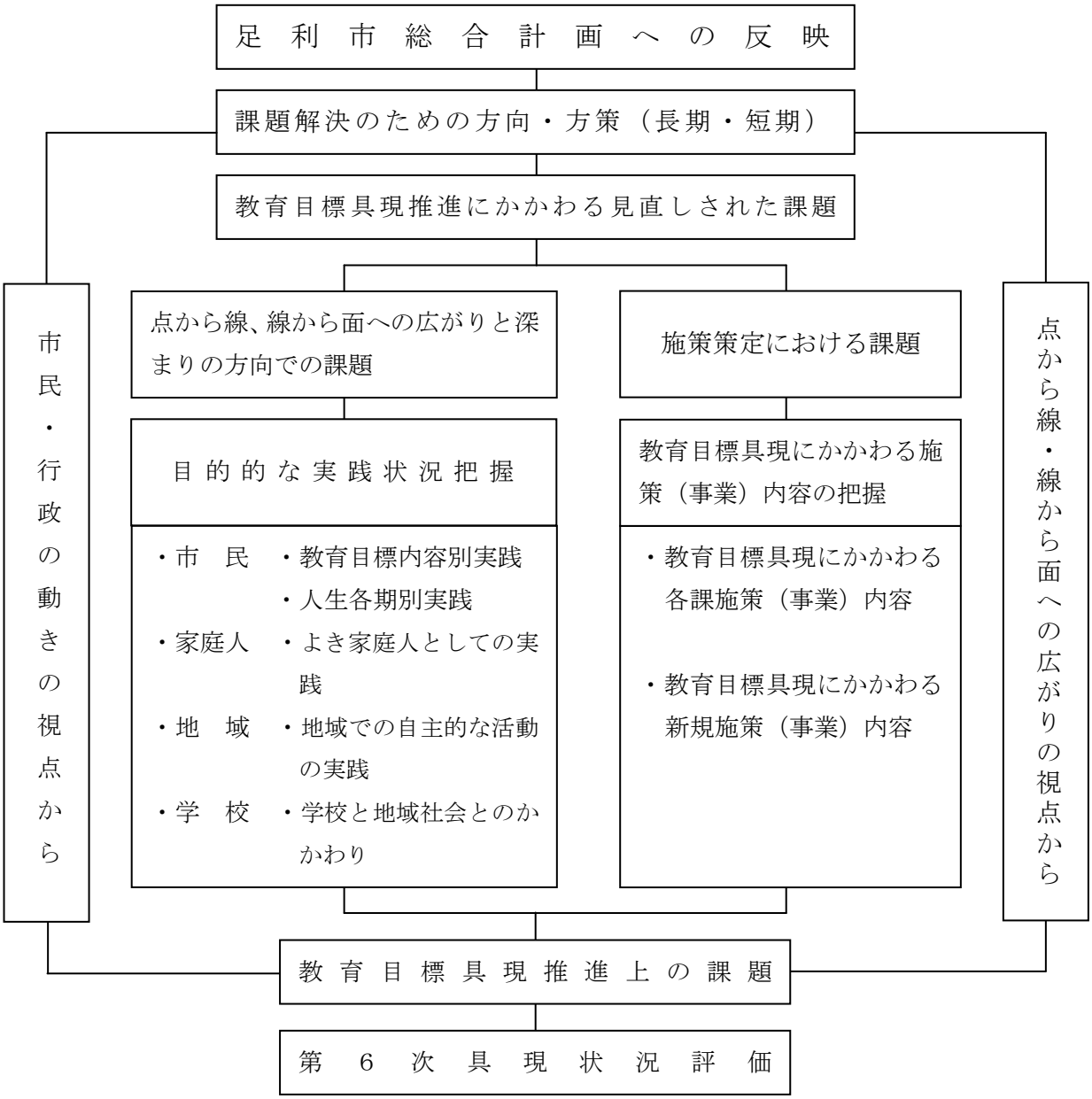
ウ　社会連帯感の育成　　エ　よき家庭人の育成　　オ　よき職業人の育成

カ　主体的な生活態度の育成　　キ　国際社会に生きる日本人としての自覚

②　教育目標に関する調査項目

ア　学習ニーズ、学習成果、地域への還元　　イ　家庭教育と地域の関わり

（４）　評　価　構　想



3 評 価 の 概 要

前述の評価の視点、評価構想に基づいて、次のような調査内容及び調査対象・方法等で実施した。

（１） 調 査 内 容

① 市民の目的的な生活実践状況について

「足利市の教育目標」は、７０の人生各期の教育目標からなり、さらに２０の集約内容（※P106参照）、そして７つの教育目標の柱に集約されている。

そこで、教育目標内容と調査内容及び調査対象との関連から設問を作成した。

（乳）乳幼児期（0～5･6歳）
（児）児童期（6･7～11･12歳）
（青）青年期（12･13～22･23歳）
（壮）壮年期（23･24～64歳）
（高）高齢期（65歳以上）

※調査対象について
小６・・・・小学６年児童
中３・・・・中学３年生徒
青年・・・・１７歳青年
壮年・・・・壮年期(20～64歳)
高齢・・・・高齢期（65歳以上）
家庭・・・・家庭人（幼稚園・保育所、小中学校に在籍している子どもの保護者）

柱	目標番号	人生各期にわたる教育目標	主な関連	調査 調査内容	調査 設問例(主なもの)	調査対象 小6	中3	青年	壮年	高齢	家庭
郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興	1	郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努める。（児～高）		① 足利学校に対する市民の意識	「日本最古の学校のあるまち足利」を誇りに思っていますか。	○	○	○	○	○	○
	2	動植物を愛し、自然に親しむ豊かな心を養う。（乳～児）									
	3	自然を敬い、感謝の気持ちを育てる宗教心を養う。（青～高）		② 郷土(地域)の自然に親しむ実践	近くの野山や川に出かけるなど自然に親しむことをしていますか。	○	○	○	○	○	○
健康・安全の保持増進	4	いろいろな運動を楽しみ、体力を身につける。（児）		③ 健康増進と保持のための実践	健康を保つため、運動(スポーツ)をしていますか。	○	○	○	○	○	○
	5	スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。（青）		④ 安全に必要な生活習慣の実践	あなたは、外で遊ぶとき、安全なところで遊んでいますか。	○	○				
	6	スポーツ、レクリエーションに親しみ、健康の増進に努める。（壮）									
	7	健康・安全に必要な基本的生活習慣や態度を身につける。（乳～児）		安全な生活実践と安全な生活環境づくりへの実践	道路や家のまわりなどの身近な場所の安全確認や、避難場所の確認をしていますか。			○	○	○	○
	8	交通安全のための習慣を身につける。（青）		5 健康管理の実践	あなたは、この1年間にどのスポーツを行いましたか。			○	○	○	○
	9	健康・安全な生活環境づくりに努める。（壮）		6 スポーツへの関心・意欲	今後行いたいと思うスポーツ(継続を含む)			○	○	○	○
	10	子供の健康・安全な生活態度を育てる。（壮）									
	11	健康・安全と体力の保持に努める。（高）		7 健康への基本的な生活習慣の実践	あなたの睡眠時間は1日平均どれくらいですか。	○	○				

○数字は定点観測の調査内容です。

柱	目標番号	人生各期にわたる教育目標		主な関連	調査 調査内容		調査 設問例(主なもの)	調査対象 小6	中3	青年	壮年	高齢	家庭
社会連帯感の育成	12	日常生活の中で、社会的に望ましい習慣や態度を身につける。	(乳)		⑧	足利市民としての自覚	ごみ出しの時、約束を守って出していますか。			○	○	○	○
	13	社会の一員としての自覚をもち、社会的態度を身につける。	(児)										
	14	個人または団体の利害だけにとらわれず、全体との調和を図っていくことができる。	(青～壮)		⑨	福祉の心(思いやりの心)の実践	お年寄りやからだの弱そうな人が安全に行動できるように、気配りや思いやりの心をもって接していますか。	○	○	○	○		○
	15	社会の一員としての役割を自覚し、責任ある言動をとる。	(青～壮)										
	16	地域の集団活動に積極的に参加し、自らの役割を果たす。	(壮～高)			若い人たちの気持ちの理解	若い人たちの意見を聞くようにしていますか。					○	
	17	時間を大切にし、時刻を守る。	(壮)		⑩	同和問題をはじめ人権問題解消への実践	人権問題の解消に向けて家族や身近な人たちと話し合いをしたことがありますか。	○	○	○	○	○	○
	18	友達と互いに協力し合うことができる。	(児)										
	19	相手の立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。	(青)		⑪	ボランティア活動への参加	ボランティア活動や地域の行事に参加していますか。	○	○	○	○	○	○
	20	友情の尊さを理解し、友達との交際の仕方を身につける。	(青)										
	21	自分と異なる信条・宗教・主張などを理解し、広い心で接することができる。	(壮)		12	地域で取り組むべき課題意識	地域でとりくむべき課題・問題として重要なものは、なんだと思いますか。			○	○	○	○
	22	若い世代の人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。	(高)										
	23	日常生活の中で善悪の区別がつけられる。	(乳)		13	環境美化への実践	外出したとき、自分で出したゴミを持ち帰るようにしていますか。	○	○	○	○	○	○
	24	道徳的な態度を身につけ、実践することができる。	(児～壮)		14	地域の子供たちへの要望	自分あるいは地域の子どもたちに対し地域の人たちにしてほしいことは、どのようなことですか。			○	○	○	○
	25	子供に日常生活の中で善悪の区別がつけられるようにする。	(壮)										
	26	友達のだれとでも、積極的に仲よく遊べる態度を身につける。	(乳)		15	がまんを通しての道徳的態度の実践	ほしいものがある時、家の人に「がまんしてね。」と言われた場合、がまんしていますか。	○	○				
	27	よりよい仲間づくりをするために、不合理な差別や偏見をもたないで生活することができる。	(児)										
	28	同和問題をはじめ、人権問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない民主的な人間関係をつくることに努める。	(青)		16	ボランティア活動の種類	この1年間にどのようなボランティア活動を行いましたか。			○	○	○	○
	29	同和問題をはじめ、人権問題を正しく認識し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。	(壮～高)										
	30	奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。	(児～青)		17	ボランティアへの関心・意欲	今後行ってみたいと思う内容(継続も含む)			○	○	○	○
	31	奉仕を通して生きがいがもてる。	(壮～高)										

○数字は定点観測の調査内容です。

柱	目標番号	人生各期にわたる教育目標	主な関連	調査 調査内容	調査 設問例(主なもの)	調査対象 小6	中3	青年	壮年	高齢	家庭
よき家庭人の育成	32	敬老の精神を身につけ実践する。（児～青）		⑱ 家族間におけるあいさつの実践	朝、家族の人にあいさつをしていますか。	○	○	○	○	○	○
				⑲ 家族揃っての食事の実践	朝食を家族の人たちといっしょにとっていますか。	○	○	○	○	○	○
	33	子供に敬老の精神を育てる。（壮）			夕食を家族の人たちといっしょにとっていますか。	○	○	○	○	○	○
				⑳ 家庭における役割分担の実践	家で決められたお手伝いをしていますか。	○	○				
	34	男女が協力して、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。（児）		21 地域の大人への要望	地域の大人にしてほしいことは、どのようなことですか。	○	○				
				㉒ 子育てのどこに力を入れるか	あなたの子供を育てている中で、現在特に力を入れているところは、どんなことですか。						○
	35	男女が互いの人格を認め合い、望ましい交際の仕方を身につける。（青）		23 がまんすることの実践	子供の希望に対して時期と内容を考えて、がまんさせることがありますか。						○
				24 家族間の会話の実践	あなたは学校から帰って、家の人に今日あったことを話していますか。	○	○				
	36	結婚の意義を理解し、健全な家庭生活を営む態度を身につける。（青）		25 子育てに関する意識の把握	子育てはうまくいっていると感じますか。						○
					子育てに不安や負担を感じますか。						○
	37	性について正しい理解をもち、家庭において指導することができる。（壮）			子育てのどのようなことに不安や悩みを感じますか。						○
				26 子供に関わる場面	学校行事に参加する。						○
	38	家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。（青～高）			子供と友達や先生について話をする。						○
					子供に一日の出来事を聞く。						○
	39	家庭や地域で行う行事に積極的に参加する。（児～青）			子供といっしょにでかける。						○
					PTAなど学校の仕事の手伝いをする。						○
	40	よい家風を受け継ぎ、さらに新しい家風をつくりあげていくことができる。（壮）		27 子育てに関する情報	しつけや、教育に関する情報をどこから得ていますか。						○
				28 家庭の教育力	家庭の教育力低下の原因はどのようなことだと考えられますか。						○
	41	人格の基本となる望ましい性格を身につける。（乳～児）		29 家庭教育への取り組みの意識	家庭教育を充実するには、どのような取り組みをしていけばよいと思いますか。						○
				30 子育てについての相談や学習	子育て相談（育児相談）						○
	42	子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。（壮）			子育ての学習（育児講座）						○
					親子の集い						○
よき職業人の育成	43	職業人としての自己研修にたえず努める。（青～壮）	45	㉛ 仕事に対する生きがい	自分の職業や仕事（勉強）に生きがいを感じることがありますか。			○	○	○	○
	44	職業人としての専門的技能や資格を身につける。（青～壮）									
	45	職業を通して生きがいがもてる。（青～壮）									
	46	勤労の尊さを理解し実践する。（児～青）									
	47	正しい職業観に立ち、自分に合った職業を選択するための能力を身につける。（青）									
	48	自分の仕事について家族に理解させる。（壮）									
	49	再就職では、身につけた知識や技能を生かすことができる。（高）									
	50	資源の開発と活用を図り、産業の発展に努める。（青～壮）									

○数字は定点観測の調査内容です。

柱	目標番号	人生各期にわたる教育目標		主な関連	調査 調査内容		調査 設問例(主なもの)	調査対象 小6	中3	青年	壮年	高齢	家庭
主体的な生活態度の育成	51	身近な事物現象に興味・関心をもつ。	(乳)		㉜	基礎的な知識や技能の習得と主体的な学習態度の育成	疑問に思ったことや分からないことに出会ったときどうしていますか。	○	○				
	52	基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。	(児～青)		㉝	水や電気、ものの節約	水や電気、ものを大切に使っていますか。	○	○	○	○	○	○
	53	基本的な生活行動を自分の力で進んで行う態度を身につける。	(乳)		34	家庭での学習と学習塾についての現状	毎日、家でどのくらい学習していますか。(塾は含まない)	○	○				
	54	基本的な生活習慣を身につけ、自ら考え正しく判断し行動することができる。	(児)				学習塾(国語や算数、英語など)に通っていますか。	○	○				
	55	日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。	(青)				週に何日くらい塾で勉強していますか。	○	○				
	56	社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努める。	(壮)				週に何時間くらい塾で勉強していますか。	○	○				
	57	高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。	(高)		35	家での読書に関する実践	家に帰ってから1日平均どれくらい読書しますか。	○	○				
	58	自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。	(児～青)		36	生涯学習の実践状況	最近1年間に生涯学習活動をどの程度行いましたか。			○	○	○	○
	59	困難にくじけず、ねばり強くやり遂げる態度を身につける。	(児)		37	生涯学習の活動形態	どのような生涯学習活動を行っていますか。			○	○	○	○
	60	将来を見通して計画的な生活をする。	(青～壮)				どのようなサークル等に入っていますか。			○	○	○	○
	61	ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。	(乳～高)		38	学習成果の活かし方	学習活動の成果をどのように活かしたいと思いますか。			○	○	○	○
	62	余暇を有効に過ごす。	(児～青)		39	生涯学習ができない理由	生涯学習活動を全く行わなかった理由はなんですか。			○	○	○	○
	63	進んで計画的に余暇を活用する。	(壮～高)		40	生涯学習情報について	生涯学習に関するどのような情報を得たいですか。			○	○	○	○
	64	身のまわりの情報を整理し、活用する能力を身につける。	(児～青)		41	生涯学習の活動内容	この1年間にどのような内容の学習や活動をしましたか。			○	○	○	○
	65	情報を的確にとらえ、自ら正しく判断し、活用できる。	(壮)		42	生涯学習への関心・意欲	今後学習したいと思う内容(継続を含む)			○	○	○	○
	66	高齢者としての役割を認識し、情報を若い世代に伝えることができる。	(高)		43	生涯学習の時間帯	主に生涯学習活動をしている時間帯はいつですか。			○	○	○	○
					44	読書の量に関する実践	平均して年に本を何冊(雑誌・漫画は含まない)読みますか。			○	○	○	○
					45	資格への関心・意欲	どのような資格を取得したいですか。			○	○	○	○
					46	携帯電話の所持率と利用状況	スマートフォンや携帯電話、タブレットをもっていますか。	○	○				
							一日平均どれくらい、スマートフォンや携帯電話、タブレットを使っていますか。	○	○				
					47	各種講座に関する実践	夏休みなどに公民館や大学等が主催している各種の講座に参加していますか。	○	○				
							どの講座(塾は除く)に参加していますか。	○	○				
							どのような講座があるとよいと思いますか。	○	○				
					48	漫画やテレビ、ゲームに関すること	家に帰ってからどれくらいマンガやテレビを見ていますか。	○	○				
							1日平均どれくらい、ゲーム(TVゲームなど)をしていますか。	○	○				
					49	平日の自由時間について	平日の1日の中で自由に自分のことに使える時間は、平均してどれくらいありますか。			○	○	○	○
					50	休日の自由時間について	休日の1日の中で自由に自分のことに使える時間は、平均してどれくらいありますか。			○	○	○	○
国際社会に生きる日本人としての自覚	67	日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。	(児～青)		㊿	主体的な情報活用の実践	外国について積極的に知識や情報を得るために、テレビやインターネット、雑誌などを見ていますか。			○	○	○	○
	68	日本に対する愛情を深めるとともに、世界的視野に立って広く考えることができる。	(壮)										
	69	国際社会における郷土の産業の果たす役割を正しく理解できる。	(壮)		52	英会話の実践状況	ALT(外国語指導助手)などの外国人に会ったとき、自分から進んであいさつや会話をしていますか。	○	○				
	70	国際感覚の上に立って、世界の高齢者の生き方を学ぶことができる。	(高)										

②　教育目標具現と各課施策（事業）内容について

「足利市の教育目標」を具現推進していくためには、それらを所管する関係各課が、自らの主体性を確立しつつ、互いに連携し合い、有効な施策を策定していかなければなりません。

そこで、教育目標具現にかかわる関係各課の施策（事業）についての調査を、次の調査項目で実施しました。

1　教育目標具現にかかわる関係各課名

2　各課の取り組み

○　施策（事業名）　　○　ねらい・内容等

○　対　象　　○　実施時期　　○　教育目標との関連

○　調査内容との関連

（2）調査対象・調査方法・配布数等　　調査時期　平成26年1月～2月

調査内容		調査の種類	対　象	調査方法	配布数	有効回収数	有効回収率	平均有効回収率
市民の目的的な生活実践状況	個人としての動き	小学校6年児童における自主的な生活実践に関する調査	小学校6年児童	留め置き法	315 (648) 人	311 (643) 人	98.7 (99.2) %	63.3 (65.2) %
		中学校3年生徒における自主的な生活実践に関する調査	中学校3年生徒		184 (349) 人	173 (336) 人	94.0 (96.3) %	
		青年期の方々の自主的な生活実践に関する調査	青年期 (17歳青年) 高等学校2年生徒		200 (447) 人	200 (430) 人	100 (96.2) %	
		壮年期の方々の自主的な生活実践に関する調査	壮年期 (20～64歳) 抽出市民	郵送法	1,020 (1,930) 人	431 (741) 人	42.3 (38.4) %	
		高齢期の方々の自主的な生活実践に関する調査	高齢期 (65歳以上) 抽出市民		817 (1,590) 人	330 (740) 人	40.4 (46.5) %	
		よき家庭人としての生活実践に関する調査	保護者 (幼稚園、保育所・園、小学校、中学校に在籍している子供の親)	留め置き法	576 (1,128) 人	525 (1,082) 人	91.1 (95.9) %	
		個人としての動き合計　平成26年1～2月調査 (平成21年1～3月調査)			3,112 (6,092) 人	1,970 (3,972) 人	63.3 (65.2) %	
施策（事業）の動き		教育目標具現と各課施策（事業）調査	関係各課	留め置き法	調査依頼総数　63課（外郭団体等を含む） 行政各課　45課（課内室を含む）			

（　）は、第6次調査時の数字

Ⅱ「足利市の教育目標」具現にかかわる課題
総　　括

足利市民の教育への願いが結集された、市民参加による「足利市の教育目標」（昭和５６年）が策定されて３４年が過ぎようとしています。目標策定から今日に至るまで、市民の各種組織・団体の代表からなる「足利市生涯学習推進委員会」と、市長を本部長とする全庁的な「生涯学習推進本部」を中心に、教育目標具現にかかわる数多くの自主的な活動や施策・事業が展開されてきました。

平成１８年度に、「足利市生涯学習センター」が開設され、平成２５年には同様の施設として「さいこうふれあいセンター」がオープンしました。これら施設を生涯学習活動の拠点とし、高等機関連携講座やサマーティーチングプログラム等の学習の機会や各学習情報の提供等、市民の学習活動を総合的に支援しております。また、市内１７公民館を核として講座を開催し、多様化する市民の学習ニーズにきめ細かく対応するなど、生涯学習や市民活動を通した心豊かな人づくりが推進されています。

このような中、「足利市の教育目標」具現化の状況を的確に把握することによって、本市における今後の生涯学習推進への課題と確かな展望が見い出せるものと考えます。そこで、第７次具現状況評価構想に基づき、市民各層を対象にアンケート調査を実施いたしました。

なお、調査内容については、「足利市の教育目標」に関する調査項目とし、第６次具現状況調査以降の国の動向や市の施策等の変化を明らかにし、足利市総合計画に反映できるものとしました。

本調査の結果のうち、前回の第６次具現状況評価報告書（平成２２年３月発行）の結果と比較すると、次のような変化が見られます。

○郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興

郷土（地域）の自然に親しむ実践及び足利学校に対する市民の意識については、やや高くなっています。

○健康・安全の保持増進

運動に親しむ実践及び安全な生活実践と安全な生活環境づくりへの実践では、高くなっています。

○社会連帯感の育成

ごみの回収及び省エネやリサイクルの実践、お年寄りや体の弱い人への思いやりの実践及び同和問題をはじめとする様々な人権問題解消への実践は、高くなっています。

○よき家庭人の育成

家庭におけるあいさつの実践、家庭での役割分担についてや家族そろっての食事については、高くなっています。

○よき職業人の育成

自分の職業や仕事への生きがいについては、やや高くなっています。また、青年期、壮年期、高齢期と年代があがるにつれて高くなる傾向にあります。

○主体的な生活態度の育成

小中学生に対する「問題点・不明点の対応」については、「進んで解決する」と回答した小学６年は、第６次調査に比べると低くなっていますが、中学３年では高くなっています。

○国際社会に生きる日本人としての自覚

世界の国々に対する関心については、前回とほぼ同様で、約８０％の人が外国についての知識を得るために、テレビ、インターネット、雑誌等を見ています。小中学生については、ＡＬＴ（外国語指導助手）などの外国人にあったとき、自分から進んであいさつや会話をしている人の実践は、約８０％となっています。

「足利市の教育目標」は、市民一人一人が、人生各期において心の豊かさを求めて、生きがいをもった生活を送りながら、生涯にわたって主体的に学び続けることのできる生涯学習のまちづくりを推進していくことを目指しています。

今回の第７次具現状況調査を通して、人口の減少と超高齢化社会を迎えたことに加え、国際化、情報化、科学技術の高度化、価値観の多様化など、社会情勢の著しい変化が市民の生活や意識に様々な影響を及ぼしていることが、調査結果から読み取れます。

しかしながら、市民は、足利の豊かな自然、歴史、文化の中で、自学自習の風土、進取の精神に根ざした力強い生活実践を積み重ねています。だからこそ、これからの足利の生涯学習社会を展望するとき、第７次具現状況評価の結果に現れた事実を真摯に受け止め、市民の学習欲求に沿った施策を策定していくことが一層重要となります。

１　郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興

生活の基盤である郷土をよく理解することは、その土地に住む人々にとって重要なことです。特に、郷土の文化や文化財を愛し、文化の保護・振興に努め、後世に伝えることは、現在の私たちにとって大きな使命であり、また、豊かな人間性を育てる上からも大切なことです。

本市においては、市民憲章で「足利市は日本最古の学校のあるまちです。」と掲げ、教養を深め、文化のかおり高いまちをつくり、すぐれた伝統を発展させるとともに、「足利市は美しいまちです。」と謳い、めぐまれた自然の愛護に努めることを目指しています。

自然に親しむ実践について、第７次具現状況調査と第６次調査の結果を比べると、小学６年では、月に２回以上いっていると回答した人は５．３％減となりましたが、月に１回程度を含めると４％増という結果になりました。また、中学３年では、月に２回以上いっていると回答した人は７．３％増で、前回比２．２倍となりました。青年期、壮年期、高齢期、保護者では月に２回以上と月に１回程度を合わせると、それぞれ前回よりも実践状況が高くなっています。人生各期別にみてみると、高齢期が６１．８％と実践状況が高く、一番低かったのは２４．５％の青年期という結果になりました。

足利学校に対する市民の意識については、「大変誇りに思う」「誇りに思う」と回答した人が各年代とも前回より高くなっています。特に青年期で「誇りに思う」と回答した人は、前回比２０．６％増で、「大変誇りに思う」と合わせると２５．１％増という結果となりました。

足利学校においては、復原建物を生涯学習の場として、足利学校コンサートなどの講座が開催され、数多くの市民が参加しています。小中学生においても足利学校を利用し、論語の素読体験を行っております。足利学校を拠点とした学習の場が広がることにより、市民意識が一段と高まってきたと考えられます。

今後も、自学自習の場として、また、市内（地域）の自然や文化資源との関連や高等教育機関との連携を大切にすることにより、市民意識が一層高まることが期待されます。このようなことから、今後の課題として次のようなことがあげられます。

○　若い世代を中心に郷土の文化に対する理解の高まりがみられることは、望ましいことです。今後も、伝統的行事の意味や由来を伝承する機会を充実させることが必要です。

○　生涯学習によるまちづくりの観点から、郷土の文化に対する理解、保護、伝承に対する市民の意識を高めるために、今後も郷土の文化や歴史的遺産を継承する場において世代間の交流を推進することも必要です。

○　各種の自然体験や環境保護・保全に関する学習の機会を充実し、郷土の自然環境に関心をもち、自然を保護するための意識や実践を向上させることが必要です。

２　健康・安全の保持増進

生きがいのある人生を築いていくためには、生涯を通して自分自身の健康や安全の管理に努め、運動を生活の中に取り入れることにより、健康や体力を保持増進し、生活の質の向上と充実に努めることが大切です。

健康増進と保持のための実践について第７次具現状況調査と第６次調査の結果を比べると、全体的傾向では「いつもしている」「ときどきしている」を合わせると、１２．４％増となっています。特に壮年期、高齢期ではそれぞれ、１８．２％増、１６．５％増となっています。

また、危険な場所や災害等から身を守るでは「いつも心がけている」「ときどき実行している」を合わせると、全体的傾向ではプラス２６．２％高くなっています。特に小学６年では「いつも心がけている」が前回に比べて２０．４％増となっています。

前回から、調査を行っている睡眠時間については、小学６年の約６４％が７時間から９時間の睡眠をとっており、中学３年の約５４％が５時間から７時間の睡眠をとっていることがわかりました。

このことから、今後の課題として、次のようなことがあげられます。

○　超高齢化社会を迎え、人生各期において健康・体力づくりに対する関心が高まっています。高齢者の自立と生きがいづくりをはじめとした、人生各期のニーズに応じた健康・体力の増進に努める必要があります。

○　市民一人一人のスポーツやレクリエーションに親しむ実践をより充実、拡大させるために、多様化する市民のニーズに対応できる各種のプログラムの提供、指導者やスポーツコーディネーターを介した、市民の自主的で組織的な活動を今後も充実させていくとともに、運動施設の整備充実に努める必要があります。

○　東日本大震災以降、災害・防災に対する市民意識も高くなっており、自らの命を守ることや、命を大切にするということから、日常生活における安全点検と家庭や地域における防災訓練に積極的に参加することが必要です。

○　不審者等による子供や女性への犯罪が重大な社会問題となっていることから、家庭や学校、地域においても、それぞれの安全教育と安全思想のより一層の普及に努める必要あります。

○　小中学生の睡眠時間については、睡眠時間が短い児童生徒もいることから、今後、適切な睡眠時間をとるよう指導していくことが必要です。

３　社会連帯感の育成

私たち一人一人が社会の構成員としての自覚をもち、権利と義務の正しい認識のもとに、よりよい地域社会の形成に参加できるようになることが大切です。そして、自分も他人も共に生かすことができる社会連帯感を高め、偏見や差別のない住みよい地域社会の実現を目指すことも極めて大切です。

環境美化への実践、ゴミ回収時の約束については、第 7 次具現状況調査と第 6 次調査の結果を比べると、「いつも約束を守っている」と回答した人が、全体的傾向から見ても約９２％で、前回と比較して５．５％増となっています。特に青年期では「いつも約束を守っている」と回答した人が約８３％で、前回に比べ２５．４％も増加しています。福祉の心の実践における、お年寄りやからだの弱そうな人への気配りや思いやりの実践については、「いつもしている」「ときどきしている」ともに僅かではあるが前回より高くなっています。人生各期別でみてみると、壮年期、保護者では僅かに低い数値となりましたが、中学３年では１０．５％、青年期では１２．９％と前回より高くなっています。同和問題をはじめ、人権問題解消への実践における家族や身近な人たちとの話し合いについては、「したことがある」と答えた人が全体でも６５％で、前回に比べ１７．１％高く、人生各期別でみると小学６年では３０．５％、中学３年では３３．８％、青年期では２７％と大きく向上しました。この要因として家庭教育や学校教育を通して、差別や偏見を許さない感性やそれを態度に表す実践力が育っていると考えられます。また、がまんを通しての道徳的態度の実践では、小学６年で約６６％、中学３年で約５４％が「がまんできる」と回答していました。

このことから、今後の課題として次のことがあげられます。

○　地域社会において自治意識や自主活動をより一層高揚し、お互いに声をかけあい、協力できるよう防犯などの地域活動の活発化を促す必要があります。

○　同和問題をはじめ、人権問題の解消を目指して、学校教育、社会教育、家庭教育の連携を密にし、話し合いの場をとおして、同和問題をはじめ、様々な人権問題に対する正しい認識を深める啓発を、今後一層推進する必要があります。

○　児童期や青年期においては、ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験や、地域ぐるみの実践活動を大切にし、青少年の地域への関わりの場を広げていく必要があります。

４　よき家庭人の育成

価値観の多様化、人口の減少と超高齢化及び核家族化の進行などにより、家庭の生活機能の低下が問題とされる現状にあって、家族がそれぞれの立場を理解し、協力し、互いに尊重し合って明るい家庭を築くことが大切となっています。特に、学校週５日制の定着、女性の社会進出に伴い家庭や地域の役割が重要視されています。そのため、家庭教育の意義と役割を認識し、子供の人格のもととなる望ましい生活習慣を育てる必要があります。

今回の第７次具現状況調査と第６次調査の結果を比べると、家族間におけるあいさつの実践は、全体的傾向では７.５％増となっています。中学３年では約６２％、保護者においては約９４％の実践状況がみられます。また、家庭での役割分担の実践は、全体的傾向をみると約８８％で、前回と比べて５.２％増となっています。家族そろっての食事の実践では、朝食で約８％、夕食では約６％と、前回より高くなっています。高齢期では、前回より朝食、夕食とも約５％減少しています。家族の中で、高齢者との関わりを考えていく必要があると思われます。

このようなことから、今後の課題として次のようなことがあげられます。

○　家庭教育学級、家庭教育相談、男女共同参画社会実現のための学級の充実をとおして、父親・母親・祖父母などに対する学習機会の提供を一層進めるとともに、家庭の教育機能の向上を目指した内容の充実を図る必要があります。

○　雇用制度や形態の変化及び人口減少と超高齢化社会が進展する中で、家族の団らんなど、「いこいの場」や「人間関係を育てる場」を中心とした家庭の機能を充実させ、それぞれの家庭において、家族のふれあいを大切にしていくことが必要です。子供の発達や実情に即した各種施設の活用や学習機会の提供をより一層促進するなど、子供の健全な成長を目指し、社会教育、家庭教育及び学校教育が連携・協力し合う、一体的な支援体制を整備する必要があります。

○　明るい家庭づくりや女性が社会進出をするための家事の分担や男女の協力、家庭における自分の役割の自覚などについて、学校と家庭がより一層連携を深め、子供の豊かな人格形成のために体験活動を重視した指導や家庭教育の意義と役割の認識とその実践に努める必要があります。

５　よき職業人の育成

情報通信技術（ＩＣＴ）の進展、産業構造の変化、雇用制度や形態の変化に伴い、自らの人生を主体的に、よりよく生きていくために、職業人としての資質の向上に努めることは極めて大切なことです。

そのため、就職時における能力や適性に応じた職業の選択、職場における使命感や生きがい、職業人としての研修、高齢者の再就職や社会参加の促進など、よき職業人の育成に努める必要があります。

今回の第７次具現状況調査と第６次調査を比べると、仕事（勉強）に対する生きがいについては、「いつも感じている」「時々感じる」とも、やや高い傾向にあります。年代別にみると、青年期、壮年期、高齢期と年代が高くなるにつれて、増加傾向にあります。また、高齢期で「生きがいを感じる」と回答した人は、約５０％になります。しかし、青年期は他の年代と比べると、意識は低くなっています。

このようなことから、今後の課題として、次のようなことがあげられます。

○　今後、ますます進む情報化、技術の高度化、雇用形態の変化に合わせ、資格取得のために講座など、各種セミナーや研修会、講座等の内容の充実・拡大に努める必要があります。また、参加をより一層促進していくとともに、学習需要の増大に対応できる多様な学習の機会を整備・充実し、さらに雇用の拡大を図る必要があります。

○　ニートなどが社会問題となっている現在、小学校、中学校、高等学校におけるキャリア教育においては、児童生徒の能力・適性からみた自己理解を深めさせ、自立への道を拓かせるよう一層工夫する必要があります。

○　高齢者の多くが、自分のもつ力を生かすことによって社会参加し、生きがいを得ることを求めていることから、シルバー人材センターが行う各種事業等の一層の拡大・充実を図るなど、高齢者の身に付けた知識や技術、豊かな経験を生かせる場や機会を設定し、その能力や資質、活力を一層生かしていくことが必要です。

６　主体的な生活態度の育成

今日の激しい社会変化の中では、生涯にわたって自ら学び続け、社会の変化に主体的に対応する資質や能力を向上させていくことが求められています。

特に、人口の減少と超高齢化の進行、科学技術の高度化、国際化の進展など、社会が大きく変化しており、とりわけ情報通信技術（ＩＣＴ）の進歩は目覚ましいものがあります。そこで、生涯学習の観点から自ら学びとる意欲と態度を育てるとともに、多くの知識や情報の中から必要なものを選択し習得することが大切であり、情報通信機器を適正に使用することも求められています。また、市民の学習機会に対する要求は、多様性、専門性を求める傾向にあります。

今回の第７次具現状況調査と第６次調査を比べると、小中学生に対する「問題点・不明点の対応」について全体的傾向は、「いつも進んで解決しようとしている」がほぼ同様の数値でした。学習などで疑問に思ったことを進んで解決しようとしている小中学生は約３５％で、全体の３分の１にとどまっています。水や電気、ものの節約については、全体的傾向は、「むだにしないように使う」が約４２％でした。人生各期別にみると、年代が高くなるにつれ実践状況が高くなっています。青年期、壮年期、高齢者、保護者に対する生涯学習の実践状況の調査では、全体的傾向は「頻繁に行った」「よく行った」「時々行った」を合わせると５０％を超えており、年代が高くなるにつれて、実践状況が増加傾向にあります。小中学生に対する、夏休みなどに公民館や大学等が主催している各種講座への参加状況については、小学６年では約２１％、中学３年では４％の実践状況がみられます。今後、どのような講座があるとよいと思うかという調査では、小中学生とも一番多かったものはスポーツ講座という結果になりました。スマートフォンや携帯電話等の所持率については、小学６年で５５％、中学３年で約７１％となっています。また、一日平均の使用時間については、中学３年では１時間以上が約５３％となっています。

このようなことから、今後の課題として次のようなことがあげられます。

○　生涯学習において、主体的で目標をもった生活実践を進めるために、市民のニーズにあった専門性を高める各種講座の充実を図るとともに、興味・関心にもとづき個性の伸長が図れる小中学生を対象とした各種学習講座のより一層の充実を図る必要があります。

○　情報発信等の学習機会の場を充実させるために、生涯学習センターやさいこうふれあいセンター及び公民館や教育関係施設のネットワーク化の充実にさらに努めるとともに、市民のニーズに応じた講座の開設などに努める必要があります。

○　家庭・各教育機関・地域の連携のもとに、ものの使い方、ものの整理、自分のライフスタイルに合わせた余暇の過ごし方、リサイクル等の生活習慣の啓発に努める必要があります。

○　小中学生のパソコン、スマートフォン、ゲーム機等の使用における個人情報の漏えい、誹謗中傷やいじめにつながる問題も指摘されております。また、これらを長時間使用することによる学力の低下や健康への影響も考えられることから、学校や家庭において、ルールやマナーについての指導が必要です。

７　国際社会に生きる日本人としての自覚

世界の国々においては、経済的・文化的・宗教的な相違から、今後、国際化の進展において質的な交流の在り方が重要になってきます。多様な価値観が存在する中で世界の国々がともに発展していくためには、世界中の人々がそれぞれ国際社会の一員としての責任を果たしていくとともに、相互の立場を尊重し、理解していく必要があります。

今回の第７次具現状況調査と第６次調査を比べると、世界の国々に対する関心の全体的傾向は、　僅かに向上しています。年代別に見ると、青年期において外国の知識を得るためにテレビやインターネット、雑誌などを「よく見る」は、１０.７％増加し、国際化の関心度の高さがうかがえます。人生各期別にみると、年代が上がるほど外国の知識を得るためにテレビ、インターネット、雑誌を見ている割合が高くなる傾向があります。

また、小中学生に対して、ＡＬＴ（外国語指導助手）などの外国人に会ったとき、自分から進んであいさつや会話をしていますかという調査では、「いつも進んでする」「ときどきする」は約８０％で、高い実践状況になっています。

このようなことから今後の課題として次のようなことがあげられます。

○　国際化の進展とともに人生各期において、英語を中心とした外国語を学び、国際理解をより一層深めていく必要があります。若い世代の英語を中心とした外国語によるコミュニケ―ション能力を高めるために、小中学生においては、今後も英語教育をより一層充実させていくことが求められております。

○　外国と足利との文化的交流に視点をあてた国際交流を一層推進する中で、足利の「よさ」を再認識するとともに、各国の文化に関する情報の収集・展示、情報の提供、各種イベントの充実をより一層図る必要があります。

８ 地域で取り組むべき課題と子どもの健全育成の意識について

今日、社会情勢の急激な変化に伴い、市民の生活が著しく変化してきています。特に、核家族化による家族の絆の希薄化や老人の孤独化等については、無縁社会・単身化社会問題の原因として指摘されています。さらには、情報通信ネットワークのめざましい発展に伴い生活の中に大量の情報が生み出され、様々な情報を容易に手に入れられる反面、個人情報の流失や有害性のある情報の取得等の問題もあり、情報を主体的に正しく見分け、適切に判断し、利用する能力も求められています。また、家庭の教育力低下の原因として「携帯電話等の悪い影響」がアンケート調査の中でも１番に上げられています。

日々の生活は物質的に豊かになり、人々は便利な生活を享受しています。このような生活環境の変化に伴い、自由時間の増大などのプラスの面が生じてきている一方、多くの課題が提起されています。特に、子供たちの健全育成については、学校週５日制による余暇の過ごし方、規範意識の欠如、ニートやひきこもり、虐待など、深刻な社会問題となっているものがあり、これは家庭、地域、学校、行政が一丸となって取り組まなければならない課題です。このような状況に対して、市民がどのように認識しているのかについて実態を把握し、よりよい地域社会を築いていくための生活実践に結びつけていくことが大切です。

そこで、第７次具現状況調査においては、各地域で取り組むべき課題や、子供たちの健全育成のための市民の意識について、調査を行いました。地域で取り組むべき課題については、全体的傾向として「防犯」が一番重要であるという結果でした。また、人生各期別にみると、青年期においては「迷惑行為対策」が次に多く、壮年期では「暮らし」「高齢化」について、高齢期では「高齢化」、保護者では「暮らし」「地域の教育力」が課題として出されています。また、青年期から高齢期、保護者を対象とした「地域の子供たちへの要望」については、「悪いことや危険なことをした時には、注意してほしい。」が最も高く、「道で会ったときに声をかけてほしい。」が次に高い結果となっています。これは、地域全体で子どもたちを見守り育てていくことが大切であることの現れです。小中学生を対象とした「地域の大人への要望」については、「子ども扱いしないで、子どもの意見をしっかり聞いてほしい。」というのが一番多い結果でした。その次に多い意見は、「子どものことをあれこれ言う前に、おとな自身がきちんとしてほしい。」でした。

このようなことから、今後の課題として次のようなことがあげられます。

○　「防犯」については、様々な社会問題が増加していく中で、殺人などの命に関わる事件も後を絶たない深刻な問題です。すべての地域で子どもからお年寄りまで、安心して生活していくためには、今まで以上に市内全域で安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。

○　教育力の相互補完・連携については、地域の人と子供が接する機会や共に活動できるような場の設定など、学校、家庭、自治会や青少年育成団体、行政などの関係機関・団体が連携協力し合い、子供のよりよい成長・発達のために一層支援体制を整備していく必要があります。

○　世の中で起こる様々な変化や影響を敏感に受けるのは、いつの時代も子供たちです。そうした子供たちは、身近な大人が模範であり、まねをすることで社会性を身につけていきます。子供の変化は社会を形成する我々にあると捉えて実践していくことが重要となります。

９　行政各課の取り組みについての課題

本市では、「足利市の教育目標」の具現化を図ることが、「生涯学習社会」の実現に通じることと位置づけて、その推進に努めてきました。それは、個人あるいは市民を中心とした組織、団体の実践を通して具現化されるもので、市民の自主性、主体性が、その基本となっています。しかし、「足利市の教育目標」の設定の当初やそれ以後、その具現推進や、そのための条件整備などについて、行政が先導的な役割を果たしてきたのも事実です。

「足利市の教育目標」の設定以後、行政各課では、教育目標具現推進のための多くの新規施策を実施してきました。その内容や方法、対象、規模等は様々であり、一概に数量化することは困難ですが、一例として、教育目標７つの柱と事業数の関係をみると下記のようになっています。

Ｎｏ	教育目標７つの柱	事業数(H21)	事業数（H26)	増　減
１	郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興	６６	６６	０
２	健康・安全の保持増進	１１９	１１７	－２
３	社会連帯感の育成	９８	９５	－３
４	よき家庭人の育成	３５	４３	＋８
５	よき職業人の育成	７１	６３	－８
６	主体的な生活態度の育成	１２３	１１５	－８
７	国際社会に生きる日本人としての自覚	４０	３０	－１０
合　　計		５５２	５２９	－２３

上記の表をみると、前回の調査より事業数は減少していることがわかります。しかし、事業の内容を見てみると、行政各課が教育目標具現推進のために実施してきた事業が、当初の目標を達成したことにより終了しているものもあり、より精選した形で施策を実施することでさらに教育目標の具現推進に取り組んでいます。

市民の生活に密着した身近な課題や、今日的な課題等に関連して、「よき家庭人の育成」の事業が増加しています。子育て支援をはじめ、家庭教育推進事業や親子のふれあい事業などが多く実施されています。

また、東日本大震災以降、防災に対する市民意識も高まり、重要と思われることから、「健康・安全の保持増進」の事業として、防災関連の事業も新規に行われています。

これらのことから、今後の課題として、次のことが考えられます。

○　市民参加により生涯学習を理念として設定された「足利市の教育目標」の具現化を進めるため、様々なニーズに応じた市民の主体性、自主性を育成していくプログラムの導入が必要です。

○　各課実施の施策・事業について総合的に検討及び見直しを実施し、各施策事業をより効果的に運営することが必要です。

○　生涯学習の基礎を培うために、地域や家庭の教育力の回復を図りながら、「よき家庭人の育成」を目指して、家庭教育、学校教育、社会教育の連携のもと、施策・事業を実施することが望まれています。

第　　2　　部

第　2　部

調査結果の概要

教育目標内容の柱	調査番号	調　査　内　容	対象	ページ
郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興	①	足利学校に対する市民の意識	(全)	P34～35
	②	郷土（地域）の自然に親しむ実践	(全)	P36～37
健康・安全の保持増進	③	健康増進と保持のための実践	(全)	P38～398
	④	1　安全に必要な生活習慣の実践 2　安全な生活実践と安全な生活環境づくりへの実践	(小・中) (青～高・保)	P40～41
	5	健康管理の実践	(青～高・保)	P42
	6	スポーツへの関心・意欲	(青～高・保)	P43
	7	健康への基本的な生活習慣の実践	(小・中)	P44～45
社会連帯感の育成	⑧	足利市民としての自覚	(青～高・保)	P45～46
	⑨	1　福祉の心（思いやりの心）の実践 2　若い人たちの気持ちの理解	(全) (高)	P47～48
	⑩	同和問題をはじめ人権問題解消への実践	(全)	P49～50
	⑪	ボランティア活動への参加	(全)	P51～52
	12	地域で取り組むべき課題意識	(青～高・保)	P53
	13	環境美化への実践	(全)	P54
	14	地域の子供たちへの要望	(青～高・保)	P55
	15	がまんを通しての道徳的態度の実践	(小・中)	P56
	16	ボランティア活動の種類	(青～高・保)	P57
	17	ボランティアへの関心・意欲	(青～高・保)	P58～59
よき家庭人の育成	⑱	家族間におけるあいさつの実践	(全)	P59～60
	⑲	家族揃っての食事の実践	(全)	P61～62
	⑳	家庭における役割分担の実践	(小・中)	P63～64
	21	地域の大人への要望	(小・中)	P65
	㉒	子育てのどこに力を入れるか	(保)	P66
	23	がまんすることの実践	(保)	P67
	24	家族間の会話の実践	(小・中)	P68
	25	子育てに関する意識の把握	(保)	P69
	26	子供に関わる場面	(保)	P70～71

よき家庭人の育成	27	子育てに関する情報	(保)	P 72
	28	家庭の教育力	(保)	P 73
	29	家庭教育への取り組みの意識	(保)	P 74～75
	30	子育てについての相談や学習	(保)	P 75～76
よき職業人の育成	㉛	仕事（勉強）に対する生きがい	(青～高・保)	P 77～78
主体的な生活態度の育成	㉜	基礎的な知識や技能の習得と主体的な学習態度の育成	(小・中)	P 78～79
	㉝	水や電気、ものの節約	(全)	P 80～81
	34	家庭での学習と学習塾についての現状	(小・中)	P 82～83
	35	家での読書に関する実践	(小・中)	P 84
	36	生涯学習の実践状況	(青～高・保)	P 85～86
	37	生涯学習の活動形態	(青～高・保)	P 86～87
	38	学習成果の活かし方	(青～高・保)	P 88
	39	生涯学習ができない理由	(青～高・保)	P 89
	40	生涯学習情報について	(青～高・保)	P 90
	41	生涯学習の活動内容	(青～高・保)	P 91
	42	生涯学習への関心・意欲	(青～高・保)	P 92
	43	生涯学習の時間帯	(青～高・保)	P 93
	44	読書の量に関する実践	(青～高・保)	P 94
	45	資格への関心・意欲	(青～高・保)	P 95
	46	携帯電話の所持率と利用状況	(小・中)	P 96
	47	各種講座に関する実践	(小・中)	P 96～98
	48	漫画やテレビ、ゲームに関すること	(小・中)	P 99
	49	平日の自由時間について	(青～高・保)	P 100
	50	休日の自由時間について	(青～高・保)	P 101
国際社会に生きる日本人としての自覚	㊿	主体的な情報活用に実践	(青～高・保)	P 102～103
	52	英会話の実践状況	(小・中)	P 104

※調査番号の〇数字は定点観測調査（第6次調査データとの比較）、それ以外は新規調査

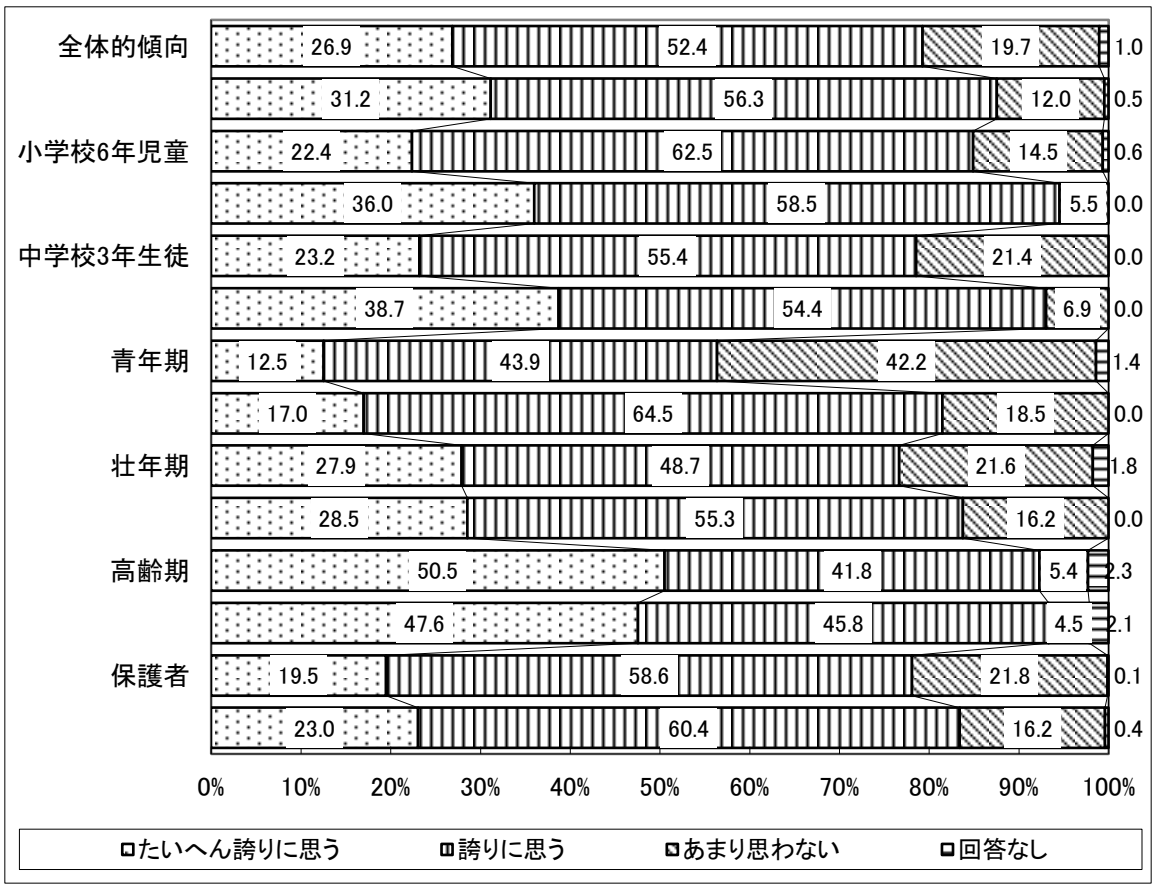
※対象の（小・中）は「小学6年・中学3年」を示す。（青～高・保）は「青年期（高校2年）・壮年期・高齢期・保護者」を示す。（全）は、全ての年代、「小学6年・中学3年・青年期・壮年期・高齢期・保護者」を示す。

１　人生各期における生活実践

（１）　郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興

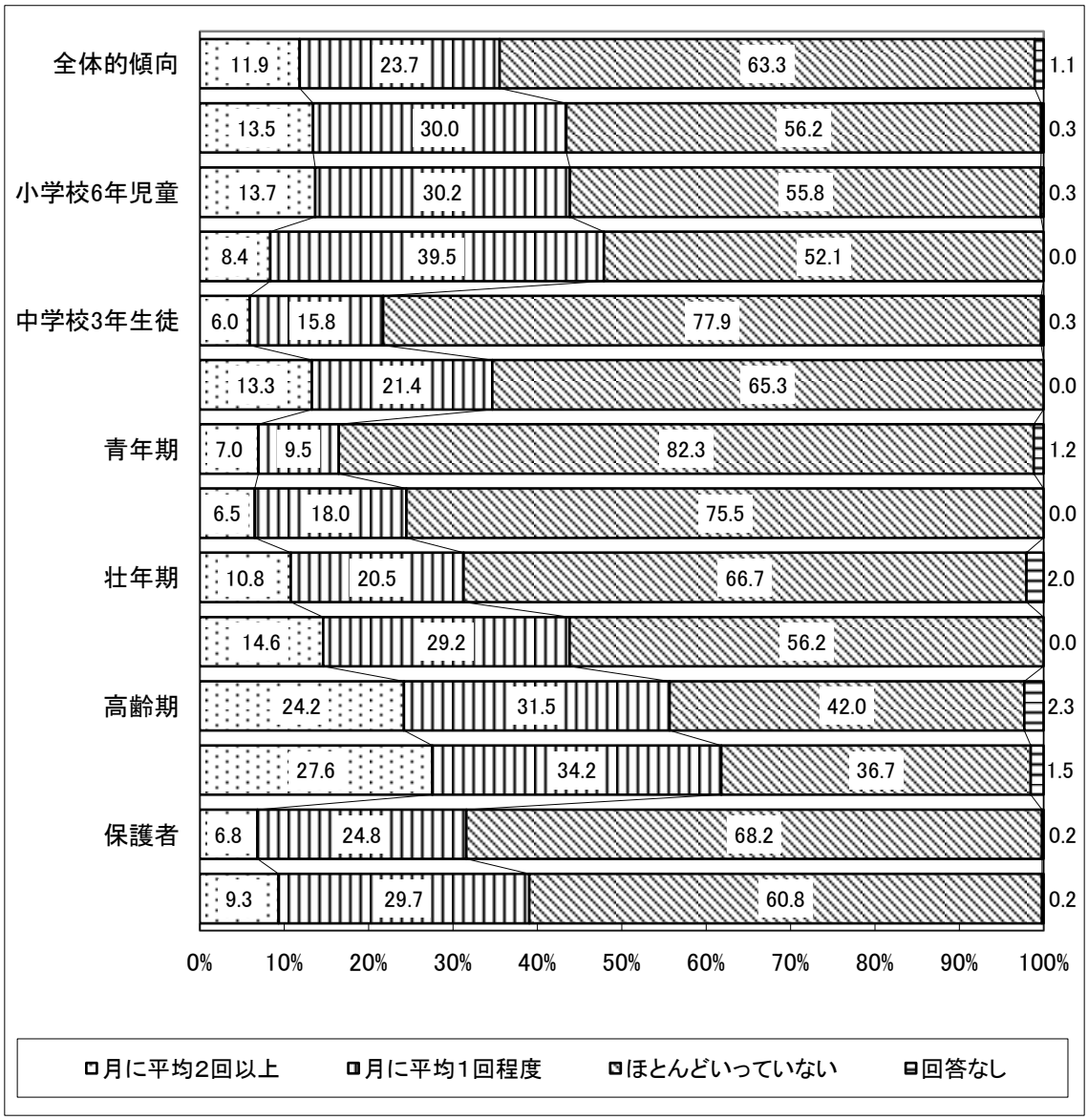
調査内容　①　足利学校に対する市民の意識

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>１　郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>１　郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努める。
（児童期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　　あなたは「日本最古の学校のあるまち足利」を誇りに思っていますか。
選択肢　　１　たいへん誇りに思う。　２　誇りに思う。　３　あまり思わない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　足利学校のあるまちへの誇りについては、第５次調査まで徐々に低くなってきましたが、第６次調査から高くなっていました。
○　郷土の文化を保護し、さらに発展させるためには、郷土の文化的遺産に関心をもったり、伝統的な行事を理解し積極的に参加したり、その継承に努めたりすることが大切です。
○　そこで、郷土の文化を愛護するという観点から、その実践状況を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、人生各期別および保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　①　足利学校に対する市民の意識** 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向として、第７次調査は、第６次調査に比べて実践状況が高くなっています。 ○　小学６年及び中学３年、青年期、保護者の「たいへん誇りに思う」が、第７次調査において前回調査より実践状況が高くなっています。 　特に、小中学生や青年期の実践状況が高いのは、足利学校における論語の素読体験の実践が定着していることがうかがえます。 ○　若い世代を中心に郷土の文化に対する理解の高まりがみられることは、望ましいことです。今後も、伝統的行事の由来や意味を伝承する機会を充実することが必要です。 ○　生涯学習によるまちづくりの観点から、郷土の文化に対する理解、保護、伝承に対する市民の意識を高めるために、今後も、郷土の文化や歴史的遺産を伝承する場において世代間の交流を推進することが必要です。

調査内容　②　郷土（地域）の自然に親しむ実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>1　郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>1　郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努める。
（児童期～高齢期）
2　動植物を愛し、自然に親しむ豊かな心を養う。
（乳幼児期～児童期）
3　自然を敬い、感謝の気持ちを育てる宗教心を養う。
（青年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　　あなたは、近くの野山や川に出かけるなど、自然に親しむことをしていますか。
選択肢　　1　月に平均２回以上。　2　月に平均１回程度。
3　ほとんどしていない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　生活の基盤である地域社会をよく理解することは、我々にとって必要なことです。特に、郷土の自然を愛し、大切にし、それを後生に伝えることは我々に与えられた課題であり、使命です。
○　第６次調査では、「野山に出かけるなどの実践」は第５次調査に比べ、全体的な傾向の実践状況は低くなっていました。また、人生各期で比較すると、高齢期の実践状況は第５次調査より第６次調査のほうが高くなっていました。今後においても、生活の基盤である郷土の自然に親しみ、その愛護に努めることは重要です。
○　そこで、このことについての理解が芽生える児童期から、自ら実践する青年期、壮年期、さらに若い世代にその大切さを教える高齢期について、その実践状況の変化を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　②　郷土（地域）の自然に親しむ実践** 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向として、第７次調査は、第６次調査に比べて実践状況が高くなっています。 ○　月に１回以上の実践状況では、第７次調査は、第６次調査より高くなっています。 ○　地球温暖化や異常気象などに伴う、身の周りの環境が大きく変化している現代において郷土の自然に親しみ、自然を愛し、環境を大切に守り育てていくことは極めて重要です。 　そこで、各種の自然体験や環境保全・保護に関する学習の機会を充実し、郷土の自然環境に関心をもち、自然を保護するための意識や実践を向上させることが必要です。

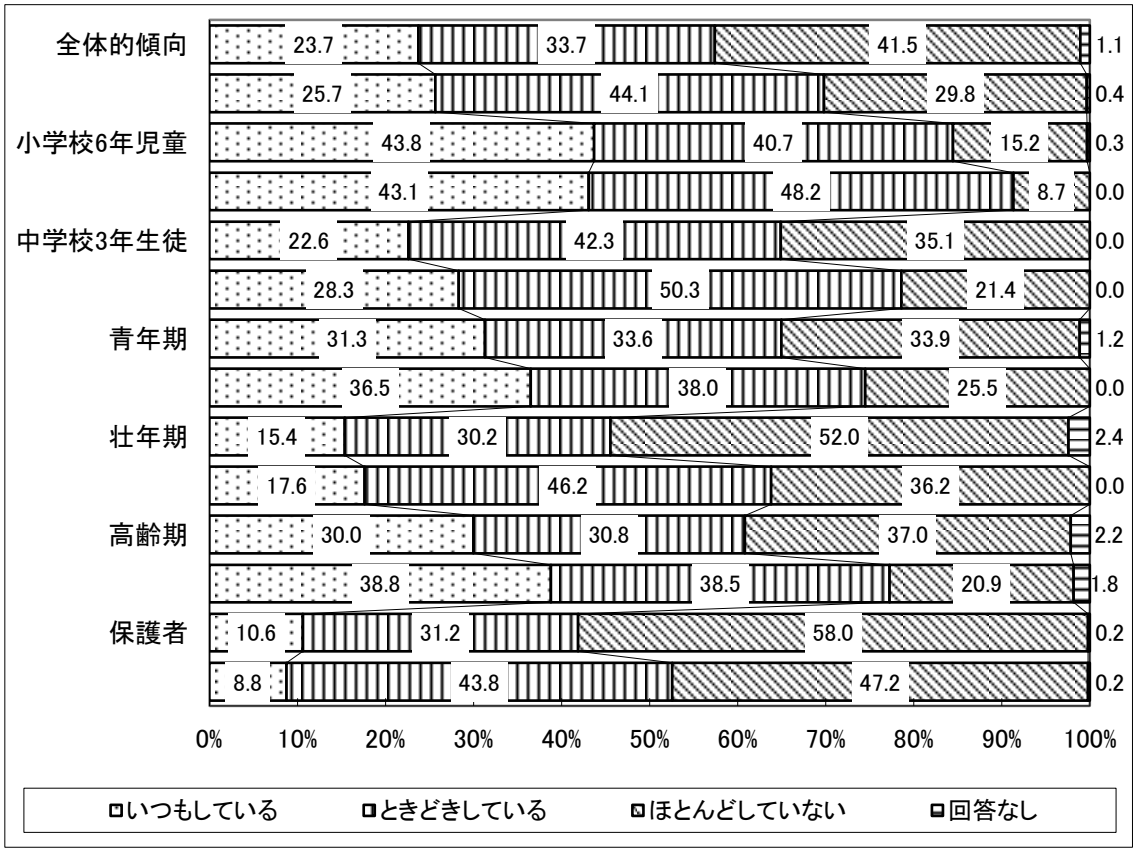
（２）　健康・安全の保持増進

調査内容　③　健康増進と保持のための実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>健康・安全の保持増進</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>２　健康管理や健康増進に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>４　いろいろな運動を楽しみ、体力を身につける。（児童期）
５　スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。（青年期）
６　スポーツ、レクリエーションに親しみ、健康の増進に努める。（壮年期）
11　健康・安全と体力の保持に努める。（高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）

設問１　あなたは、健康を保つため運動（スポーツ）をしていますか。

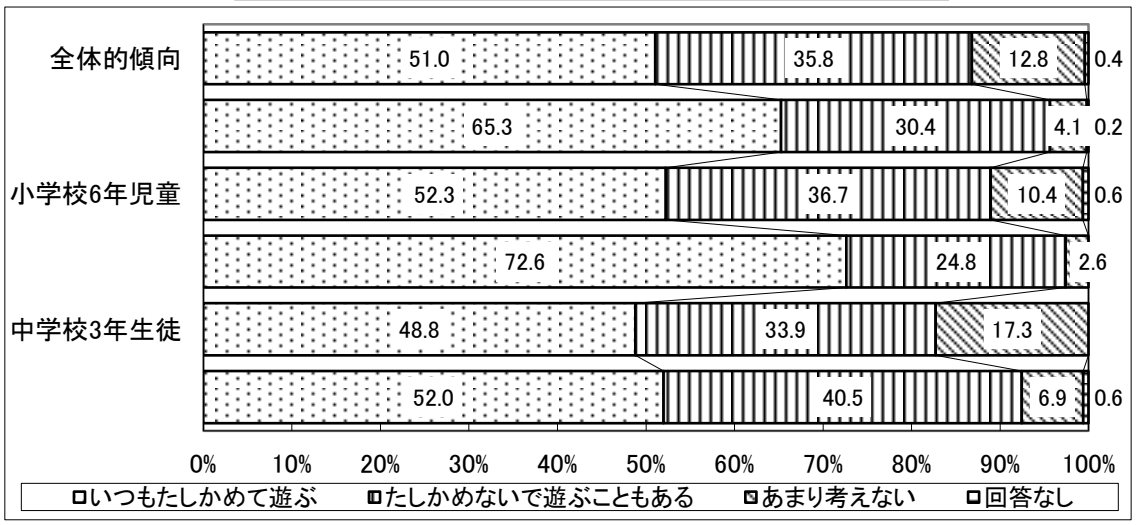
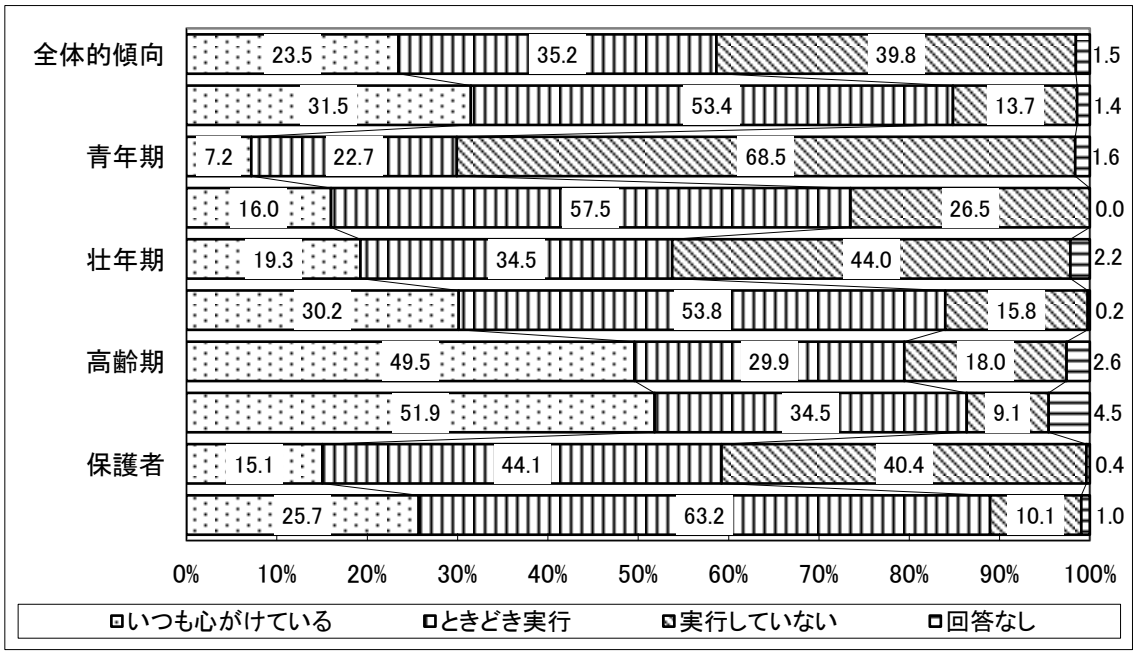
選択肢　１　いつもしている。　２　ときどきしている。
３　ほとんどしていない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　幸せは、すべての人の願いです。その幸せな人生を送るには、健康な心身をつくることが基礎となります。現代の社会は、産業・科学技術や交通の著しい進歩によって物質的に豊かになり、極めて便利になりましたが、反面、運動不足や精神的負担が多くなったりするなど、心身の健康をおびやかす要因も少なくありません。
○　健康を保つための運動の実践では、第６次調査では、第５次調査より実践状況が低くなり、全体の約５７％が行っていると回答しました。
○　市民が毎日の生活の中で、健康管理や健康増進をどう実践しているか、その実践状況を更に把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　③　健康増進と保持のための実践** 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向として、「いつもしている」「ときどきしている」を合わせると、第７次調査は、第６次調査に比べて実践状況が高くなっています。 ○　超高齢化社会を迎え、人生各期において健康・体力づくりに対する関心が高まっています。高齢者の自立と生きがいづくりをはじめとした、人生各期のニーズに応じた健康・体力の増進に努める必要があります。 ○　市民一人一人の実践をより充実、拡大させるために、多様化する市民のニーズに対応できる各種プログラムの充実、指導者やスポーツコーディネーターを介した、市民の自主的で組織的な活動を今後も充実させていく必要があります。

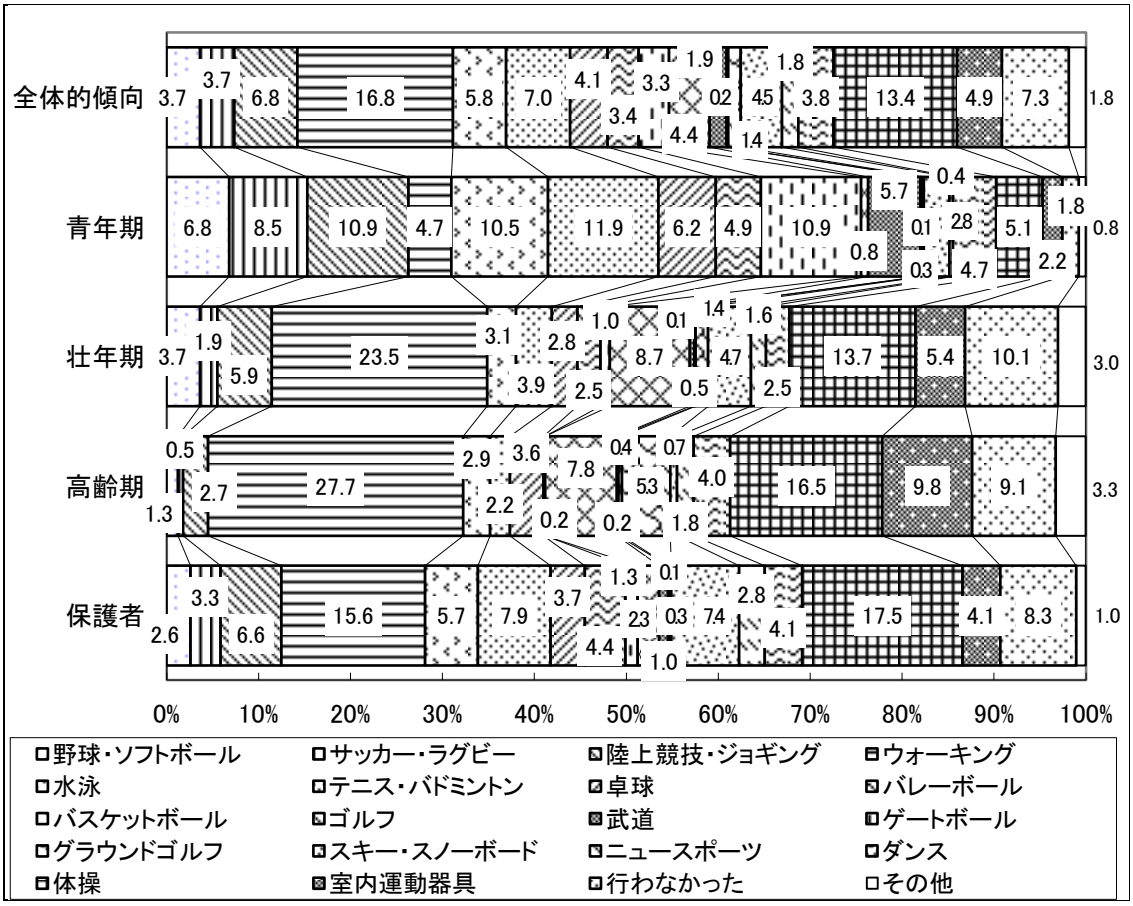
調査内容　④　安全に必要な生活習慣の実践

安全な生活実践と安全な生活環境づくりへの実践

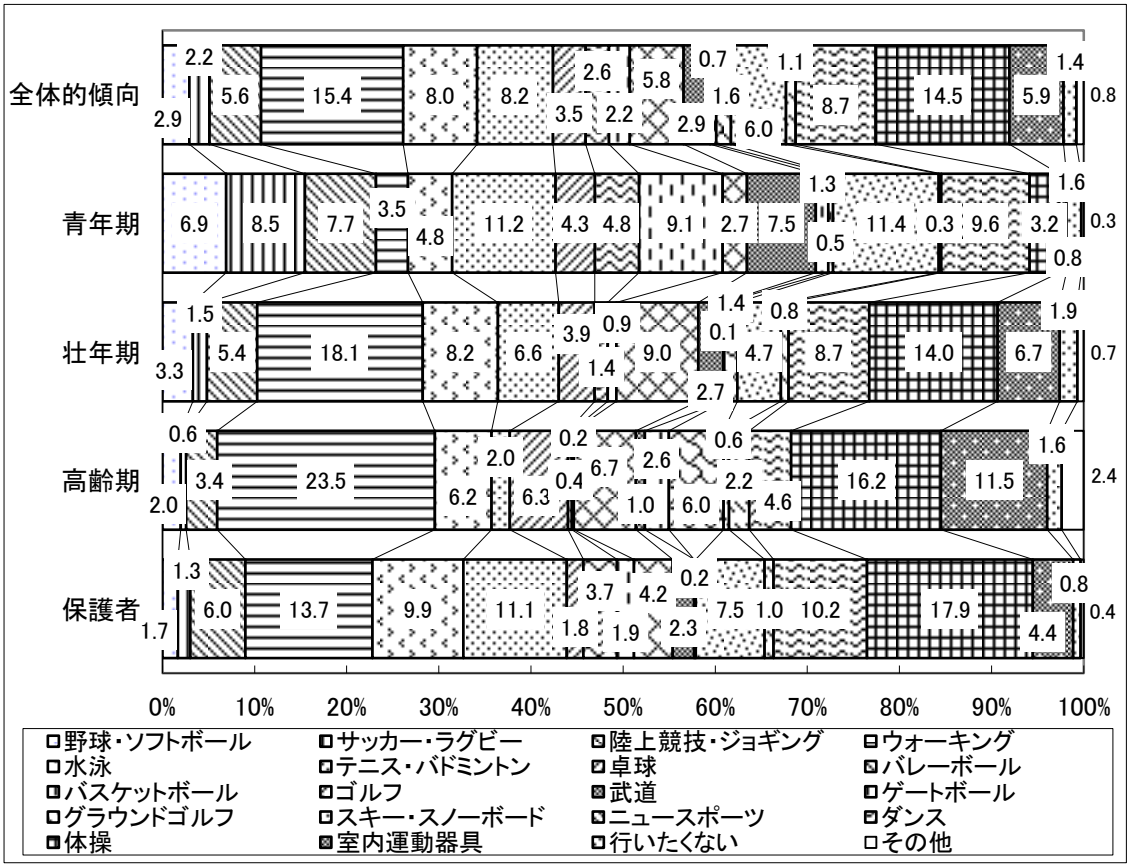
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>健康・安全の保持増進</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>3　健康・安全な生活態度を身につけましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>7　健康・安全に必要な基本的生活習慣や態度を身につける。（乳幼児期～児童期）
8　交通安全のための習慣を身につける。（青年期）
9　健康・安全な生活環境づくりに努める。（壮年期）
10　子供の健康・安全な生活態度を育てる。（壮年期）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年
設問１　あなたは、外で遊ぶとき、安全なところで遊んでいますか。
選択肢　１　いつも安全をたしかめて遊んでいる。
２　ときどき安全をたしかめないで遊ぶこともある。
３　あまり考えないで遊んでしまうことが多い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問２　あなたは、道路や家のまわりなどの身近な場所の安全確認や、避難場所の確認をしていますか。
選択肢　１　いつも心がけている。
２　ときどき実行している。
３　ほとんど実行していない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　科学技術の進歩と工業の著しい進展によって、生活は便利になった反面、自動車台数の増加による交通事故の多発、地震や水害などの自然災害や火災の発生など、人々の安全は、いろいろな形で脅かされています。
○　小学６年の安全に対する態度は、第６次調査では「いつもたしかめて遊ぶ」が約５３％となり、第５次調査より実践状況が低くなっていました。また、「身近な場所の安全点検や避難場所の確認」についても、壮年期・高齢期において第５次調査より第６次調査のほうが、実践状況が低くなっていました。
○　そこで、健康で安全な生活態度の育成の観点から、交通規則（ルール）を守り、安全確保に努めるとともに、安全確保のための実践状況を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　④－１　　安全に必要な生活習慣の実践**  **調査内容　④－２　　安全な生活実践と安全な生活環境づくりへの実践** 
調査結果の概要及び考察	○　安全に必要な生活習慣の実践では、小学６年、中学３年のどちらも、「いつもたしかめて遊ぶ」の実践状況が高くなっています。また、青年期、壮年期、高齢期、保護者のすべてにおいては、「いつも心がけている」「ときどき実行している」の実践状況が高くなっています。 ○　安全な生活実践と安全な生活環境づくりへの実践では、全体的傾向として、第７次調査は、第６次調査に比べて実践状況が高くなっています。東日本大震災を契機に市民の意識が変わってきていることがうかがえます。 ○　不審者等による子どもや女性への犯罪や、水害や地震などの災害から身を守るために、安全教育の充実・強化を図り、学校をはじめ家庭、地域社会、各種団体等において命の大切さや交通安全の意識の高揚に一層努める必要があります。

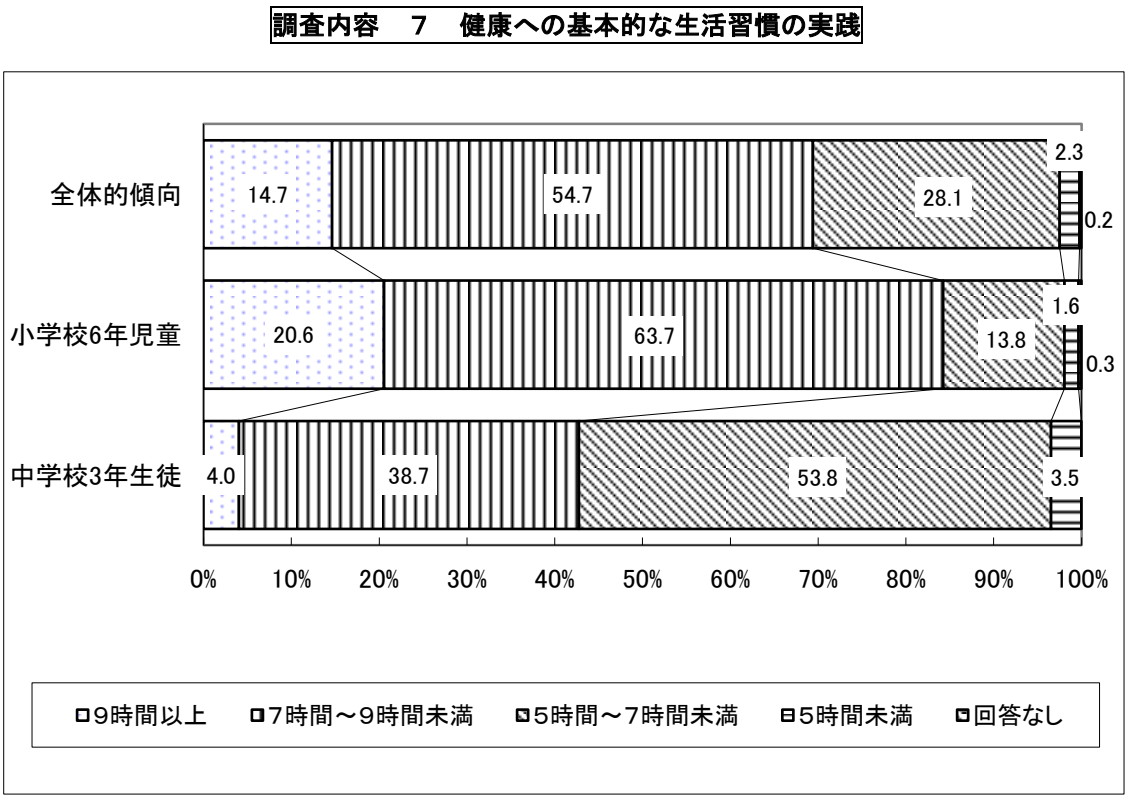
調査内容　　5　健康管理の実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>健康・安全の保持増進</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>2　健康管理や健康増進に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>5　スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。（青年期）
6　スポーツ、レクリエーションに親しみ健康の増進に努める。（壮年期）
11　健康・安全と体力の保持に努める。（高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたは、この1年間にどのスポーツを行いましたか。
選択肢　1 野球・ソフトボール　2 サッカー・ラグビー　3 陸上競技・ジョギング
4 ウォーキング　5 水泳　6 テニス・バドミントン　7 卓球
8 バレーボール　9 バスケットボール　10 ゴルフ
11 柔道・剣道・空手・少林寺拳法・合気道・弓道　12 ゲートボール
13 スキー・スノーボード・スケート　14 ニュースポーツ　15 ダンス
16 体操　17 室内運動器具を使ってする運動　18 行わなかった　19 その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　5　どのようなスポーツを実践したか（1年間）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、どの年代も約９０％近くの市民がスポーツに親しんでいることが分かります。高齢期では、ウォーキングや体操など健康の保持・増進につながる運動に関心があることがうかがえます。</td></tr>
</table>

調査内容　6　スポーツへの関心・意欲

観　点	解　　説	
教育目標との関連	柱	健康・安全の保持増進
	集約内容	2　健康管理や健康増進に努めましょう。
	人生各期の教育目標	5　スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。（青年期） 6　スポーツ、レクリエーションに親しみ健康の増進に努める。（壮年期） 11　健康・安全と体力の保持に努める。（高齢期）
調査問題	対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人） 設問１　今後行いたいと思うスポーツ（継続を含む） 選択肢　1 野球・ソフトボール　2 サッカー・ラグビー　3 陸上競技・ジョギング 4 ウォーキング　5 水泳　6 テニス・バドミントン　7 卓球 8 バレーボール　9 バスケットボール　10 ゴルフ 11 柔道・剣道・空手・少林寺拳法・合気道・弓道　12 ゲートボール 13 スキー・スノーボード・スケート　14 ニュースポーツ　15 ダンス 16 体操 17 室内運動器具を使ってする運動　18 行いたくない　19 その他	
調査結果	○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査） **調査内容　6　今後行いたいスポーツ**  	
調査結果の概要	○　全体的傾向として、身近に親しめるウォーキングを行いたいという回答が多く、青年期は、部活動等の競技に関連した種目が高くなっています。	

調査内容　7　健康への基本的な生活習慣の実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>健康・安全の保持増進</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>3　健康・安全な生活態度を身につけましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>7　健康・安全に必要な基本的生活習慣や態度を身につける。</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年
設問１　　あなたの睡眠時間は１日平均どれくらいですか。
選択肢　　１　９時間以上　　２　７時間～９時間未満　　３　５時間～７時間未満
　　４　５時間未満　　５　回答なし</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学校６年児童及び中学校３年生徒の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　小学６年では約６４％の児童が７～９時間の睡眠をとっています。中学３年では約５４％の生徒が５～７時間の睡眠をとっているという結果になりました。</td></tr>
</table>

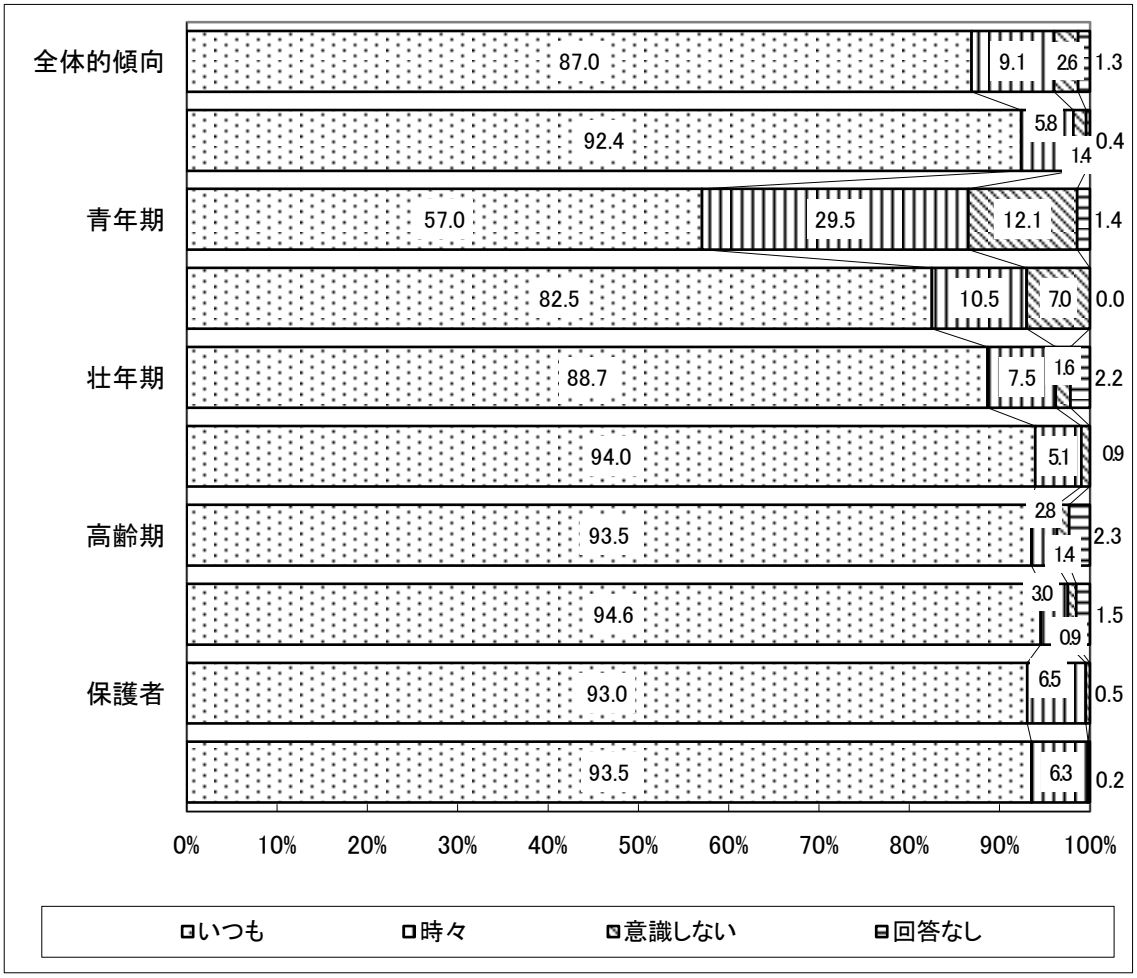
（３）　社会連帯感の育成

調査内容　⑧　足利市民としての自覚

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>４　足利市民の一員としての自覚を高めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>12　日常生活の中で、社会的に望ましい習慣や態度を身につける。
（乳幼児期）
13　社会の一員としての自覚をもち、社会的態度を身につける。
（児童期）
14　個人または団体の利害だけにとらわれず、全体との調和を図っていくことができる。（青年期～壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　　象　　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）

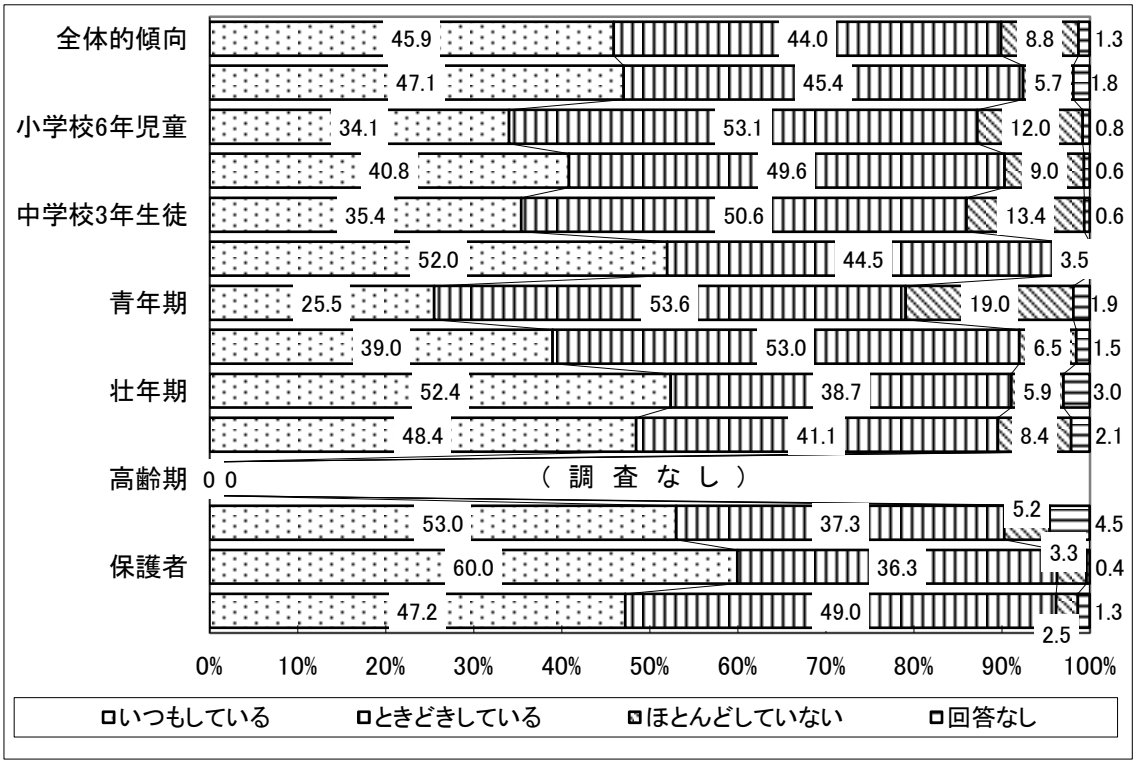
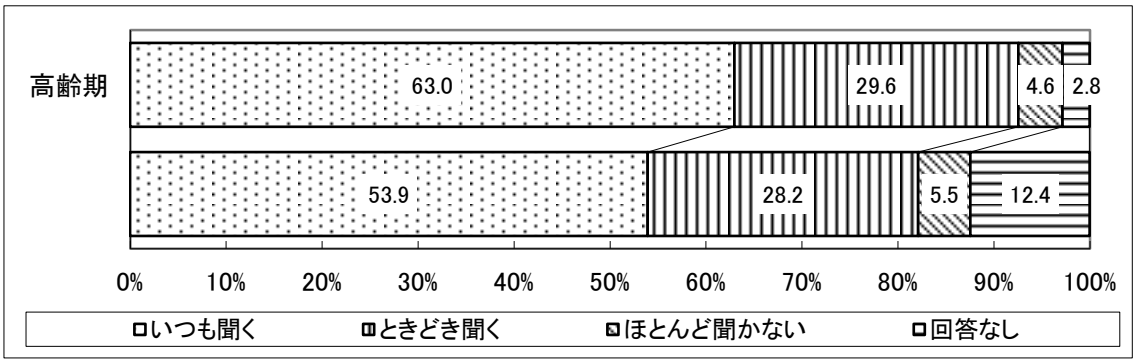
設　問１　　あなたは、ごみ出しの時、約束を守って出していますか。

選 択 肢　　１　いつも約束を守っている。
２　ときどき約束を守らないことがある。
３　あまり意識をしないで出してしまう。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　市民一人一人が、社会の構成員としての自覚をもち、お互いの連帯感を高めるために、集団の中の個人としての社会的義務や責任ある行動及びそれを成し遂げる態度を身につけることは大切なことです。
○　「ごみの回収時の約束」については、第６次調査では、第５次調査より「いつも守る」という実践が低くなっていました。今後も、市民生活を営む上でのルールについては、継続して調査をする必要があります。
○　現代社会では、ややもすると、個人や団体において利己的な考えを持ち、自己の権利を主張する傾向がみられます。
そこで、市民生活上のルールを守り、住みよい地域づくりに努める実践状況をとらえ、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）の傾向 （上から順に第６次調査、第７次調査） **調査内容　⑧　ゴミ回収時の約束を守る実践** 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向として、第７次調査は、第６次調査より実践状況が高くなっています。これは、第５次調査と同様の結果となりました。 ○　人生各期別でみると、壮年期、高齢期、保護者の実践状況が９０％以上となっています。青年期は他の年齢層と比較すると低いですが、「いつも約束を守っている」の実践状況が５７．１％から８２．５％に改善されました。 ○　全体的傾向として、生活上のルールを守り住みよい地域づくりに努める意識の高さがみられます。今後においては、青年期の実践状況をより一層向上させる必要があります。これからも快適な住みよい環境づくりのため、地域社会において、お互いに声をかけ合い、一人一人が協力・連帯に努めることが大切です。

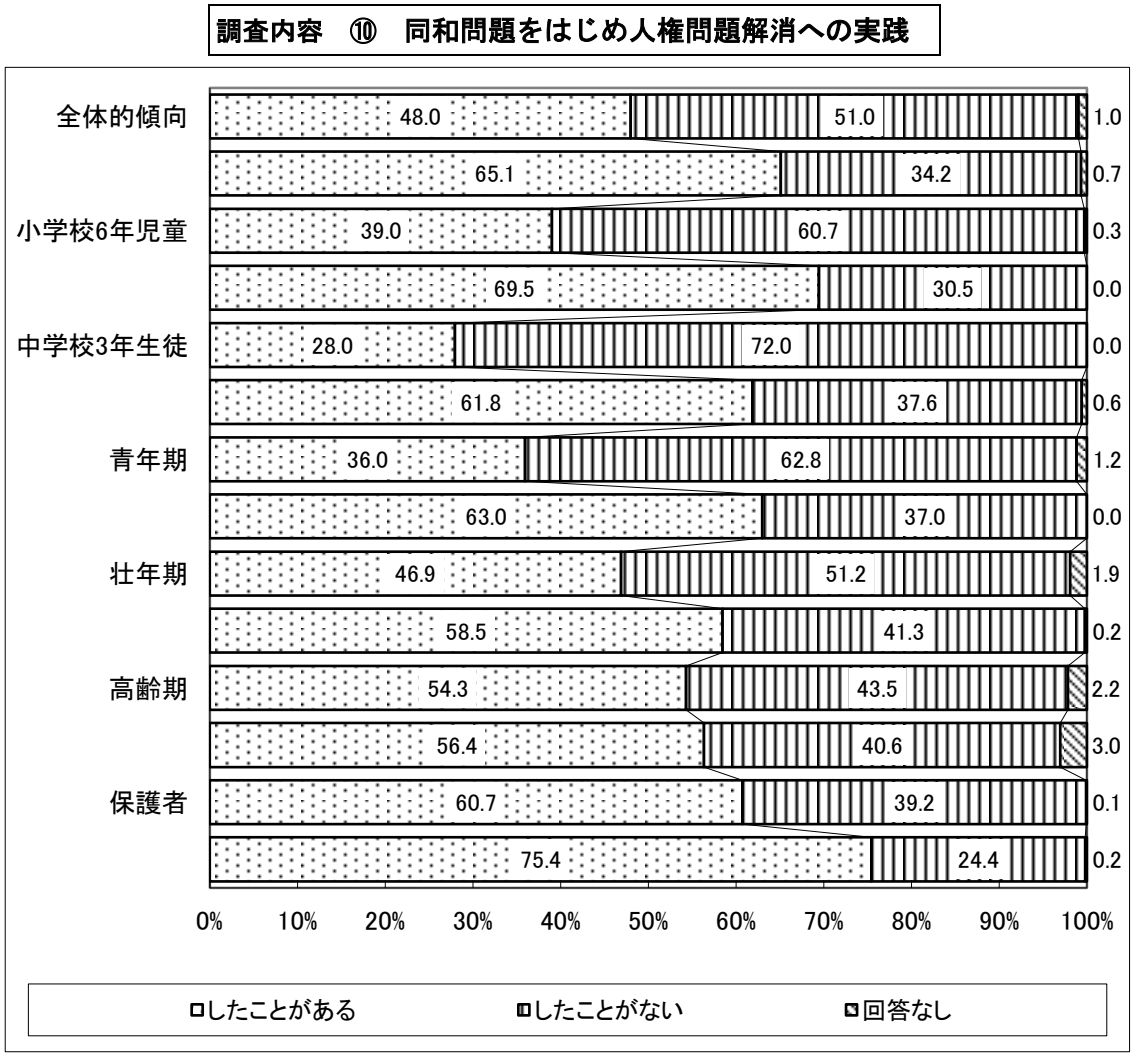
調査内容　⑨　福祉の心（思いやりの心）の実践
若い人たちの気持ちの理解

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>５　まわりの人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で接しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>18　友達と互いに協力し合うことができる。（児童期）
19　相手の立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。（青年期）
20　友情の尊さを理解し、友達との交際の仕方を身につける。（青年期）
21　自分と異なる信条・宗教・主張などを理解し、広い心で接することができる。（壮年期）
22　若い世代の人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。（高齢期）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調査問題</td><td colspan="2">対　　象　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、保護者（家庭人）
設　問１　お年寄りやからだの弱そうな人が安全に行動できるように、気配りや思いやりの心をもって接していますか。
選 択 肢　１　いつもしている。　２　ときどきしている。
３　ほとんどしていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">対　　象　高齢期
設　問２　あなたは、若い人たちの意見をよく聞くようにしていますか。
選 択 肢　１　いつも心がけて聞くようにしている。
２　ときどき聞くこともある。
３　ほとんど聞くことはない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　市民一人一人が、お互いに独立した人間として認め合い、温かい心で接することは社会連帯感を高め、明るく楽しい社会生活を営む上から、極めて大切なことです。
○　全体的傾向としては、第６次調査は、第５次調査に比べて実践状況はやや高くなっていました。
○　現代は、産業構造の変化、都市化の進行、超高齢化社会を迎えたことと平行して、住民意識の多様化などにより、人間関係が希薄なものとなり、そのため、物質的には豊かでも心の貧しさや疎外感をもつ懸念もでてきます。
○　そこで、公徳心の育成、社会連帯感の醸成の観点から、市民が毎日の生活の中で、福祉の心（思いやりの心）をどう実践しているか、その実践状況を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　⑨－１　福祉の心（思いやりの心）の実践**  **調査内容　⑨－２　若い人たちの気持ちの理解** 
調査結果の概要及び考察	○　福祉の心（思いやりの心）の実践では、全体的傾向として、第７次調査は、第６次調査に比べて実践状況はやや高くなっています。内訳として、「いつもしている」が約４７％、「ときどきしている」が約４５％、合計で約９３％が実践しており、家庭教育や学校教育をとおして「福祉の心」が育っていることがうかがえます。 ○　若い人たちの気持ちの理解では、第７次調査は、第６次調査に比べて実践状況が低くなっています。 ○　今後も、市民の福祉に対する意識をさらに高揚させるために、広報活動を積極的に推進するとともに、市民が参加する学習機会をとらえて、系統的、意識的に福祉にかかわる教育を一層推進する必要があります。また、若い人と高齢者がふれあう機会を意識的に設ける必要があります。

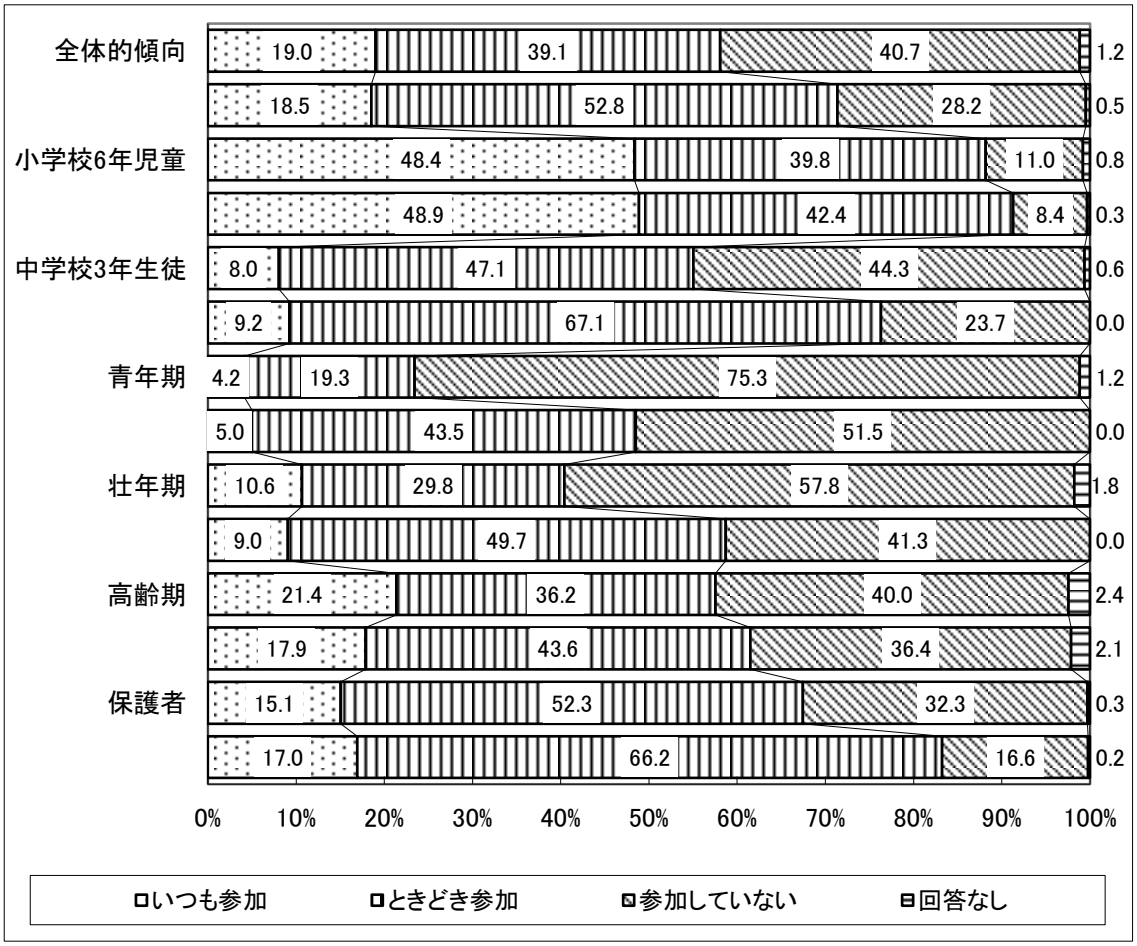
調査内容　⑩　同和問題をはじめ人権問題解消への実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>7　同和問題をはじめ、人権問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>26　友達のだれとでも、積極的に仲よく遊べる態度を身につける。（乳幼児期）
27　よりよい仲間づくりをするために、不合理な差別や偏見をもたないで生活することができる。（児童期）
28　同和問題をはじめ、人権問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない民主的な人間関係をつくることに努める。（青年期）
29　同和問題をはじめ、人権問題を正しく認識し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。（壮年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　　象　　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設　問１　　あなたは、人権問題の解消に向けて、家族や身近な人たちと話し合いをしたことがありますか。
選 択 肢　　１　話し合ったことがある。
２　話し合ったことがない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　同和問題をはじめ人権問題は、日本国憲法によって保障された基本的人権にかかわる課題です。この早急な解決は国及び地方公共団体に課せられた責務であり、同時に国民的課題でもあります。
○　そのため、市民が同和問題をはじめ人権問題について他人事ではなく、自分の問題としてとらえ、偏見として子どもたちに伝えることなく、地域社会や家族で正しく教えることが、壮年期、高齢期における市民の重要な役割です。
○　そこで、社会連帯の育成の観点から、市民の同和問題をはじめ人権問題解消の実践についての関心の度合いを把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

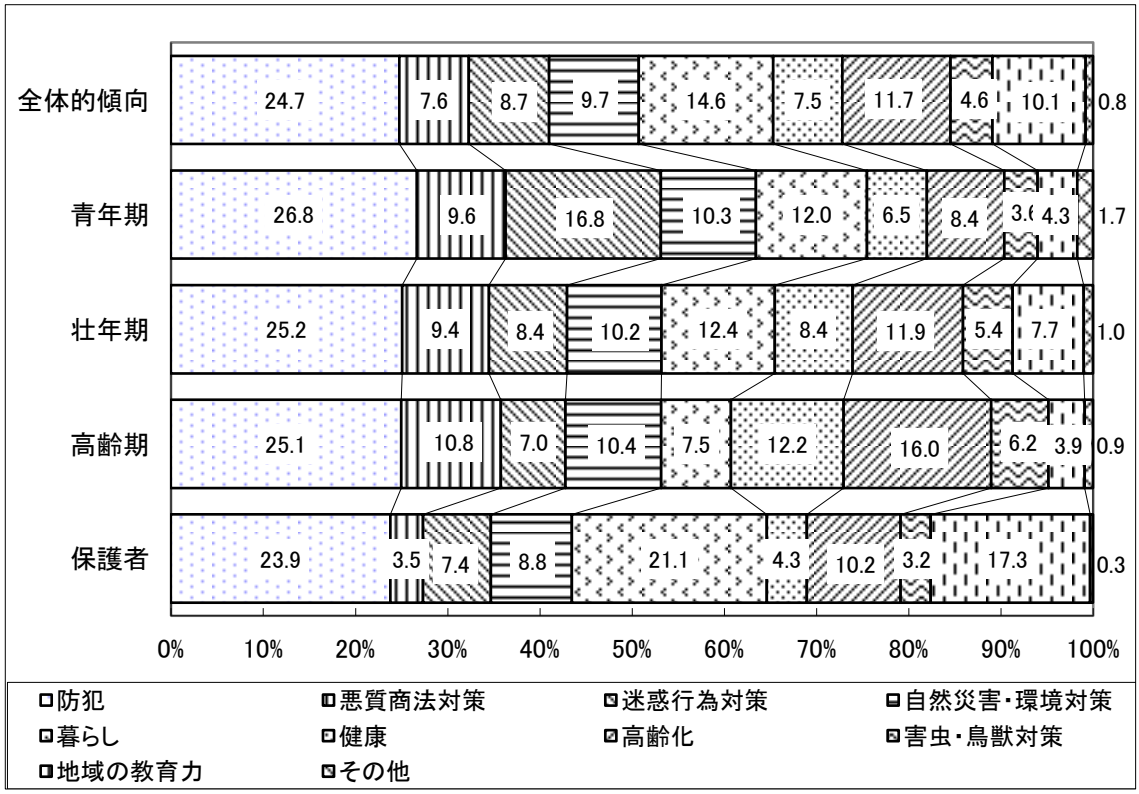
調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向として、第７次調査は、第６次調査に比べて実践状況が高くなっています。特に、小学６年、中学３年、青年期では、実践状況が大きく向上しました。学校における同和（人権）教育の成果が出ていることがうかがえます。 ○　同和問題をはじめ、人権問題を正しく認識し、自分の課題としてとらえて、問題解決に寄与する市民の幅広い参画を図るためには、人権にかかわる学習会や研修会の機会をできるだけ充実させ、問題解消に向けて効果的な啓発資料の発行などの施策を実施する必要があります。また、学校教育、社会教育、家庭教育との連携を図り、人権教育をより一層推進していく必要があります。

調査内容　⑪　ボランティア活動への参加

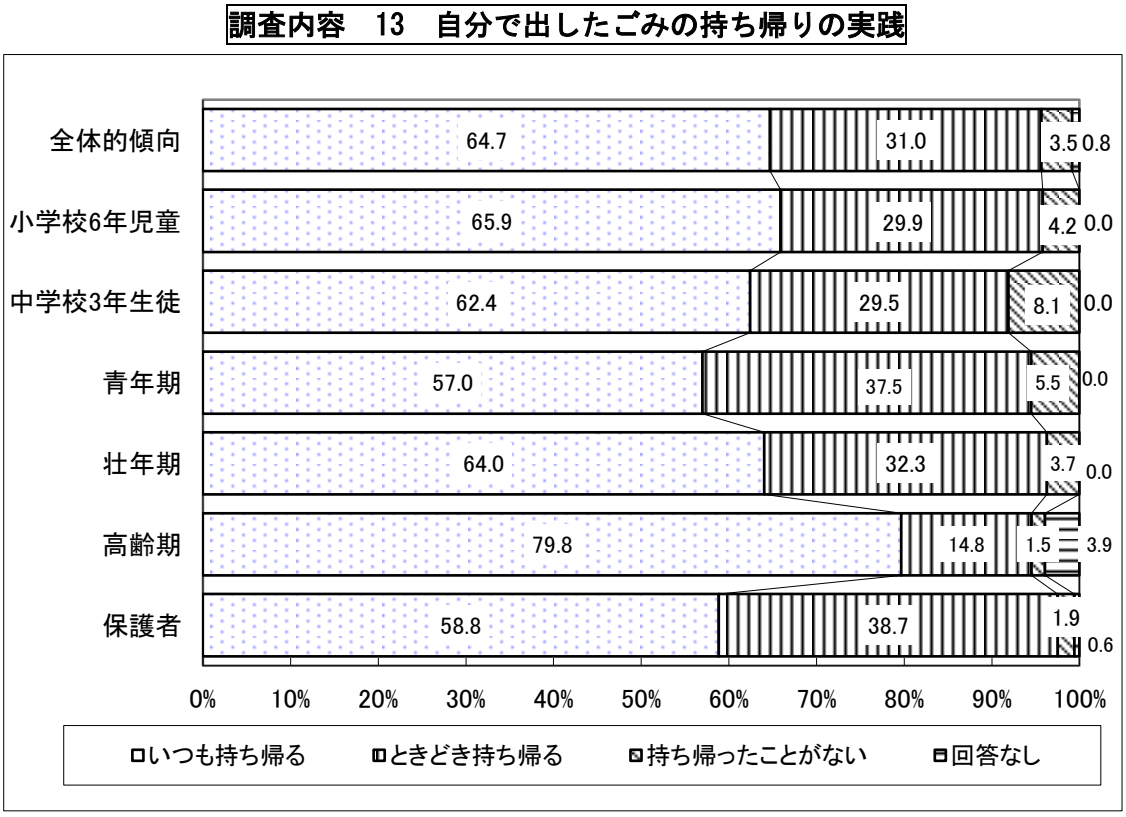
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>８　奉仕活動の大切さを理解し、その活動に参加しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>30　奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。
（児童期～青年期）
31　奉仕を通して生きがいがもてる。
（壮年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　　象　　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設　問１　　あなたは、ボランティア活動や地域の行事に参加していますか。
選 択 肢　　１　いつも参加している。　　２　ときどき参加している。
３　ほとんど参加していない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　今日の社会では、様々な形で青年に期待される場面がありますが、住みよい地域社会づくりに向かって自らのもつ力を社会に役立てようとする奉仕活動への積極的な参加が特に望まれています。また、壮年期や高齢期はもとより、青年期（前期）においても、経験を生かしあるいは学習したことを実践するために、奉仕活動を通して、他の人々や地域社会のために役立っているという充実感を味わいながら生活することが大切です。
○　ボランティアへの参加状況については、小学６年と中学３年では、第５次調査よりも第６次調査のほうが実践状況が高くなっていました。なお、本調査は、第５次調査までは、青年期から高齢期と保護者には実施されませんでした。
○　そこで、社会連帯の育成の観点から、第６次調査より調査対象者をすべてにして、ボランティア活動について参加状況及びその変化を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　⑪　ボランティア活動への参加** 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向としては、「いつも参加している」は、大きな変化がありませんでしたが、「ときどき参加している」が５０％を越え、実践状況は高くなっています。 ○　人生各期別では、小学６年が他の年齢層を大きく上回っており、各小学校において様々なボランティア活動が実践されていることがうかがえます。 ○　小中学生による高齢者との交流、ひとり暮らしの高齢者宅や各種施設訪問、小中学生と地域住民による地域ぐるみクリーン運動等、市民の自主的・組織的な奉仕活動が多くみられるようになり、ボランティア活動への市民意識と実践活動が高まっています。 ○　今後、市民の自主的・組織的な活動を援助するとともに、地域における青少年、女性の社会参加を促し、リーダー養成、奉仕に関する各種学級・講座、研修会の充実を一層図っていく必要があります。

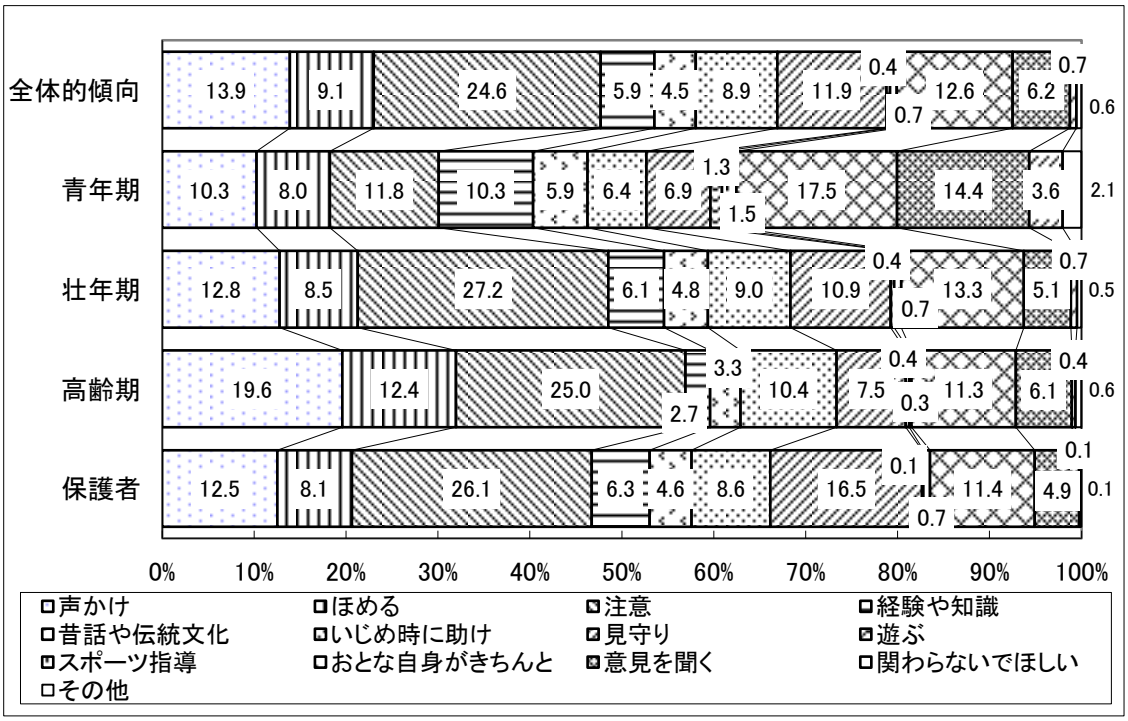
調査内容　12　地域で取り組むべき課題意識

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>4　足利市民の一員としての自覚を高めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>15　社会の一員としての役割を自覚し、責任ある言動をとる。
（青年期～壮年期）
16　地域の集団活動に積極的に参加し、自らの役割を果たす。
（壮年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたは、地域でとりくむべき課題・問題として重要なものは、なんだと思いますか。
選択肢　（３つ以内に○）
１　防犯　２　悪質商法対策　３　迷惑行為対策　４　自然災害・環境対策
５　暮らしに関すること　６　健康に関すること　７　高齢化に関すること
８　害虫・鳥獣対策　９　地域の教育力　10　その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向（第７次調査）
調査内容　12　地域で取り組むべき課題意識
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向としては、地域で取り組むべき課題・問題として一番に「防犯」を取り上げています。続いて「暮らし」、「高齢化」、「地域の教育力」など身近な事柄が取り上げられています。</td></tr>
</table>

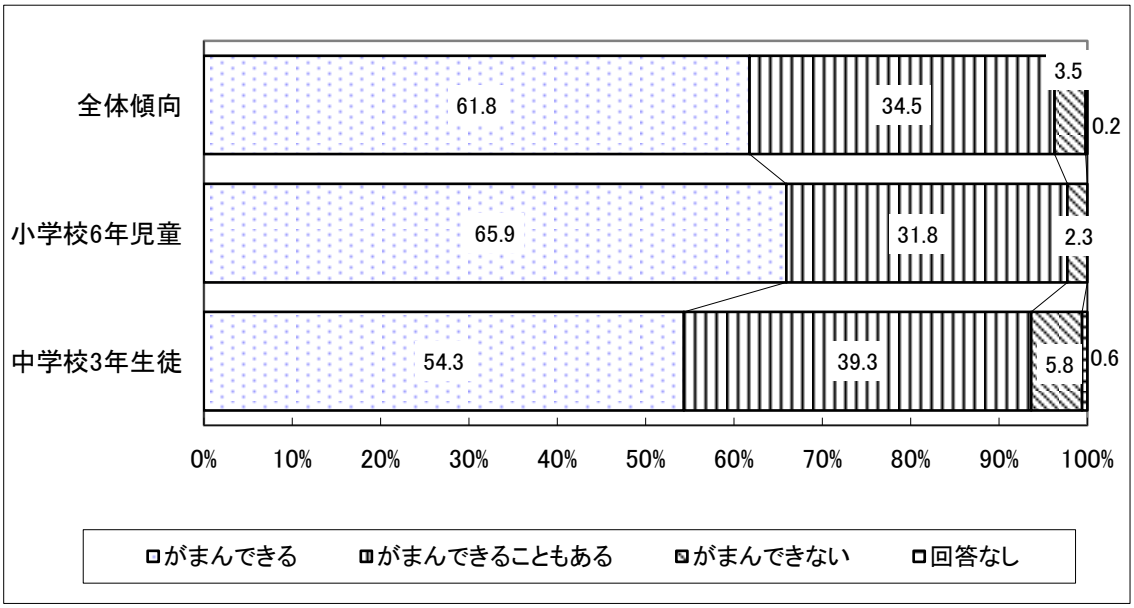
調査内容　13　環境美化への実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>6　道徳的な態度を身につけ、実践しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>12　日常生活の中で、社会的に望ましい習慣や態度を身につける。（乳幼児期）
24　道徳的な態度を身につけ、実践することができる。（児童期～壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたは､外出したとき､自分で出したゴミを持ち帰るようにしていますか。
選択肢　１　いつも心がけて持ち帰るようにしている。
２　ときどき持ち帰ることもある。
３　ほとんど持ち帰ったことがない。</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）人の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　「いつも心がけて持ち帰るようにしている」では、高齢期の実践状況が特に高く、全体的傾向としても高い実践状況となっています。</td></tr>
</table>

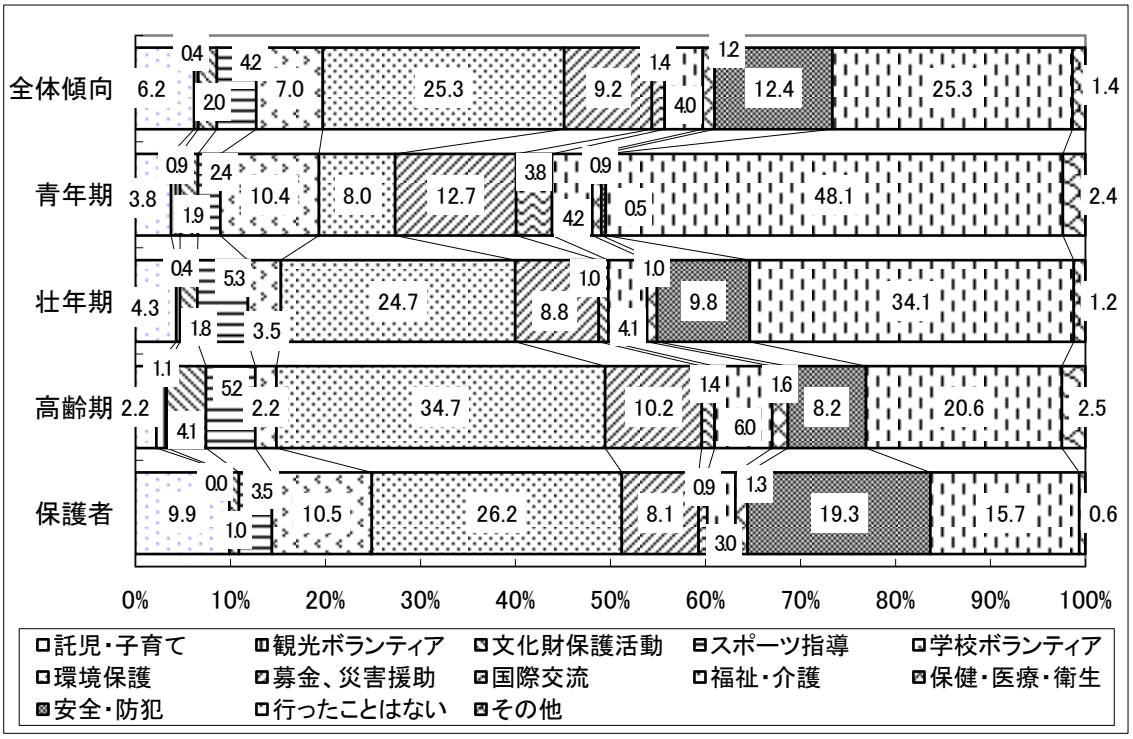
調査内容　14　地域の子供たちへの要望

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>6　道徳的な態度を身につけ、実践しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>17　時間を大切にし、時刻を守る。（壮年期）
25　子供に日常生活の中で善悪の区別がつけられるようにする。（壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたが、自分あるいは地域の子どもたちに対し地域の人たちにしてほしいことは、どのようなことですか。
選択肢　（3 つ以内に〇）１　道で会ったときに、声をかけてほしい。２　良いことをした時に、ほめてほしい。３　悪いことや危険なことをした時には、注意してほしい。４　経験や知識を伝えてほしい。５　地域の昔話や伝統文化を教えてほしい。６　いじめられている時には、助けてほしい。７　いっしょに遊んでほしい。８　スポーツを教えてほしい。９　子どものことをあれこれ言う前に、おとな自身がきちんとしてほしい。10 子ども扱いしないで、子どもの意見をしっかり聞いてほしい。11　関わらないでほしい。12　その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">〇全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　14　子供たちに対し地域の人にしてほしいこと
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">〇　全体的傾向として、子供たちに「注意してほしい」「声をかけてほしい」が高いという結果になっています。青年期では、「おとな自身がきちんとしてほしい」が高い結果になっています。</td></tr>
</table>

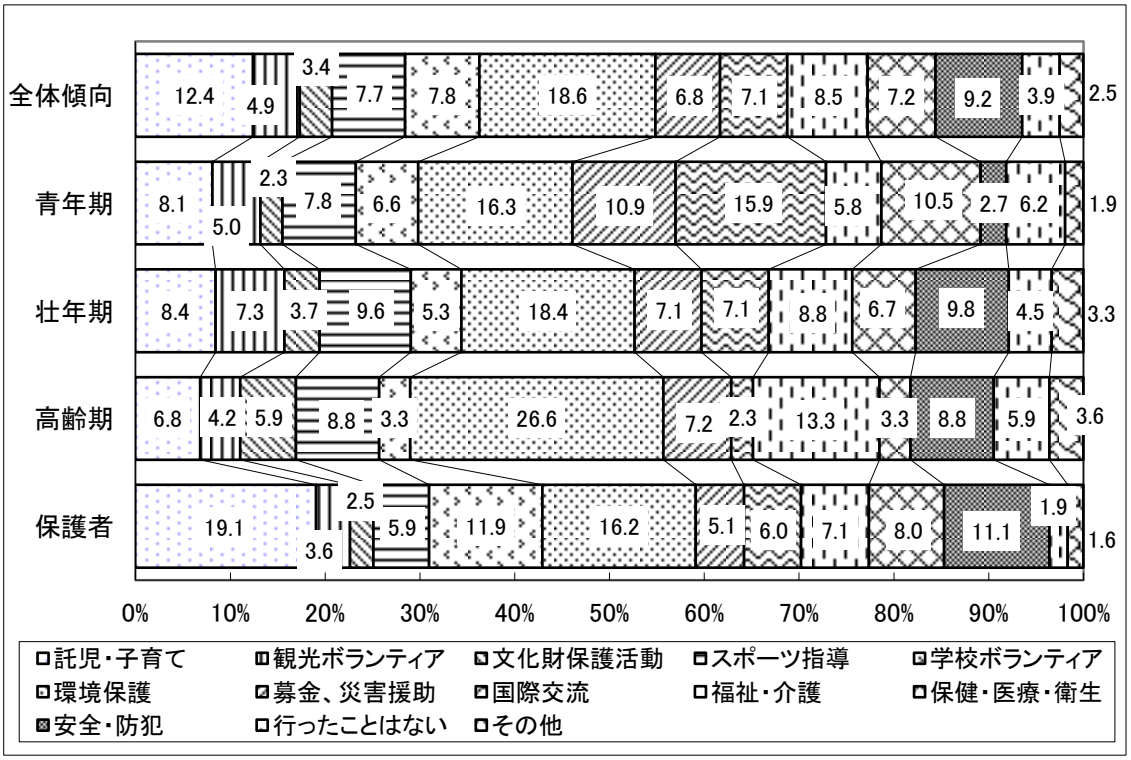
調査内容　15　がまんを通しての道徳的態度の実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>6　道徳的な態度を身につけ、実践しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>23　日常生活の中で善悪の区別がつけられる。　（乳幼児期）
24　道徳的な態度を身につけ、実践することができる。
（児童期～壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年
設問１　あなたはほしいものがある時、家の人に「がまんしてね。」と言われた場合、がまんしていますか。
選択肢　１　がまんできる。２　がまんできることもある。３　がまんできない。
４　回答なし。</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として「がまんできる」が約６２％、「がまんできることもある」が約３５％となっています。小学６年では「がまんできる」が約６６％、中学３年では約５４％です。「がまんできない」は中学３年では約６％であり、ほとんどの児童生徒が、がまんをすることができるといえます。</td></tr>
</table>

調査内容　16　ボランティア活動の種類

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>8　奉仕活動の大切さを理解し、その活動に参加しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>30　奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。（児童期～青年期）
31　奉仕を通して生きがいがもてる。（壮年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたはこの1年間にどのようなボランティア活動を行いましたか。
選択肢　１ 託児・読み聞かせ・子育てに関する支援活動　２ 観光ガイドとしての観光ボランティア　３ 文化財保護活動や、郷土芸能　４ スポーツレクリエーション指導　５ 学校ボランティア　６ 環境保護、清掃・リサイクル活動　７ 募金活動や災害援助活動　８ 国際交流（協力）に関する活動　９ 高齢者や障がい者などに関する福祉活動　10 保健・医療・衛生に関する活動　11 地域の安全・防犯に関する活動　12 行ったことはない。　13 その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　16　ボランティア活動の種類
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、ボランティア活動の中で「環境保護、清掃・リサイクル活動」がもっとも多い結果となっています。青年期においては、約半数が「行ったことがない」と回答しています。</td></tr>
</table>

調査内容　17　ボランティアへの関心・意欲

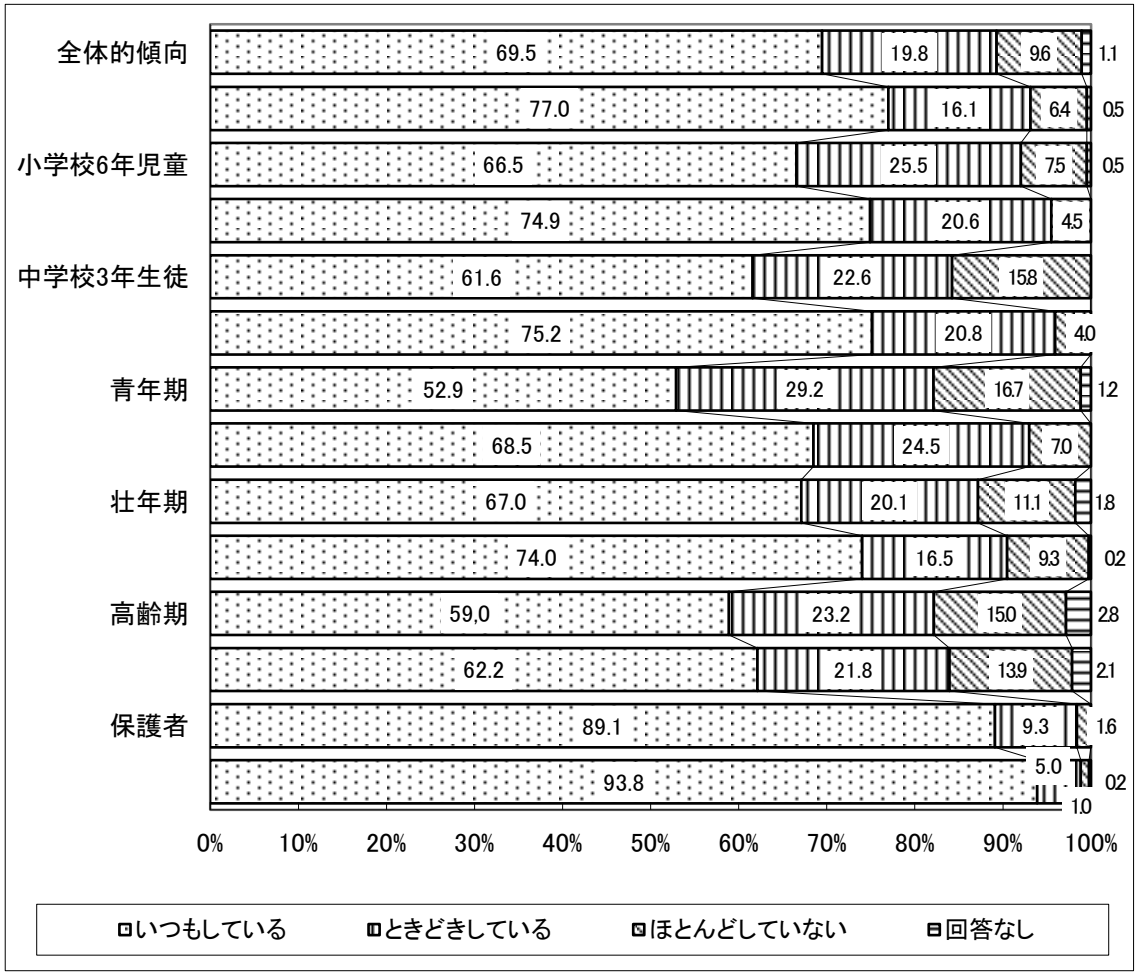
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>社会連帯感の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>８　奉仕活動の大切さを理解し、その活動に参加しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>30　奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。
（児童期～青年期）
31　奉仕を通して生きがいがもてる。　（壮年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　今後行ってみたいと思う（ボランティア活動）内容（継続も含む）
選択肢　１ 託児・読み聞かせ・子育てに関する支援活動　２ 観光ガイドとしての観光ボランティア　３ 文化財保護活動や、郷土芸能　４ スポーツレクリエーション指導　５ 学校ボランティア　６ 環境保護、清掃・リサイクル活動　７ 募金活動や災害援助活動　８ 国際交流（協力）に関する活動　９ 高齢者や障がい者などに関する福祉活動　10 保健・医療・衛生に関する活動　11 地域の安全・防犯に関する活動　12 行いたくない　13 その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　17　ボランティアへの関心・意欲
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、「環境保護、清掃・リサイクル活動」に関して約１９％と一番多く、続いて「託児・読み聞かせ・子育てに関する支援活動」が約１２％と多い結果となっています。</td></tr>
</table>

（４）よき家庭人の育成

調査内容　⑱　家族間におけるあいさつの実践

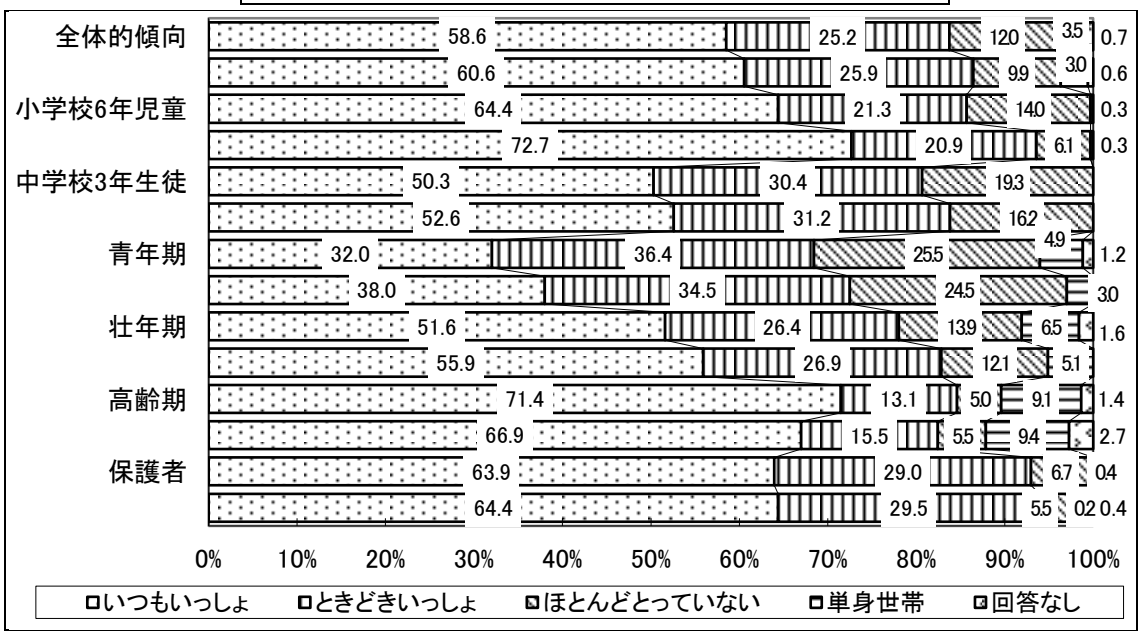
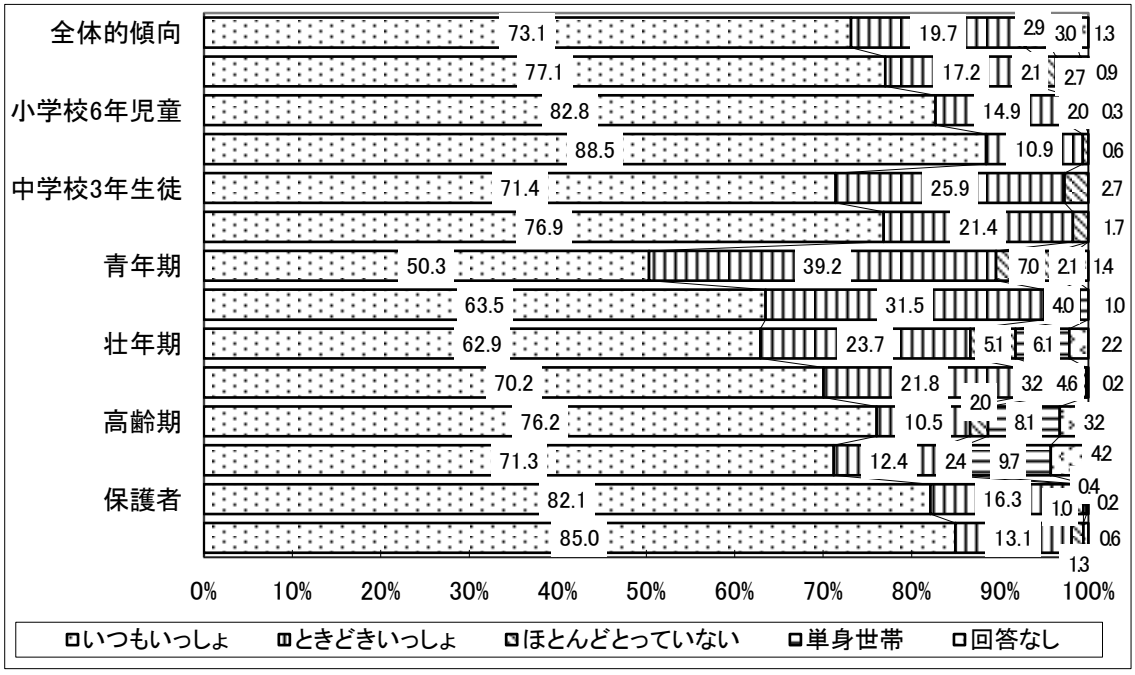
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>11　明るい健康な家庭づくりに努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>33　子供に敬老の精神を育てる。（壮年期）

38　家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。
（青年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたは、朝、家族の人などにあいさつをしますか。
選択肢　１　いつもしている。
２　ときどきしている。
３　ほとんどしていない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　かつて家庭は、祖父母、両親、子どもの三世代にわたる生活の場でしたが、これが崩れ核家族化が進み、かつ、親子一緒の生活時間等も少なくなってきています。そのため家庭における教育力の低下が指摘されているところです。
○　家族間におけるあいさつの実践については、第６次調査では、第５次調査より「いつもしている」という実践が高くなっていました。
○　そこで、よき家庭人の育成の観点から、児童期より高齢期までの人生各期と現在子育て中である家庭人について、家族間におけるあいさつの実践状況を捉え、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　⑱　家族間におけるあいさつの実践** 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向としては、「いつもしている。」が７７％という状況で、第６次調査よりも増加しています。家族間のあいさつについては、着実に実践状況が高くなっていることがうかがえます。 ○　人生の各期を比べますと、特に保護者においての実践状況がとても高く、「いつもしている」が９０％を超えています。また青年期では、第６次調査に比べて約１６％も実践状況が高くなっています。 ○　このように家族間におけるあいさつの実践状況が向上していることから、今後も、各種の学級や講座、啓発等を通じ、家庭内のコミュニケーションの大切さをより一層理解できるような取り組みを充実させていく必要があります。また、家族ぐるみの共通の体験活動の工夫や、道徳的な実践力の育成などについて学習する場を設定したりするなど、明るい健康的な家庭人となれるような積極的な取り組みが必要です。

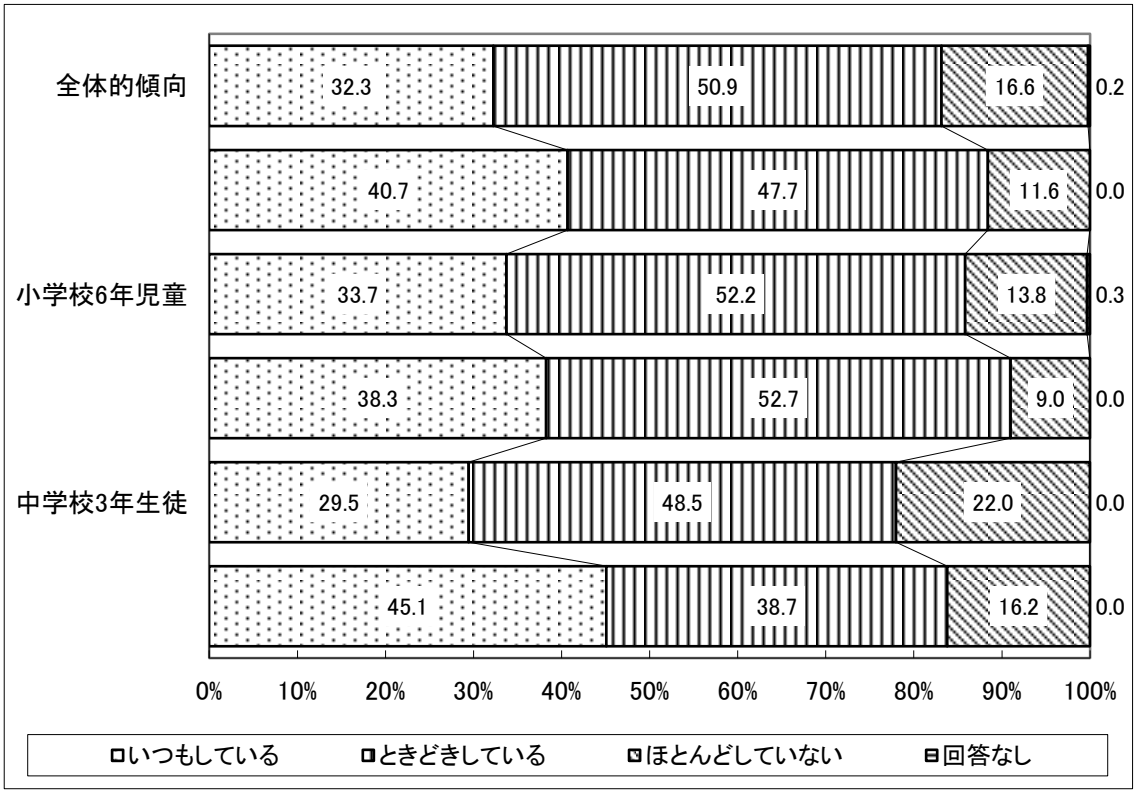
調査内容　⑲　家族揃っての食事の実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>11　明るい健康な家庭づくりに努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>38　家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。
（青年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調査問題</td><td colspan="2">対　　象　　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設　問１　　あなたは朝食を、家族の人たちといっしょにとっていますか。
選 択 肢　　１　いつもいっしょにとっている。
２　ときどきいっしょにとっている。
３　ほとんどとったことがない。
４　単身世帯である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">設　問２　　あなたは夕食を家族の人たちといっしょにとっていますか。
選 択 肢　　１　いつもいっしょにとっている。
２　ときどきいっしょにとっている。
３　ほとんどとったことがない。
４　単身世帯である。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　かつて家庭は、祖父母、両親、子供の三世代にわたる生活の場でしたが、次第に核家族化が進み、厳しい経済状況も関係して、親子一緒の生活時間等も少なくなってきている傾向が見られました。
○　そのため、家庭におけるコミュニケーションの低下が指摘されています。このような中で家庭が本来の機能を取り戻し、それぞれの立場で、相手を理解し合い、尊重し合う明るい生活が営めるようになることは大切なことです。
○　そこで、もっとも日常的な、朝食、夕食場面について、児童期から高齢期までと子育て期の家庭人に対し、家庭における好ましい人間関係を育てるための実践状況を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

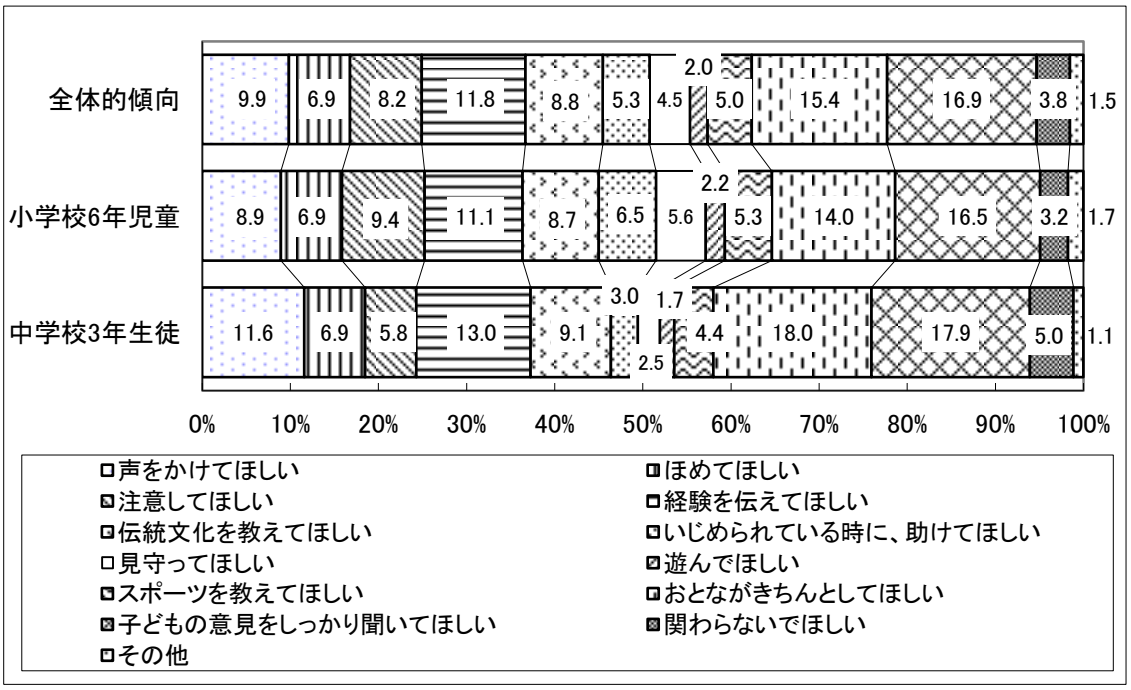
調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　⑲-1　家族揃っての食事の実践～朝食**  **調査内容　⑲-2　家族揃っての食事の実践～夕食** 
調査結果の概要及び考察	○　第６次調査と比べて、小学６年では「いつもいっしょにとっている」が朝食で約８％、夕食で約６％増加しています。また、夕食においては、小学６年と保護者で、「いつもいっしょにとっている」が８５％を超えており、好ましい状況といえます。 ○　高齢期では、第６次調査よりも、朝食、夕食とも約５％減少しています。家族の中で、高齢者との関わりを考えていく必要があると思われます。

調査内容　⑳　家における役割分担の実践

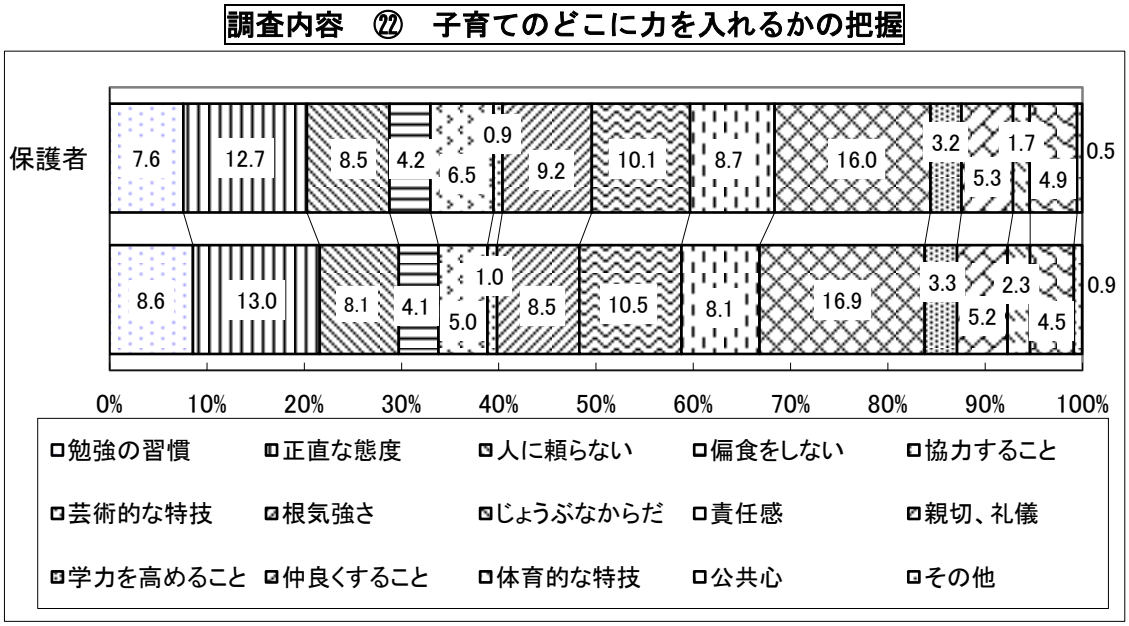
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>11　明るい健康な家庭づくりに努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>34　男女が協力して、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。
（児童期）
38　家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。
（青年期～高齢期）
40　よい家風を受け継ぎ、さらに新しい家風をつくりあげていくことができる。（壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　　象　　小学６年、中学３年
設　問１　　あなたは、家で決められたお手伝いをしていますか。
選 択 肢　　１　いつもしている。
２　ときどきしている。
３　ほとんどしていない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　生活の多様化、家族構成の変化にともない、家庭において親の働く姿に接したり、自ら親とともに家族の仕事をする機会が少なくなっています。そのため、家族がそれぞれの立場を互いに理解・協力し、明るい生活が営めるように努力することは大切なことです。
○　近年、特に家庭の教育力の低下が叫ばれる中で、明るい家庭づくりということから家庭における役割を分担、協力して実践していくことの重要性が指摘されています。
○　家で決められたお手伝いの実践については、「いつもしている」が第５次調査より第６次調査のほうが実践状況は高くなっていました。
○　そこで、現在家庭で行われている役割分担について、子供の立場から実践状況の変化を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　⑳　家庭における役割分担の実践** 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向として、「いつもしている」「ときどきしている」を合わせると約９０％となっており、第６次調査よりも実践状況は高くなっています。特に、中学３年においては、第６次調査と比べて、「いつもしている」が約１６％も実践状況が高くなっています。 ○　明るい家庭づくりにおいては、以前より家庭における役割分担は重要視されていますが、まだまだ実践は十分とはいえません。 ○　そこで、よき家庭人の育成、明るい健康的な家庭づくりということから、家庭内における役割分担の在り方を見直し、家庭で十分話し合い、自覚をもって日常生活の中で実践していくことが重要です。このため、家庭教育の重要性を考える場となる適切な学習の機会を提供していく必要があります。

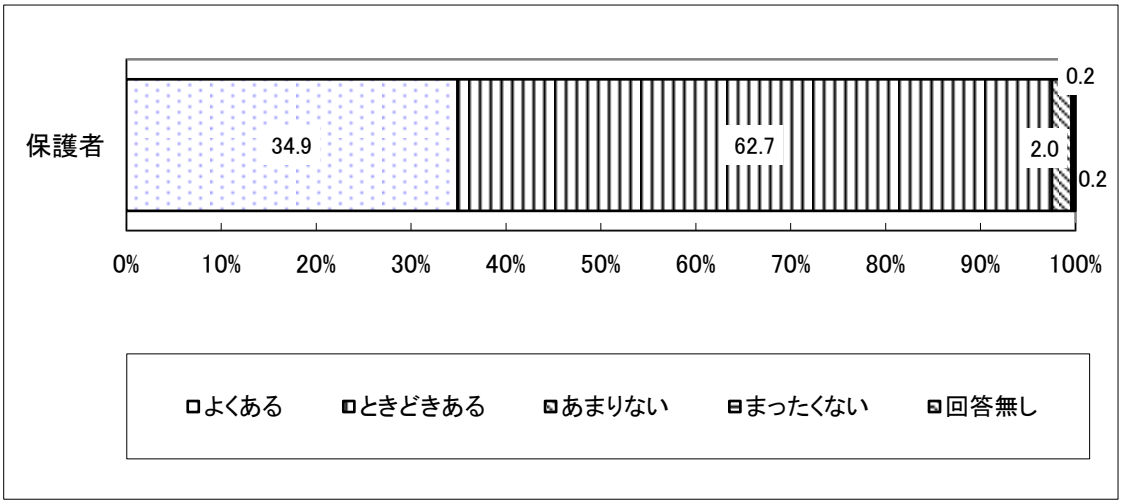
調査内容　21　地域の大人への要望

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>11　明るい健康な家庭づくりに努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>32　敬老の精神を身につけ実践する。　（児童期～青年期）
38　家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。
（青年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年
設問１　あなたが、地域の大人にしてほしいことは、どのようなことですか。
選択肢　１ 声をかけてほしい　２ ほめてほしい　３ 注意してほしい
４ 経験を伝えてほしい　５ 伝統文化を教えてほしい
６ いじめられている時に、助けてほしい　７ 見守ってほしい
８ 遊んでほしい　９ スポーツを教えてほしい
10 おとながきちんとしてほしい　11 子どもの意見をしっかり聞いてほしい
12 関わらないでほしい　13 その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　小学６年と中学３年の両方とも「子どもの意見をしっかり聞いてほしい」「おとながきちんとしてほしい」が上位を占め、次に「経験を伝えてほしい」の順であり、以上の３選択肢を合わせると、それぞれ４０％を超えています。</td></tr>
</table>

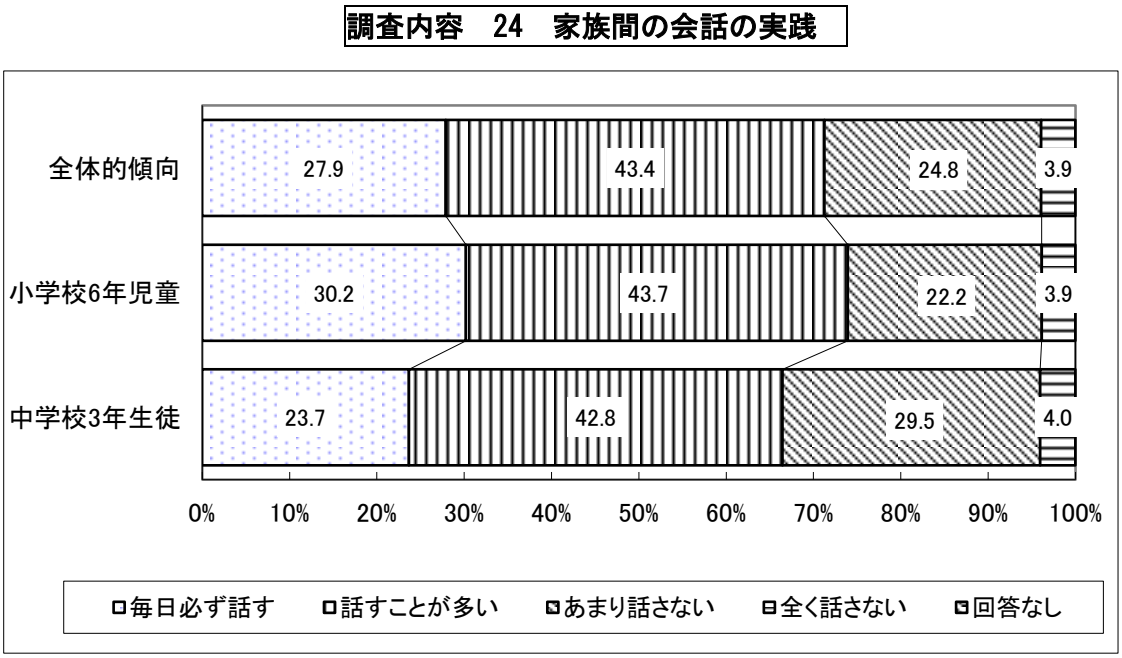
調査内容　㉒　子育てのどこに力を入れるかの把握

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>12　子育てにおける望ましい人格を育てましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>41　人格の基本となる望ましい性格を身につける。（乳幼児期～児童期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　保護者（家庭人）
設問１　あなたは、あなたの子どもを育てている中で、現在特に力を入れているところは、どんなことですか。
選択肢　１ 勉強の習慣　　２ 正直な態度　　３ 人に頼らない　　４ 偏食をしない
５ 協力すること　６ 芸術的な特技　７ 根気強さ　８ じょうぶなからだ
９ 責任感　　10 親切、礼儀　　11 学力を高めること　　12 仲良くすること
13 体育的な特技　　14 公共心　　15 その他</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　核家族化、女性の社会進出など、家庭生活も大きく変化していく中で、子供の生活習慣、感じ方、考え方、価値観などの人格の基本を身につけさせることは、極めて重要な課題です。
○　そこで、子供の望ましい人格を育てる視点から、しつけの実践状況の把握を通して今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　保護者（家庭人）の傾向　　（上段：第６次調査、下段：第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要及び考察</td><td colspan="2">○　回答の上位から「親切・礼儀」、「正直な態度」、「じょうぶなからだ」となっており、第６次調査と比べても、同様の結果となっています。
○　子供の健全な成長を目指し、家庭教育だけでなく、社会教育及び学校教育が連携・協力し合う支援体制を整備する必要があります。</td></tr>
</table>

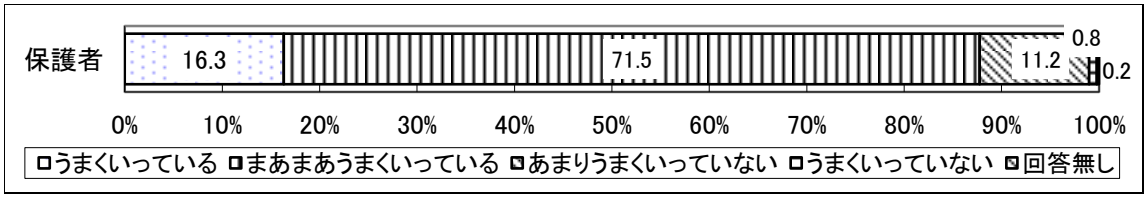
調査内容　23　がまんすることの実践

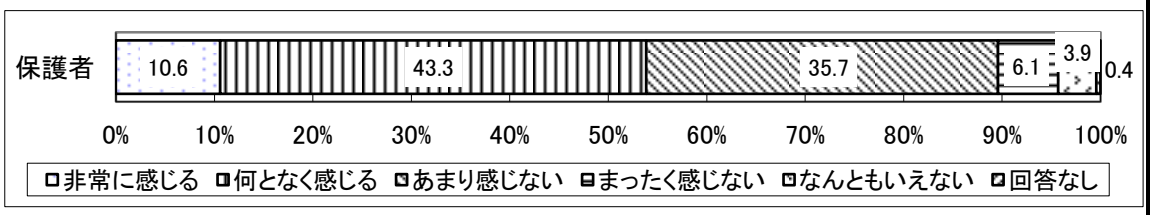
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>12　子育てにおける望ましい人格を育てましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>41　人格の基本となる望ましい性格を身につける。
（乳幼児期～児童期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　保護者（家庭人）
設問１　あなたは、子供の希望に対して時期と内容を考えて、がまんさせることがありますか。
選択肢　１ よくある　　２ ときどきある　　３ あまりない　　４ まったくない</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　保護者（家庭人）の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　「よくある」「ときどきある」を合わせると約９８％となっており、子供にがまんさせる実践をしている保護者がとても多いことがわかります。</td></tr>
</table>

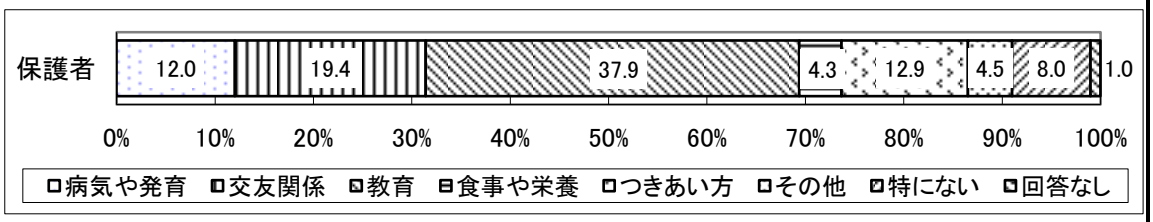
調査内容　24　家族間の会話の実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>11　明るい健康な家庭づくりに努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>38　家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる。
（青年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年
設問１　　あなたは学校から帰って、家の人に今日あったことを話していますか。
選択肢　　１ 毎日必ず話す　　２ 話すことが多い　　３ あまり話さない
４ 全く話さない</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　「毎日必ず話す」「話すことが多い」を合わせると、小学６年で約７４％、中学３年で約６７％となっており、家の人に今日あったことを話す割合が高いことがわかります。</td></tr>
</table>

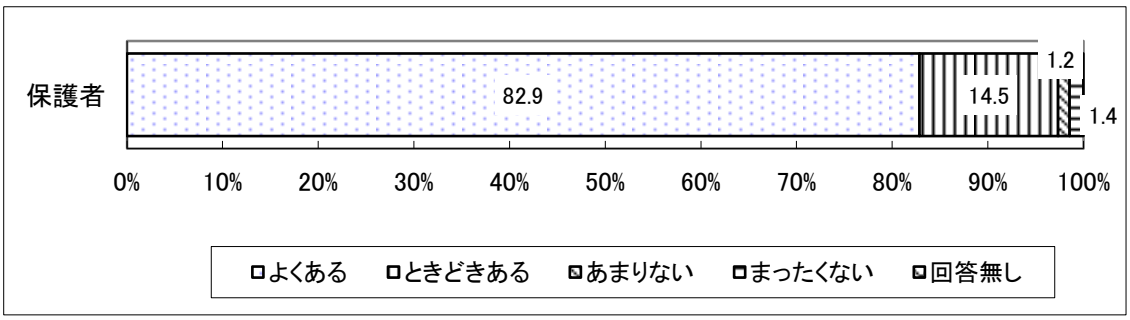
調査内容　25　子育てに関する意識の把握

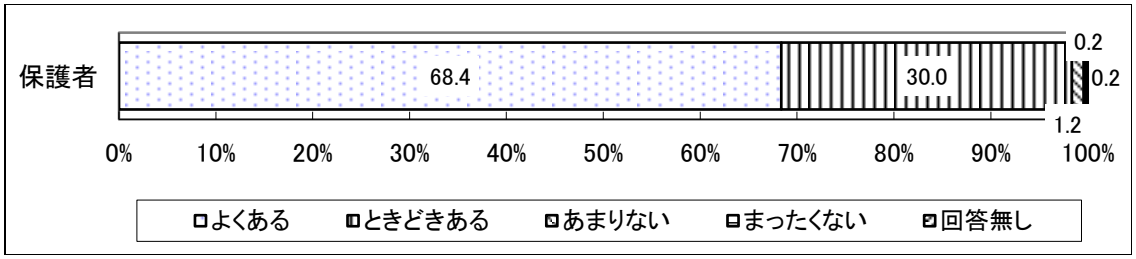
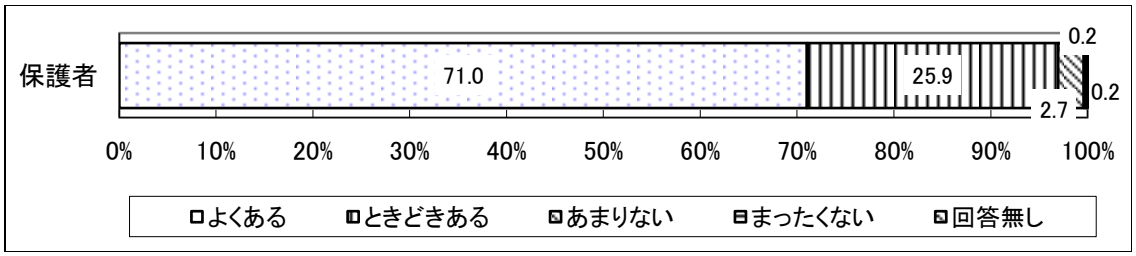
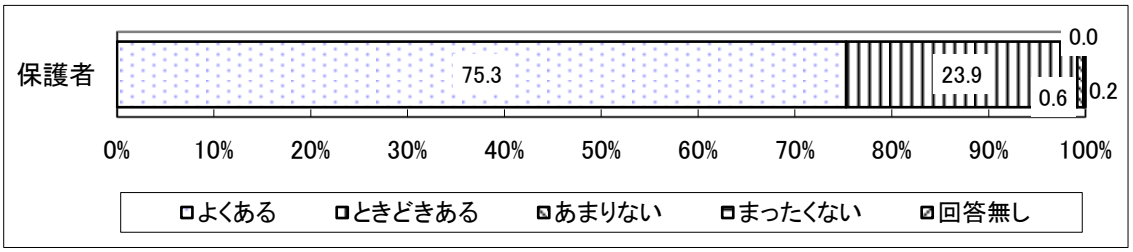
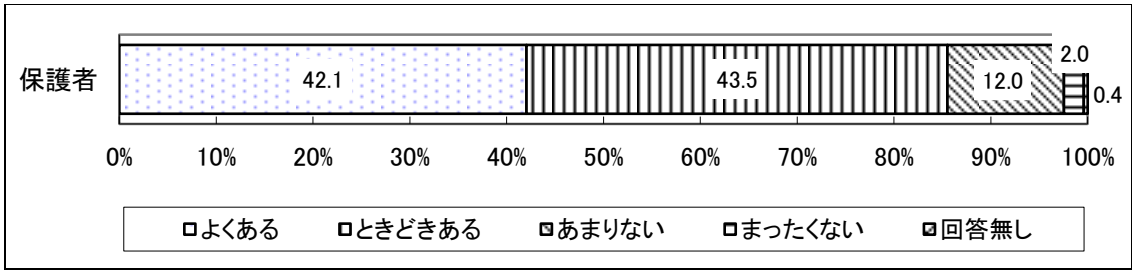
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>11　明るい健康な家庭づくりに努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>37　性について正しい理解をもち、家庭において指導することができる。（壮年期）
41　人格の基本となる望ましい性格を身につける。　（乳幼児期～児童期）
42　子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。　（壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　保護者（家庭人）
設問１　子育てはうまくいっていると感じますか。
選択肢　１　うまくいっている　２　まあまあうまくいっている
３　あまりうまくいっていない　４　うまくいっていない
設問２　子育てに不安や負担を感じますか。
選択肢　１ 非常に感じている　２ 何となく感じている　３ あまり感じていない
４ まったく感じない　５ なんともいえない
設問３　子育てのどのようなことに不安や悩みを感じますか。
選択肢　１　病気や発育　２　交友関係　３　教育　４　食事や栄養
５　子供とのつきあい方　６　その他　７　特にない</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　保護者（家庭人）の傾向（第７次調査）
調査内容　25-１　子育てはうまくいっているか
 

調査内容　25-2　子育てに不安や負担を感じるか
 

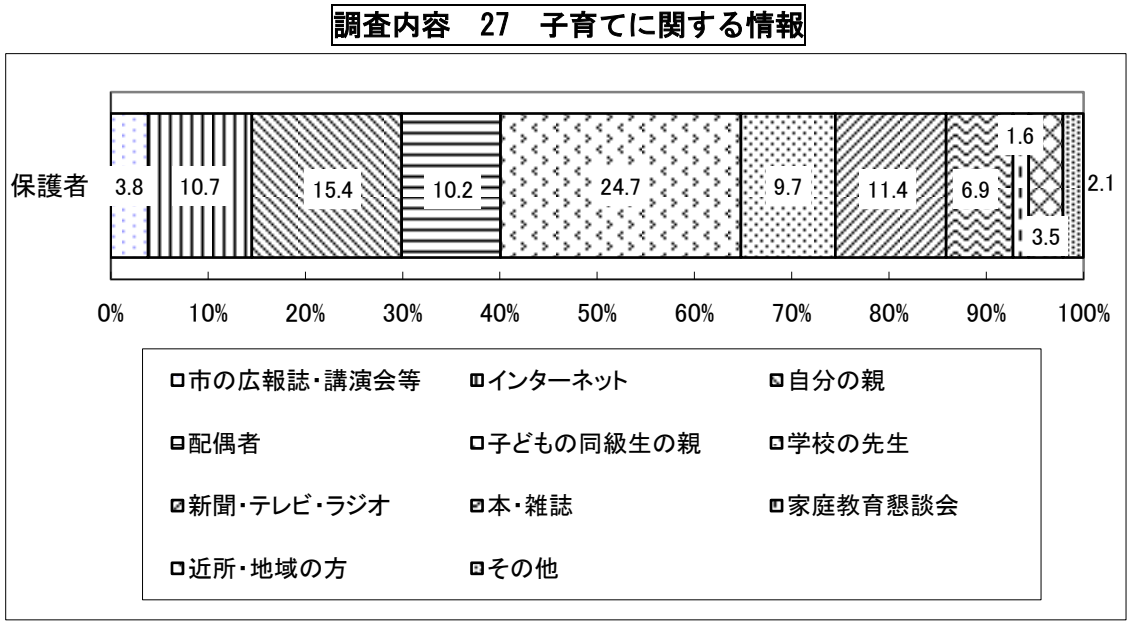
調査内容　25-3　子育てのどのようなことに不安や悩みを感じるか
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　設問１では、「うまくいっている」「まあまあうまくいっている」を合わせると８５％を超えています。設問２では「非常に感じる」「何となく感じる」を合わせると約５４％となっています。設問３では「教育」が一番多く、約４０％となっています。</td></tr>
</table>

調査内容　26　子どもに関わる場面

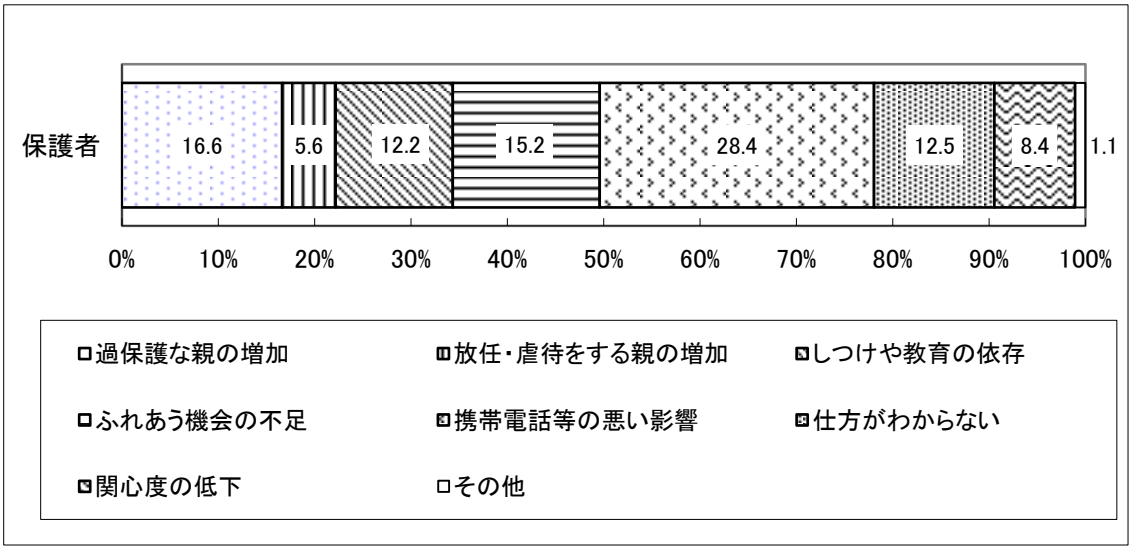
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>11　明るい健康な家庭づくりに努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>38　家族が互いに尊重し合い、明るい家庭生活ができる（青年期～高齢期）
39　家庭や地域で行う行事に積極的に参加する（児童期～青年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　保護者（家庭人）
設問１　学校行事に参加していますか。
選択肢　１ よくある。　２ ときどきある。　３ あまりない。　４ まったくない。
設問２　子どもと友達や先生について話をしていますか。
選択肢　１ よくある。　２ ときどきある。　３ あまりない。　４ まったくない。
設問３　子どもに一日の出来事を聞いていますか。
選択肢　１ よくある。　２ ときどきある。　３ あまりない。　４ まったくない。
設問４　子どもといっしょにでかけていますか。
選択肢　１ よくある。　２ ときどきある。　３ あまりない。　４ まったくない。
設問５　ＰＴＡなど学校の仕事の手伝いをしていますか。
選択肢　１ よくある。　２ ときどきある。　３ あまりない。　４ まったくない。</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　保護者（家庭人）の傾向（第７次調査）
調査内容　26-1　学校行事へ参加しているか
 
</td></tr>
</table>

調査結果	**調査内容　26-2　子どもと友だちや先生について話をしているか**  **調査内容　26-3　子どもに一日の出来事について聞いているか**  **調査内容　26-4　子どもといっしょに出かけているか**  **調査内容　26-5　PTAなど学校の仕事の手伝いをしているか** 
調査結果の概要	○　設問１～４においては、「よくある」「ときどきある」を合わせると約９０％を超えています。設問５では、「よくある」「ときどきある」を合わせると約８５％となっています。

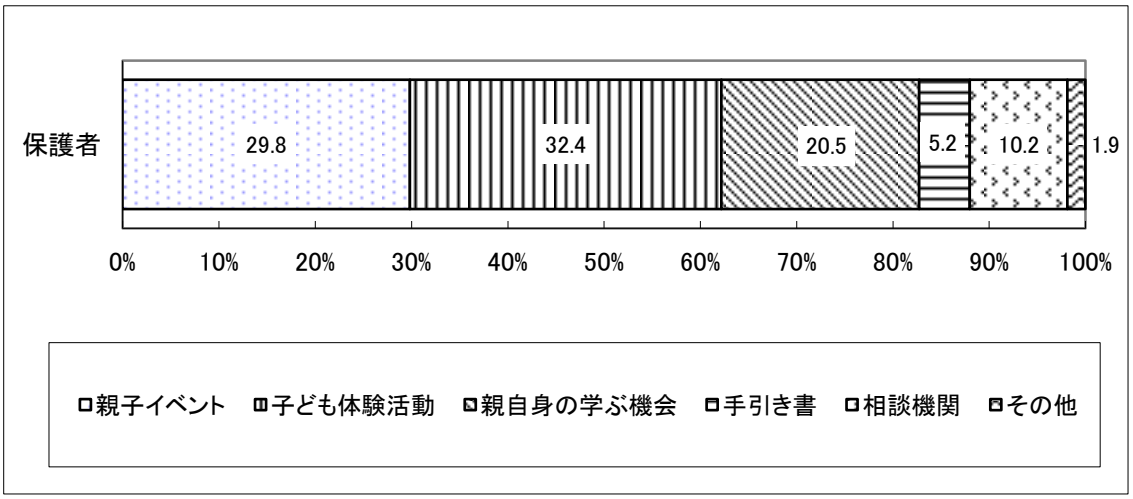
調査内容　27　子育てに関する情報

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>12　子育てにおける望ましい人格を育てましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>41　人格の基本となる望ましい性格を身につける。（乳幼児期～児童期）
42　子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。（壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　保護者（家庭人）
設問１　しつけや、教育に関する情報をどこから得ていますか。
選択肢　１ 市の広報誌・講演会等　２ インターネット　３ 自分の親
４ 配偶者　５ 子どもの同級生の親　６ 学校の先生
７ 新聞・テレビ・ラジオ　８ 本・雑誌　９ 家庭教育懇談会
10 近所・地域の方　11 その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　保護者（家庭人）の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　「子どもの同級生の親」が一番多く、次に「自分の親」、「新聞・テレビ・ラジオ」「インターネット」の順になっています。</td></tr>
</table>

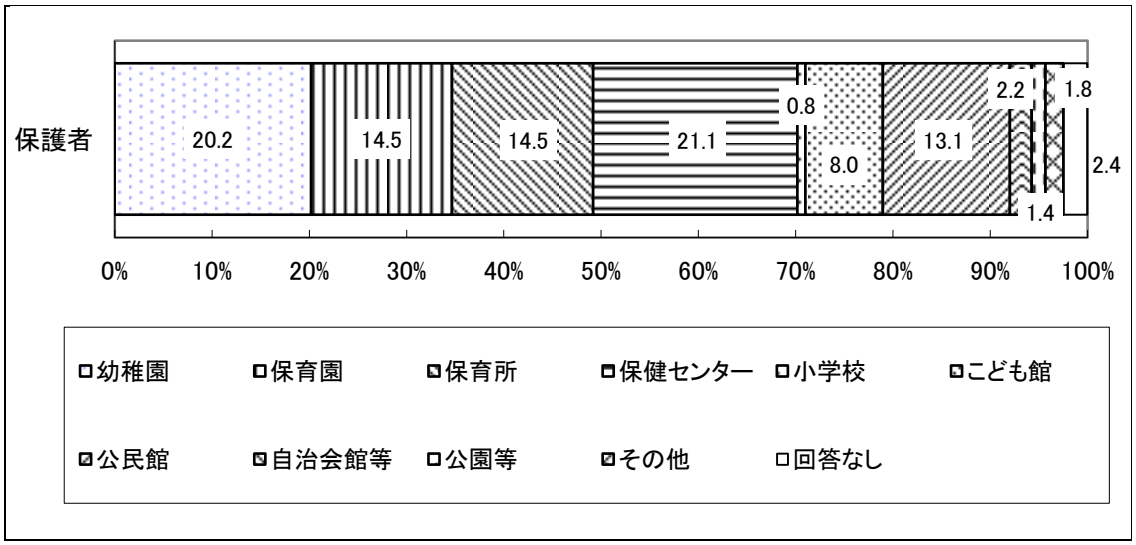
調査内容　28　家庭の教育力

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>12　子育てにおける望ましい人格を育てましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>41　人格の基本となる望ましい性格を身につける。（乳幼児期～児童期）
42　子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。（壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　保護者（家庭人）
設問１　家庭の教育力低下の原因はどのようなことだと考えられますか。
選択肢　　１ 過保護な親の増加　　２ 放任・虐待をする親の増加
３ しつけや教育の依存　　４ ふれあう機会の不足
５ 携帯電話等の悪い影響　　６ 仕方がわからない
７ 関心度の低下　　８ その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　保護者（家庭人）の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　「携帯電話等の悪い影響」が一番多く、次に「過保護な親の増加」、「ふれあう機会の不足」の順になっています。</td></tr>
</table>

調査内容　29　家庭教育への取り組みの意識

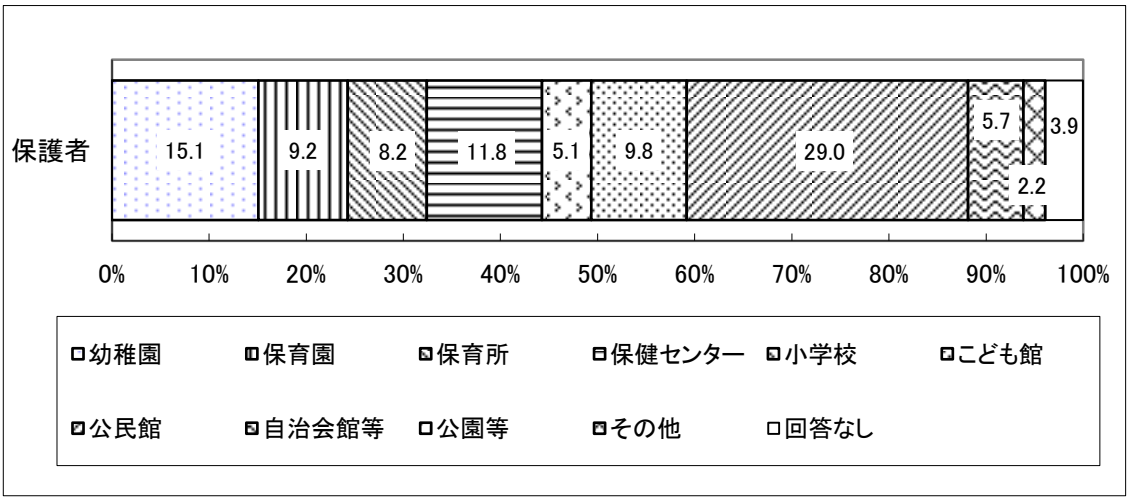
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>12　子育てにおける望ましい人格を育てましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>42　子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。（壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　保護者（家庭人）
設問１　　家庭教育を充実するには、どのような取り組みをしていけばよいと思いますか。
選択肢　　１ 親子イベント　　２ 子ども体験活動　　３ 親自身の学ぶ機会
４ 手引き書　　５ 相談機関　　６ その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　保護者（家庭人）の傾向（第７次調査）
調査内容　29　家庭教育への取り組みの意識
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　「子ども体験活動」が一番多く、次に「親子イベント」、「親自身の学ぶ機会」の順となっています。</td></tr>
</table>

調査内容　30　子育てについての相談や学習

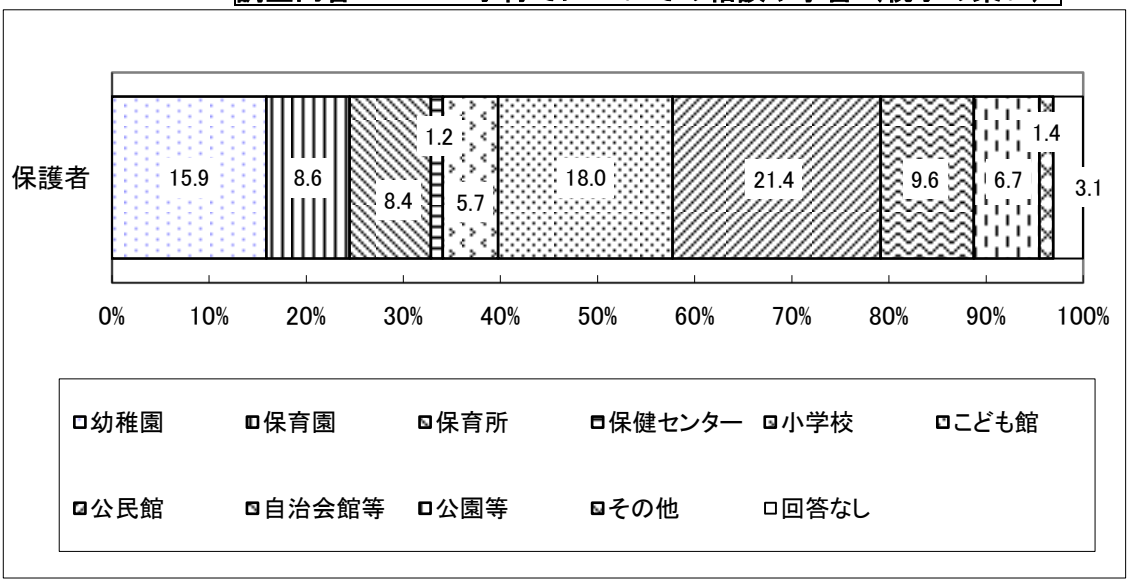
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき家庭人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>12　子育てにおける望ましい人格を育てましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>42　子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。（壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　保護者（家庭人）
設問１　未就学児の子育て相談（育児相談）で利用しやすい場所はどこですか。
選択肢　１ 幼稚園　２ 保育園　３ 保育所　４ 保健センター　５ 小学校
６ こども館　７ 公民館　８ 自治会館等の集会施設　９ 近所の公園等
10 その他
設問２　未就学児の子育ての学習（育児講座）で利用しやすい場所はどこですか。
選択肢　１ 幼稚園　２ 保育園　３ 保育所　４ 保健センター　５ 小学校
６ こども館　７ 公民館　８ 自治会館等の集会施設　９ 近所の公園等
10 その他
設問３　未就学児の親子の集いで利用しやすい場所はどこですか。
選択肢　１ 幼稚園　２ 保育園　３ 保育所　４ 保健センター　５ 小学校
６ こども館　７ 公民館　８ 自治会館等の集会施設　９ 近所の公園等
10 その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　保護者（家庭人）の傾向（第７次調査）
調査内容　30-1　子育てについての相談や学習（育児相談）
 
</td></tr>
</table>

調査結果

調査内容30-2　子育てについての相談や学習（育児講座）



調査内容　30-3　子育てについての相談や学習（親子の集い）

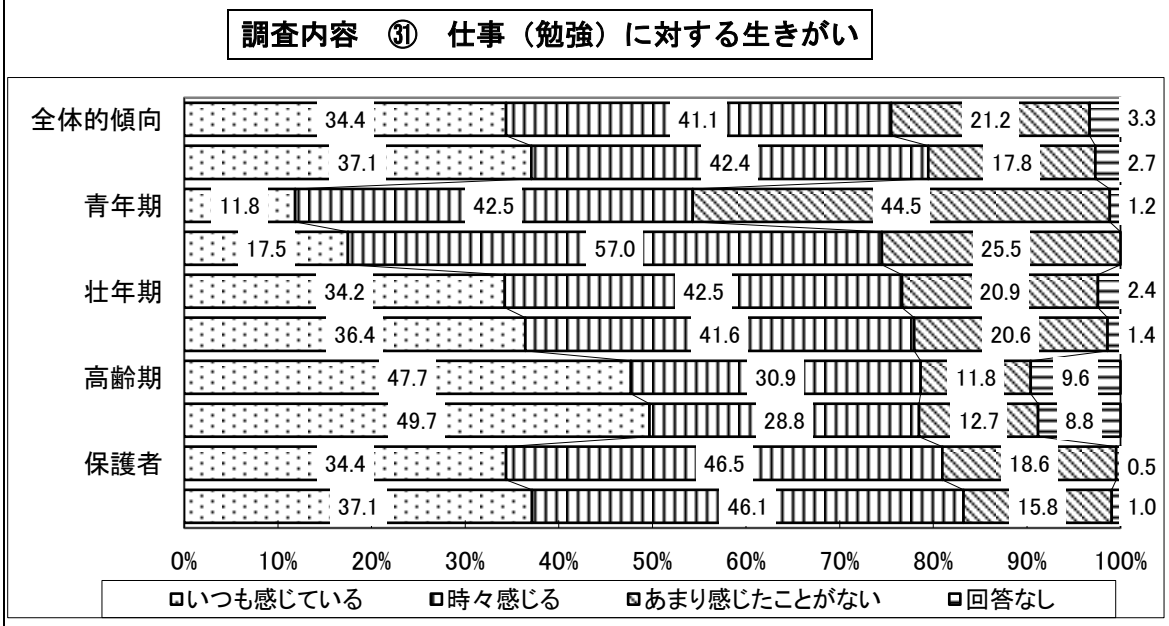


調査結果の概要

○　設問１においては、「保健センター」が２１％となっており、「幼稚園」「保育園」「保育所」を合わせると約４９％となっています。設問２では「公民館」が２９％となっており、「幼稚園」「保育園」「保育所」を合わせると約３３％となっています。設問３では一番多い利用場所は「公民館」で約２１％となっています。「幼稚園」「保育園」「保育所」を合わせると約３３％となっています。

（５）よき職業人の育成

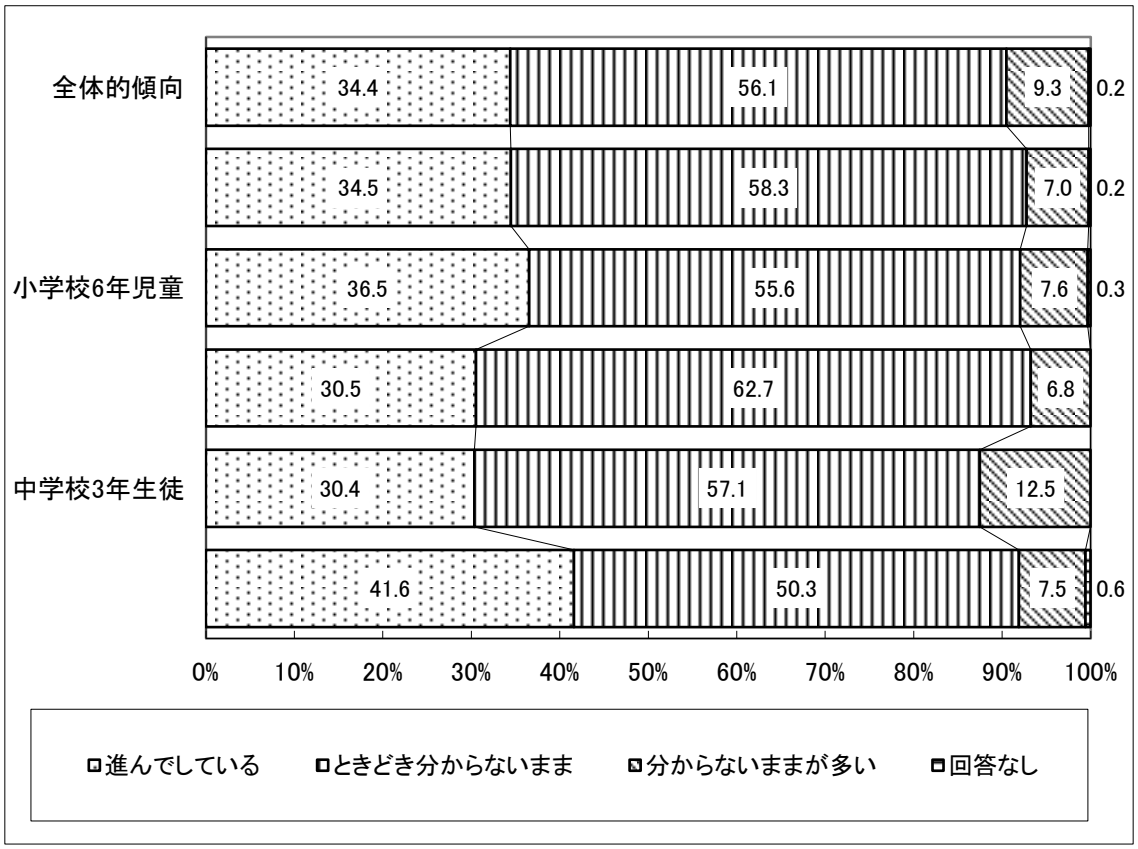
調査内容　㉛　仕事（勉強）に対する生きがい

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>よき職業人の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>14　職業を通して生きがいをもてるようになりましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>45　職業を通して生きがいがもてる。（青年後期～壮年期）
46　勤労の尊さを理解し実践する。（児童期～青年期）
49　再就職では、身につけた知識や技能を生かすことができる。（高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたは、自分の職業や仕事（勉強）に生きがいを感じることがありますか。
選択肢　１　いつも感じている。
２　ときどき感じることがある。
３　あまり感じたことがない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　勤労の大切さや尊さを理解し、また、自分の知識や技能を生かし、毎日の仕事に生きがいを感じることは極めて大切です。
○　そこで、よき職業人の育成という観点から、子供達が勤労に一生懸命取り組んでいるか、また、壮年期、高齢期の人たちが仕事に対して生きがいを感じているかなどについての意識を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）の傾向
（上段：第６次調査、下段：第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要及び考察</td><td colspan="2">○　仕事(勉強)に対する生きがいの全体的傾向は、第６次調査とほぼ同じ状況となっています。年代別に見ると、壮年期､高齢期と年代が高くなるにつれ､増加傾向にあります。青年期は、他の年齢層より意識は低いですが、第６次調査と比較するとやや高くなっています。
○　これらのことから、今後も学校における勤労の尊さの理解と実践を積み重ねるとともに、職場においては自分の適性や能力を生かしキャリアアップが図れるよう、各種研修講座等への参加を一層促進し、意欲をさらに向上させる必要があります。</td></tr>
</table>

（６）　主体的な生活態度の育成

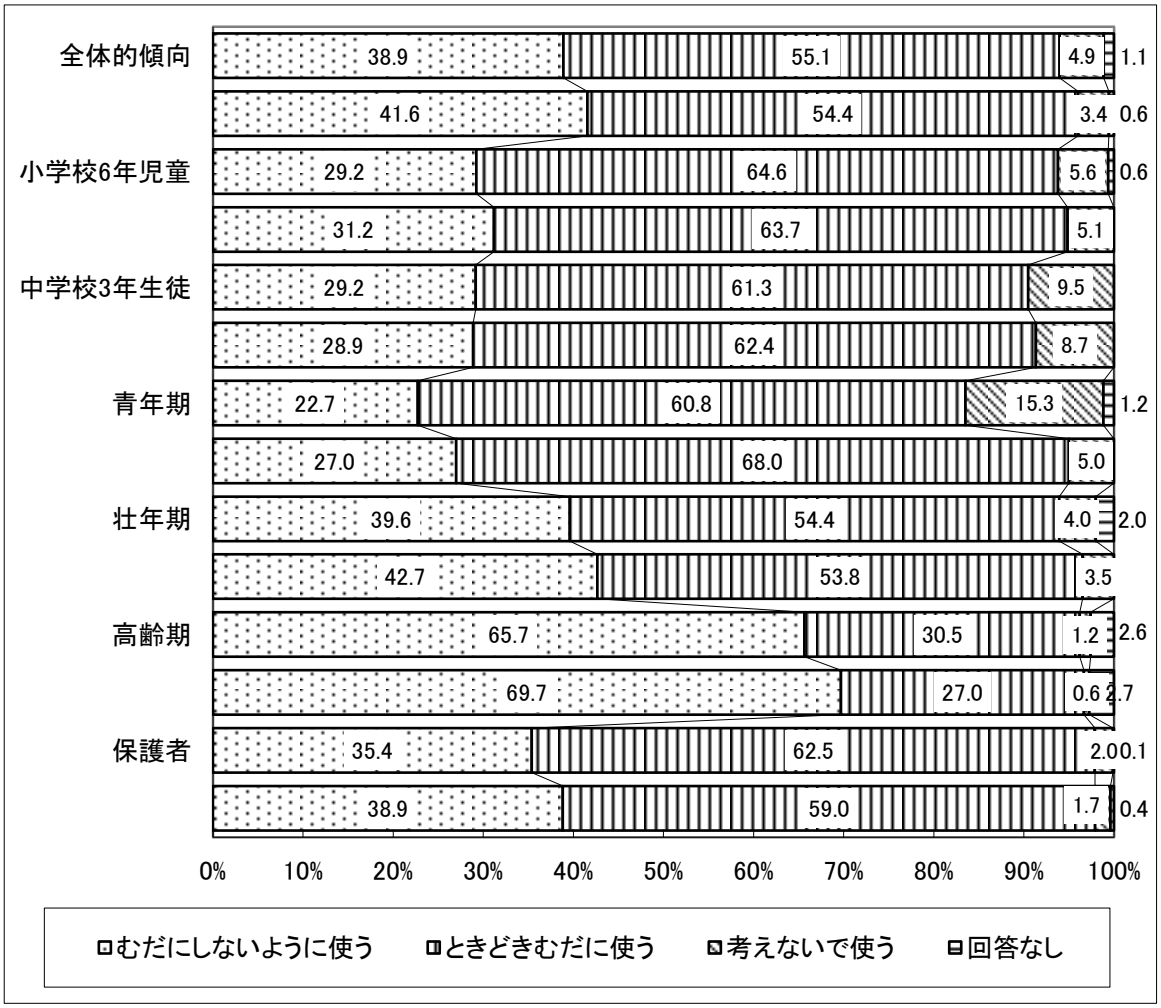
調査内容　㉜　基礎的な知識や技能の習得と主体的な学習態度の育成

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し、創意工夫に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>52　基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。
（児童期～青年期）
54　基本的な生活習慣を身につけ、自ら考え正しく判断し行動することができる。（児童期）
55　日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。（青年期）
58　自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。
（児童期～青年期）
59　困難にくじけず、ねばり強くやり遂げる態度を身につける。
（児童期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年
設問１　　あなたは、疑問に思ったことや分からないことに出会ったとき、どうしていますか。
選択肢　　１　いつも進んで解決しようとしている。
２　ときどき分からないままにしている。
３　分からないままにしていることが多い。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　一人一人の人間性を豊かにするために、個性を生かしながら、生涯にわたり主体的に学ぶための意欲や基礎的・基本的な知識や技能を、小中学生のときに確実に身につけていくことが大切です。
○　科学技術の高度化や、産業構造の変化、国際化、情報化等に伴い、社会の変化は著しいものがあります。次代に生きる青少年にとって、このような急速な社会の変化に主体的に対応できる能力・資質を小中学生のときに培うことが重要です。
○　そこで、生涯にわたって学び続けるのに必要な基礎的な知識や技能の習得を促し、主体的な態度を育成するための基礎となる時期である児童期及び青年期における実践状況を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

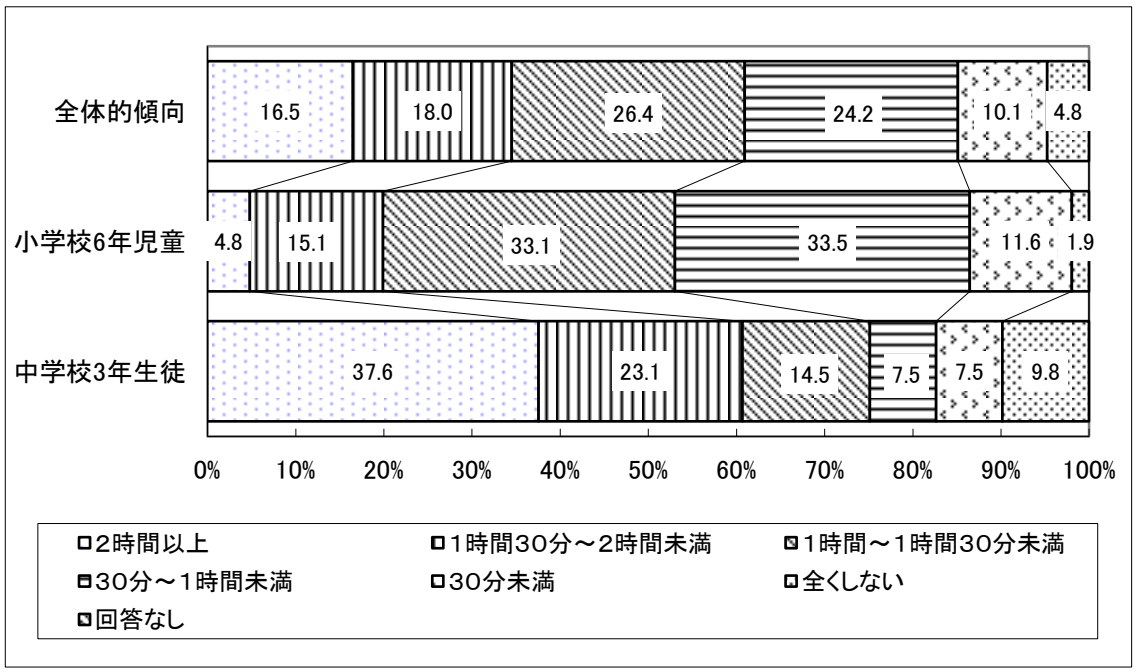
調査結果	○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　㉜　基礎的な知識や技能の習得と主体的な学習態度の育成** 
調査結果の概要及び考察	○　「問題点・不明点の対応」について小中学生の全体的な傾向は、第６次調査と比べると、同様の結果となっています。 小中学校別では、「進んで解決する」と回答した割合は小学６年が低くなり、中学３年が高くなっています。学習などで疑問に思ったことはそのままにせず、先生や友達に聞いて解決しようとする態度が大切です。 ○　問題や疑問を進んで解決できるようにするためには、自然や社会の事物や現象について興味・関心をもたせ、困難にぶつかったときにねばり強くやり遂げる態度を養うことが必要です。そこで、発達段階に応じて見通しをもって主体的に物事を考えさせ、解決した時の喜びを味わわせることが大切です。

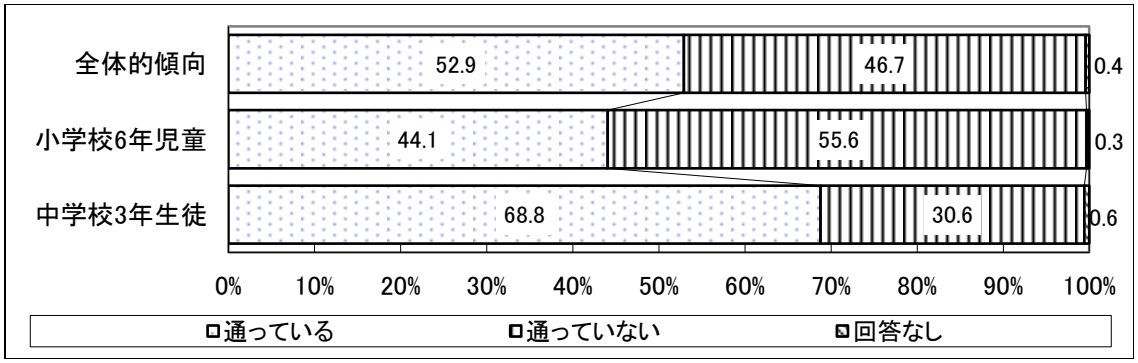
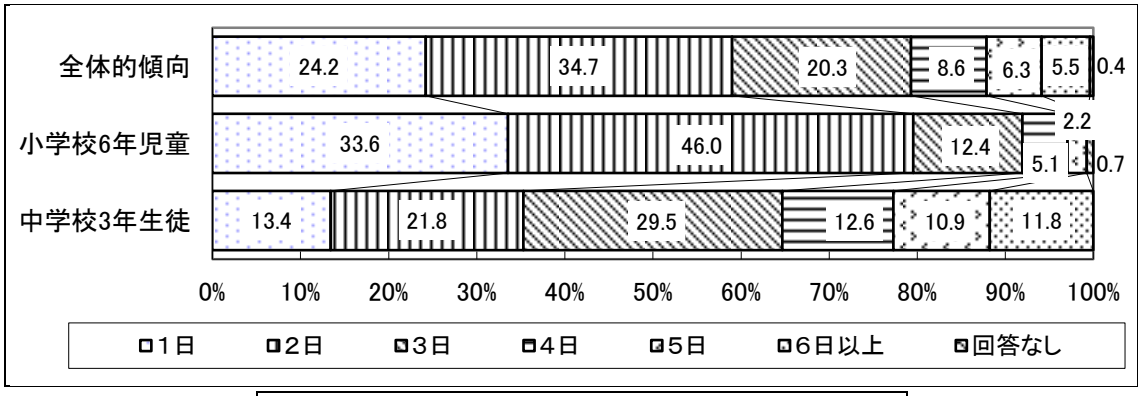
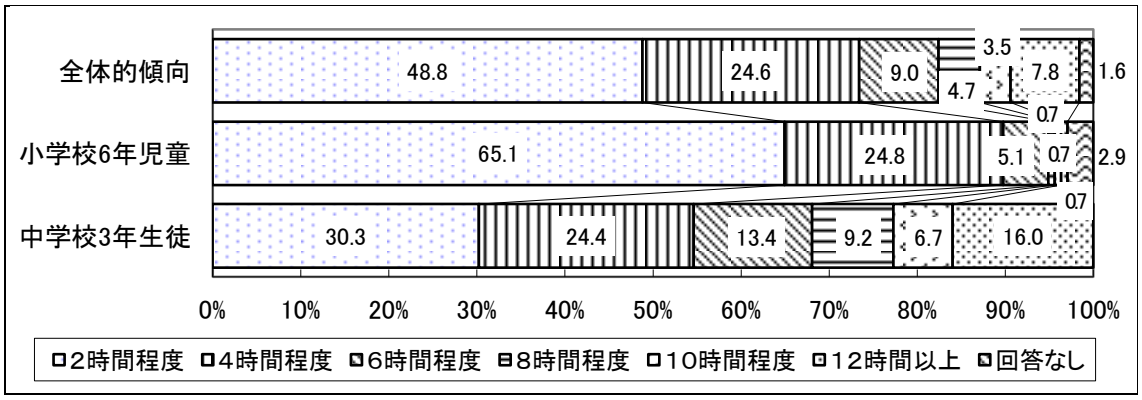
調査内容　㉝　水や電気、ものの節約

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>17　ものを大切にし、資源を有効に活用しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>61　ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。
（乳幼児期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年、１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　　あなたは、省エネやリサイクルの視点から、水や電気、ものを大切に使っていますか。
選択肢　　１　いつも省エネやリサイクルに心がけ、むだにしないように使っている。
２　ときどきむだに使ってしまうことがある。
３　省エネやリサイクルのことを考えないでむだに使うことが多い。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　「水や電気の節約の意識」については、第６次調査では、第５次調査より「むだにしないように使う」の実践状況が低くなっていました。
○　資源を大切にし、私たちの消費生活について、むだのない購入や、水や電気に代表されるエネルギー資源の有効な活用は、産業発展や自然環境の保護のためばかりではなく、豊かな生活を営む上でも重要なことです。そこで、小学６年生から高齢期、さらには保護者における実践状況を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

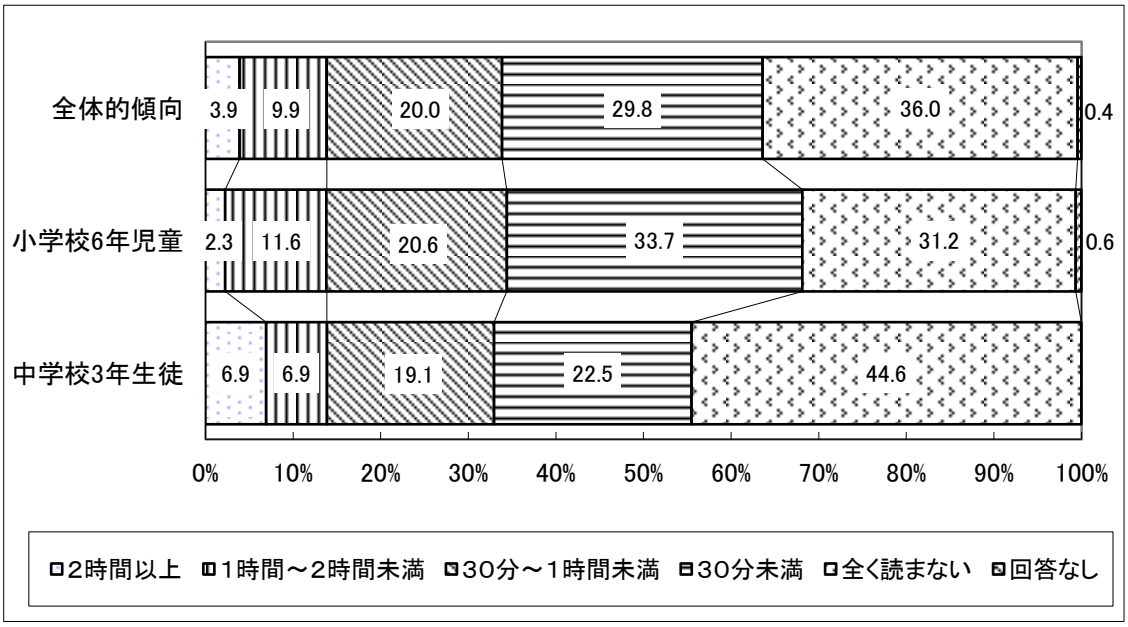
調査結果	○　全体的傾向、人生各期及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　㉝　水や電気、ものの節約** 
調査結果の概要及び考察	○　「水や電気の節約」の実践状況の全体的傾向としては、「むだにしないように使う」は、第７次調査は、第６次調査より実践状況が高くなっています。東日本大震災を契機として、市民の省エネに対する取り組みの関心は高まっていることがうかがえます。 　人生の各期においても、第６次調査より高くなりましたが、青年期においては、第６次調査と同様に、低い傾向があります。 ○　そこで、今後も限られた資源を有効に活用するために、ものを大切にし、リサイクル等を通して実践意欲を養うことが大切です。学校・地域・家庭において資源の有効利用とものを大切に活用する習慣を身につけさせる必要があります。

調査内容　34　家庭での学習と学習塾についての現状

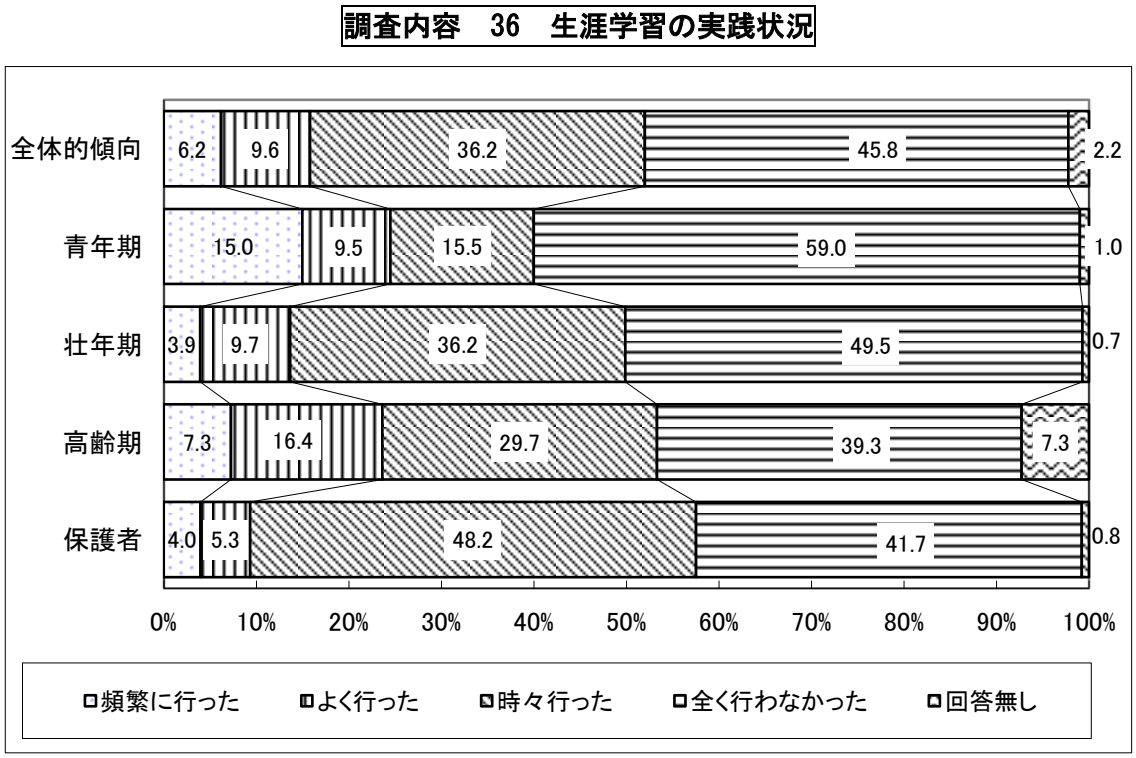
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>52　基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。
（児童期～青年期）
54　基本的な生活習慣を身につけ、自ら考え正しく判断し行動することができる。（児童期）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年
設問１　あなたは、毎日、家でどのくらい学習していますか。（塾は含まない）
選択肢　　１ 2時間以上 ２ 1時間30分～2時間未満 ３ 1時間～1時間30分未満
４ 30分～1時間未満 ５ 30分未満 ６ 全くしない</td></tr>
<tr><td colspan="2">設問２　あなたは、学習塾（国語や算数、英語など）に通っていますか。
選択肢　　１　通っている　　２　通っていない</td></tr>
<tr><td colspan="2">設問３　週に何日くらい塾で勉強していますか。
選択肢　　１　1日　２　2日　３　3日　４　4日　５　5日　６　6日以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">設問４　週に何時間くらい塾で勉強していますか。
選択肢　　１　２時間程度　　２　４時間程度　　３　６時間程度
４　８時間程度　　５　１０時間程度　　６　１２時間以上</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
調査内容　34-1　家庭での学習時間（塾は含まない）
 
</td></tr>
</table>

調査結果	**調査内容　34-2　学習塾に通っている児童・生徒の割合**  **調査内容　34-3　週に何日塾に通っているか**  **調査内容　34-4　週に何時間塾で勉強しているか** 
調査結果の概要	○　一日平均の学習時間の調査においては、「２時間以上」と回答した割合が、小学６年では約５％、中学３年では約３８％となっています。 ○　国語や算数・数学、英語などの学習塾に通っているかの調査においては、小学６年では約４４％、中学３年では約６９％が「通っている」と回答しています。 ○　学習塾に通っている週平均の日数の調査においては、小学６年では「週に２日」、中学３年では「週に３日」が一番多くなっています。 ○　学習塾での週平均の学習時間の調査においては、「週に２時間程度」が一番多く、小学６年で６５％、中学３年では約３０％となりましたが、中学３年では１６％が「週に１２時間以上」と回答しています。

調査内容　35　家での読書に関する実践

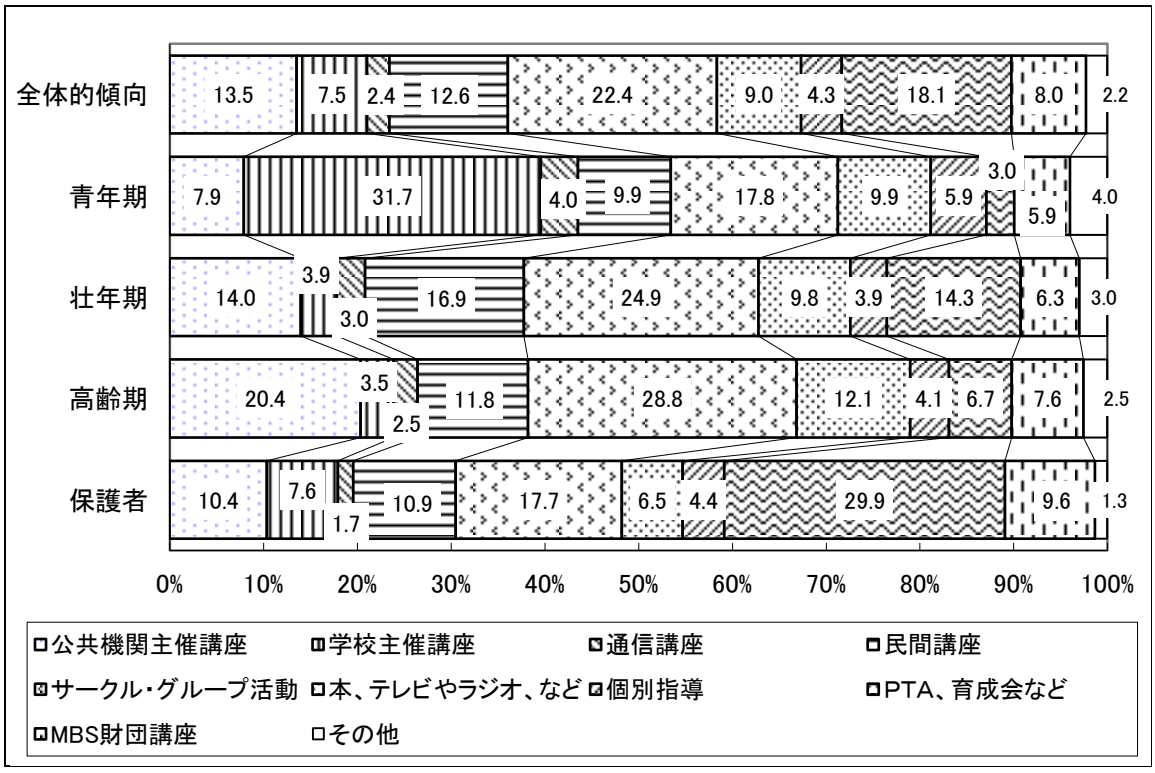
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>18　自由時間を有効に活用しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>58　自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。（児童期～青年期）
62　余暇を有効に過ごす。（児童期～青年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年
設問１　　あなたは、家に帰ってから１日平均どれくらい読書しますか。
選択肢　　１ 2時間以上　２ 1時間～2時間未満　３ 30分～1時間未満
４ 30分未満　５ 全く読まない</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　家に帰ってからの１日平均の読書時間の調査において、「３０分未満」「全く読まない」と回答した割合が、小学６年では約６５％、中学３年では約６７％となっています。「２時間以上読む」と回答した割合は、小学６年で約２％、中学３年で約７％と読書時間は短い傾向にあります。</td></tr>
</table>

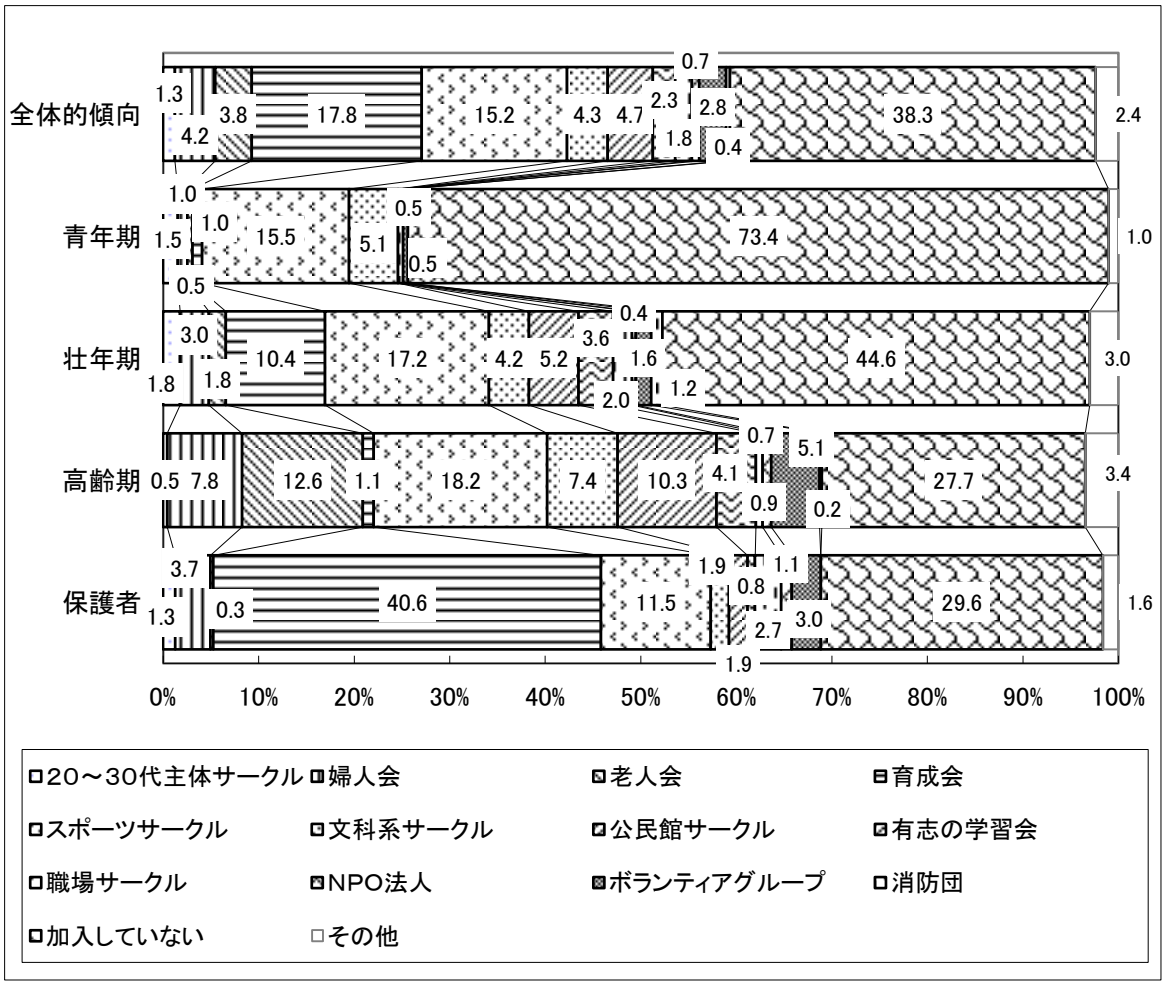
調査内容　36　生涯学習の実践状況

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>55　日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。（青年期）
56　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努める。（壮年期）
57　高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。（高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたは、最近１年間に生涯学習活動をどの程度行いましたか。
選択肢　１　頻繁に行った（週に４～５回以上）　２　よく行った（週に２～３回程度）
３　時々行った（週に１回程度～月に１回程度）
４　全く行わなかった</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、約４６％が「全く行わなかった」と一番多く回答しています。続いて約３６％が「時々行った」という回答です。特に、青年期では５９％が「全く行わなかった」という結果になっています。</td></tr>
</table>

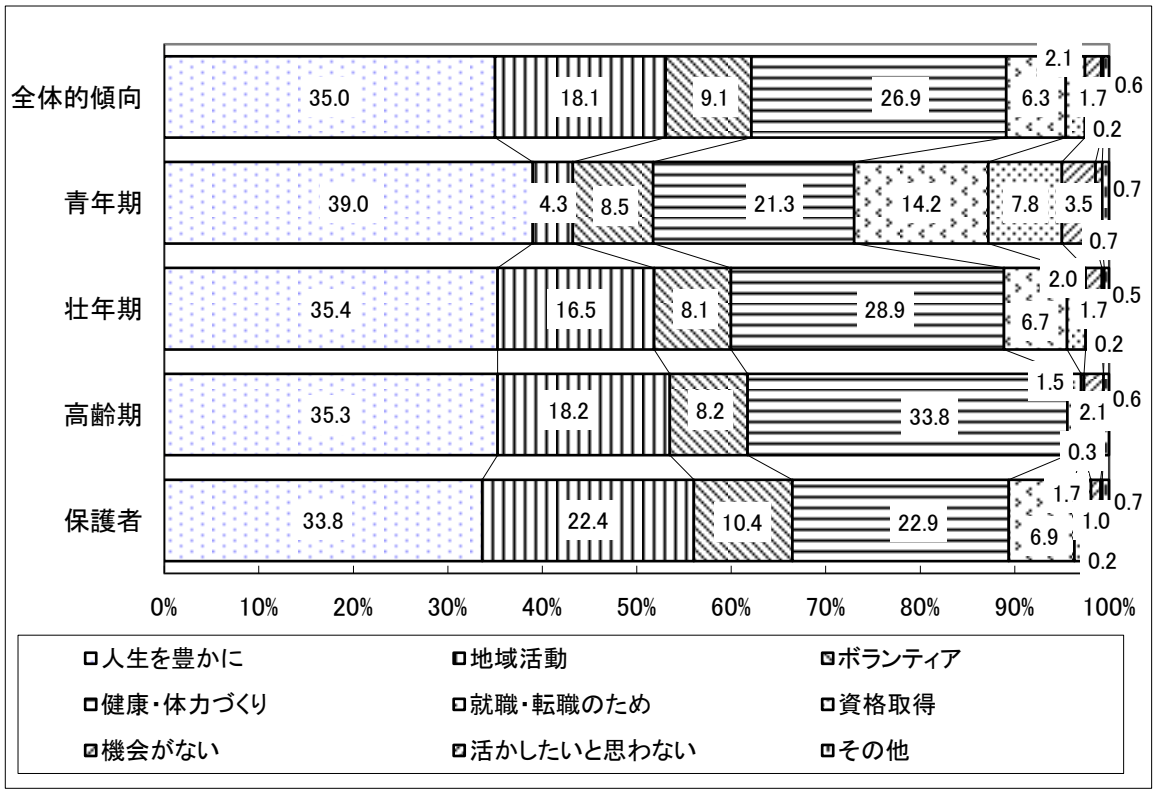
調査内容　37　生涯学習の活動形態

観　点	解　説	
教育目標との関連	柱	主体的な生活態度の育成
	集約内容	16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努めましょう。
	人生各期の教育目標	55　日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。（青年期） 56　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努める。（壮年期） 57　高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。（高齢期）
調査問題	対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人） 設問１　あなたは、どのように生涯学習活動を行っていますか。 選択肢　１　公共機関主催の学級・講座　２　学校（高校、専門学校、短大、大学、大学院等）の主催講座など　３　通信講座（放送大学）、Ｅラーニング（インターネット）　４　民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなど　５　サークル・グループ活動　６　本、テレビやラジオなど　７　講師や指導者からの個別指導　８　市民活動団体（ＮＰＯ）、ＰＴＡ、育成会など　９　MBS 財団の講座　10　その他	
	設問２　あなたは現在、どのような団体・サークル・クラブなどに入っていますか。 選択肢　１　20～30 代を主体としたサークル　２　婦人会・女性会　３　老人会　４　育成会　５　スポーツサークル　６　文化系サークル　７　公民館などを主体としたサークル　８　有志の学習会　９　職場のサークル　10　ＮＰＯ法人　11　ボランティアグループ　12　消防団　13　加入していない　14　その他	
調査結果	○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査） **調査内容　37-1　どのような生涯学習活動を行っているか**	

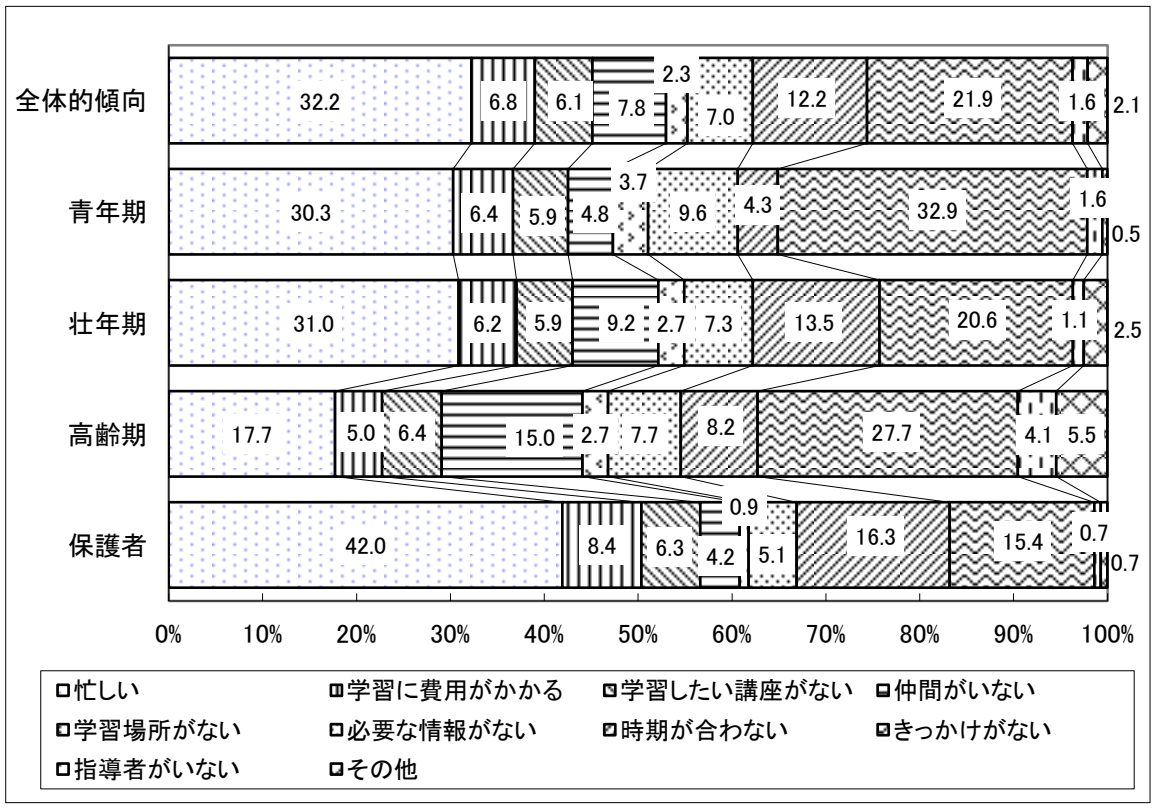


調査結果	○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査） **調査内容　37-2　どのような団体・サークルに加入しているか** 
調査結果の概要	○　どのような生涯学習活動を行っているかについては、全体的傾向として、約２２％が「サークル・グループ活動」で最も高くなっていますが、保護者においては学校との関連から「ＰＴＡ、育成会など」が約３０％と最も高くなっています。 ○　団体・サークルへの加入状況では、全体的傾向として「加入していない」が一番高く次に「育成会」の活動、「スポーツサークル」への参加という順になっています。「育成会」については保護者を中心として高いが、「スポーツサークル」については、どの世代も同じような加入状況です。

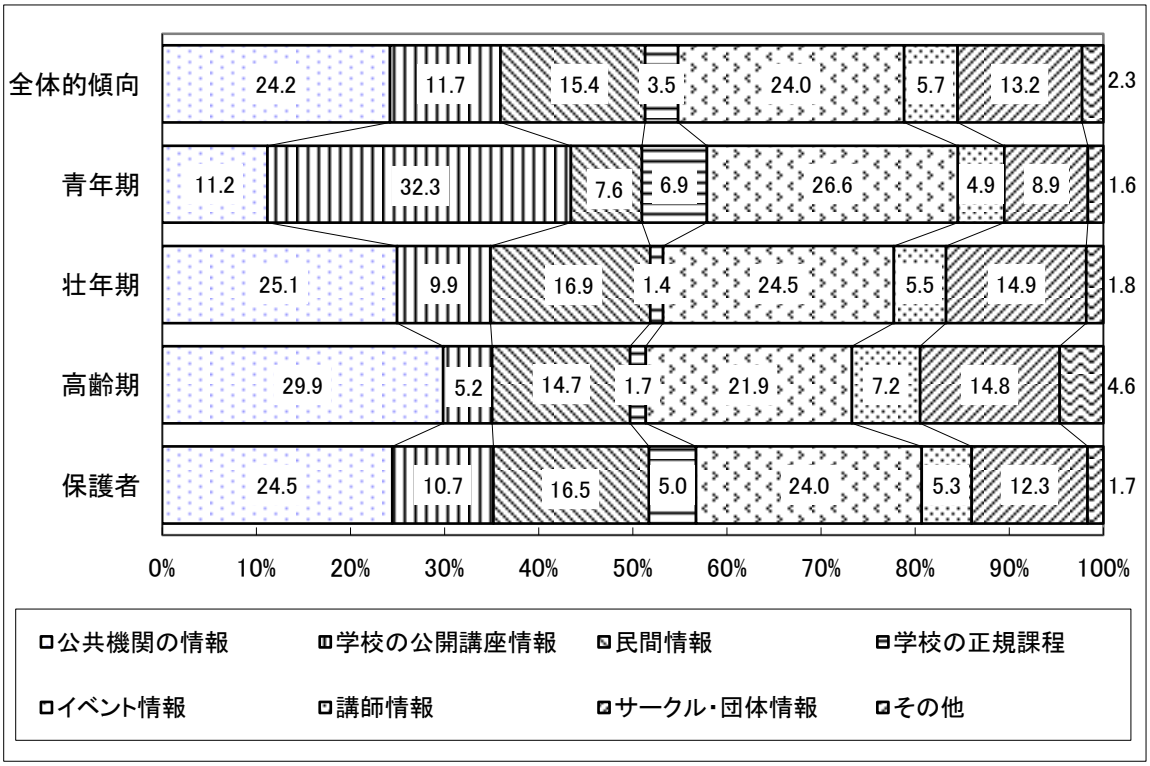
調査内容　38　学習成果の活かし方

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>58　自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。
（児童期～青年期）
60　将来を見通して計画的な生活をする。　（青年期～壮年期）
66　高齢者としての役割を認識し、情報を若い世代に伝えることができる。
（高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたは、学習活動の成果をどのように活かしたいと思いますか。
選択肢　１　自分の人生をより豊かにしたい　２　日常生活や地域での活動
３　ボランティア活動、市民活動　４　健康・体力づくり　５　現在の仕事や将来の就職・転職に役立てるため　６　資格を取得するため
７　活かす機会がない　８　活かしたいと思わない　９　その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　38　学習成果の活かし方
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　人生各期とも「人生を豊かにしたい」が一番高く、次に「健康・体力づくり」の順になっています。</td></tr>
</table>

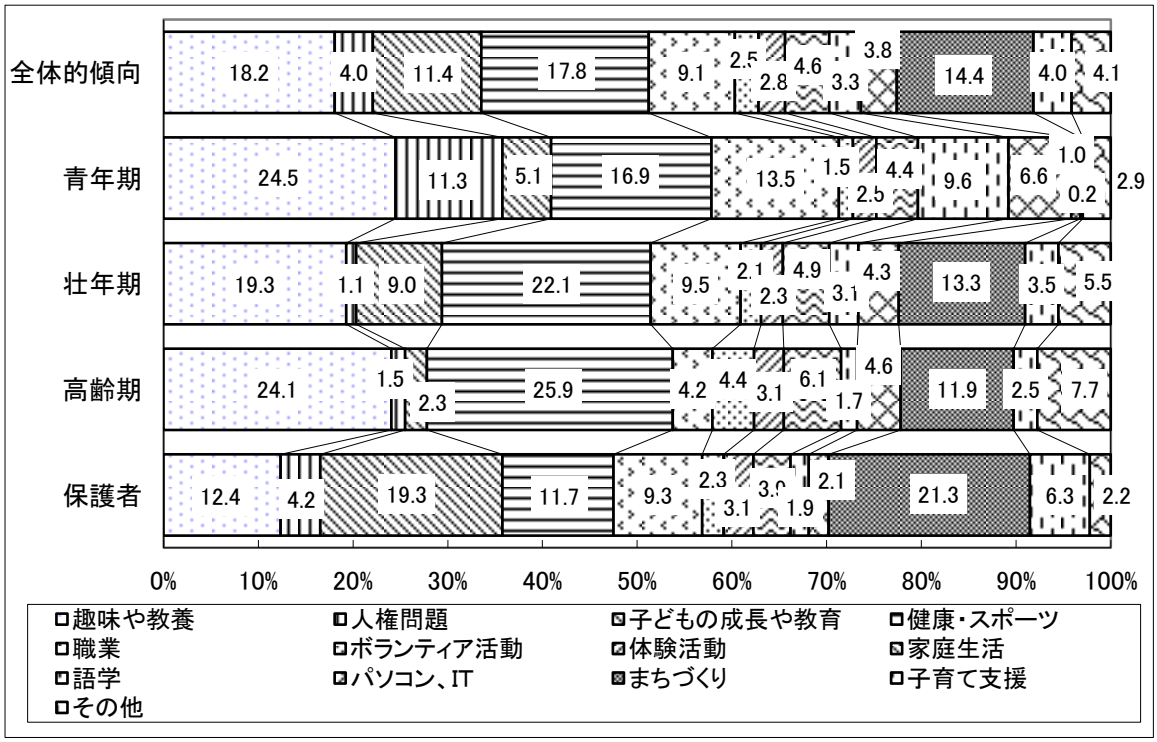
調査内容　39　生涯学習ができない理由

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>58　自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。（児童期～青年期）
60　将来を見通して計画的な生活をする。（青年期～壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたが生涯学習活動を全く行わなかった理由はなんですか。
選択肢（３つ以内に○）１　忙しくて時間がとれない。　２　学習に費用がかかるから　３　学習したい講座や教室などが身近にない。　４　いっしょに学習活動をする仲間がいない。　５　身近なところに学習施設や学習場所がない。　６　必要な情報が入手できない。　７講座や教室などが行われる時期・曜日・時間が合わない。　８　きっかけがなかったり、必要性を感じなかったりする。　９　適当な指導者がいない。　10　その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として「忙しくて時間がとれない」が生涯学習活動に参加できない理由の約３２％を占めています。青年期や高齢期は、忙しいという理由より「きっかけがなかったり、必要性を感じなかったりする」という割合が高くなっています。</td></tr>
</table>

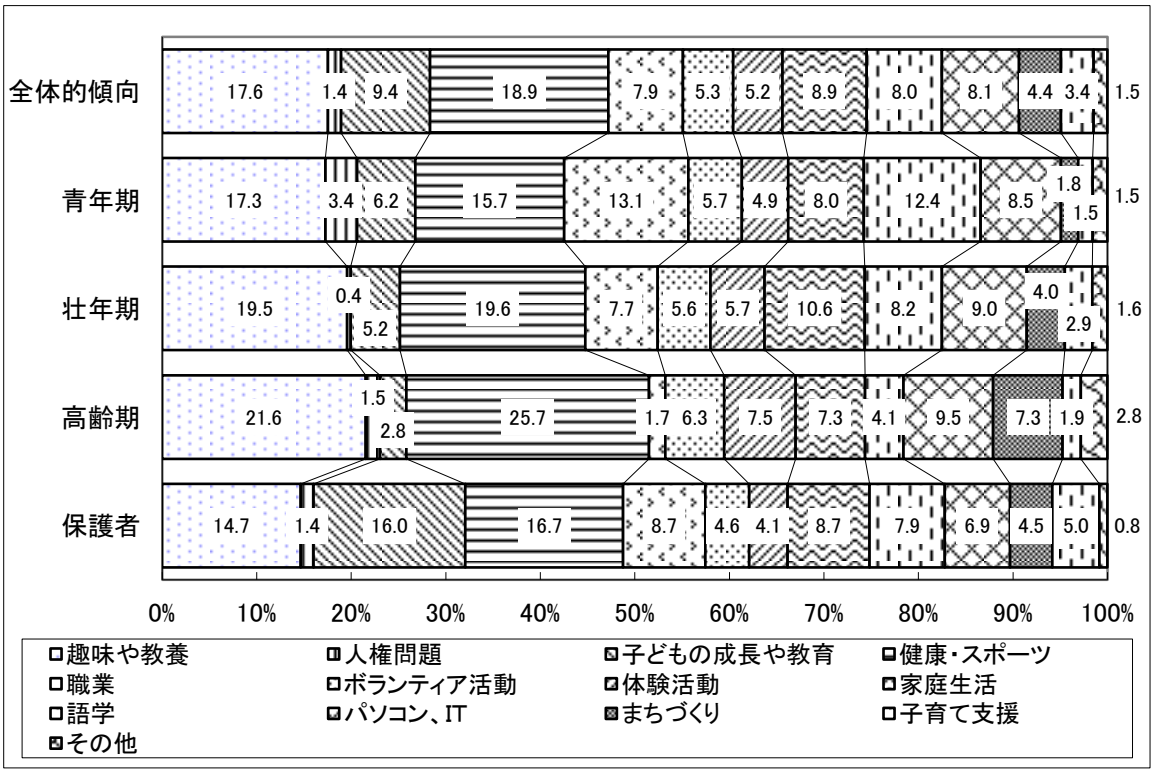
調査内容　40　生涯学習情報について

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>19　身のまわりの情報の整理と活用に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>65　情報を的確にとらえ、自ら正しく判断し、活用できる。（壮年期）
66　高齢者としての役割を認識し、情報を若い世代に伝えることができる。（高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　　あなたは、生涯学習に関するどのような情報を得たいですか。
選択肢　　１　市役所などの公共機関が行う講座、教室などの情報　２　学校の公開講座情報　３　民間が行う講座、教室などの情報　４　学校の正規課程案内　５イベント情報　６　指導者や講師などの人材情報　７　サークル･団体情報　８　その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　40　生涯学習情報について
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、「公共機関の情報」「イベント情報」が高くなっています。青年期は、学生であることから「学校の公開講座情報」が、最も高くなっています。</td></tr>
</table>

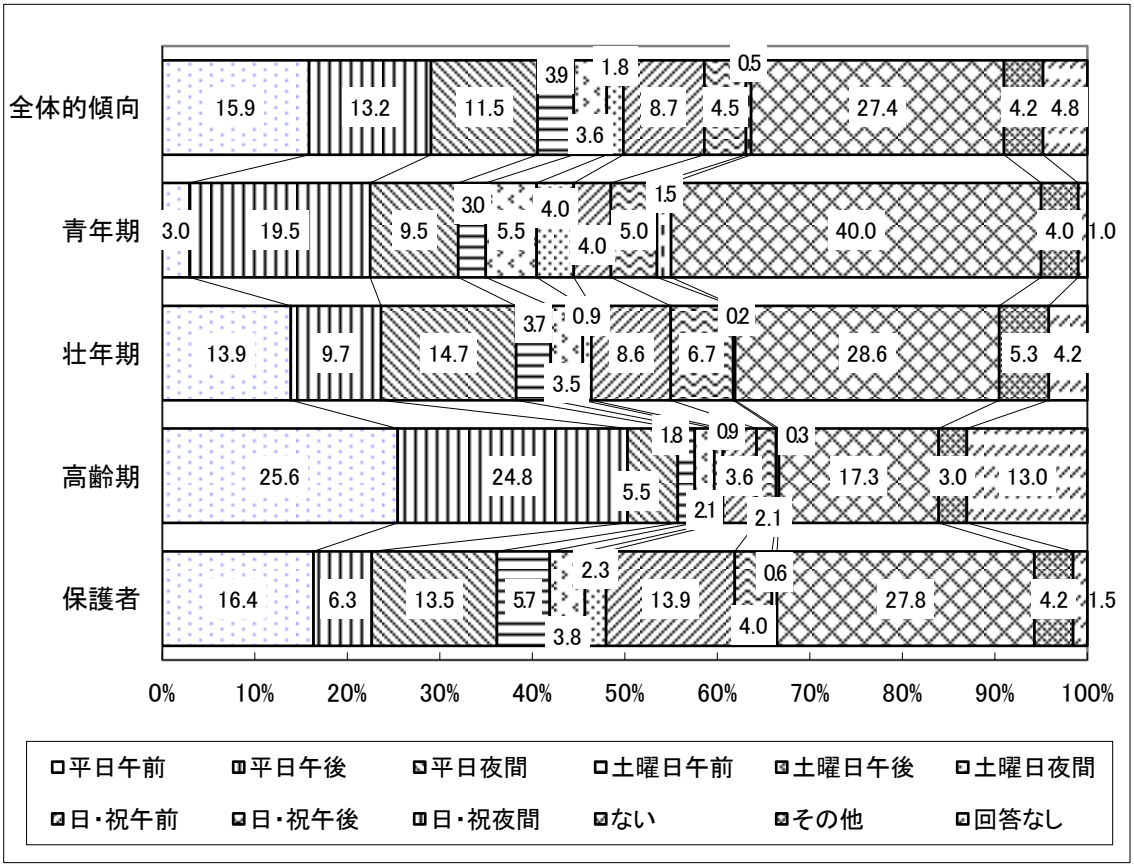
調査内容　41　生涯学習の活動内容

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>55　日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。（青年期）
56　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努める。（壮年期）
57　高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。（高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　あなたは、この１年間にどのような内容の学習や活動をしましたか。
選択肢（○はいくつでも可）１ 趣味や教養に関すること ２ 人権問題に関すること ３ 子どもの成長発達や教育に関すること ４ 健康・スポーツに関すること ５ 職業上必要な知識・技能に関すること ６ ボランティア活動に関すること ７ 体験活動に関すること ８ 家庭生活に役立つ技能に関すること ９ 語学に関すること 10 パソコン、インターネットなどの情報通信技術（IT）に関すること 11 地域づくり、まちづくりに関すること 12 子育て支援・家庭生活支援に関すること 13 その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　41　生涯学習の活動内容
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、「趣味や教養」が約１８％と高く、次に「健康・スポーツ」の順となっています。保護者においては「地域づくり、まちづくりに関すること」が約２１％と最も高くなっています。</td></tr>
</table>

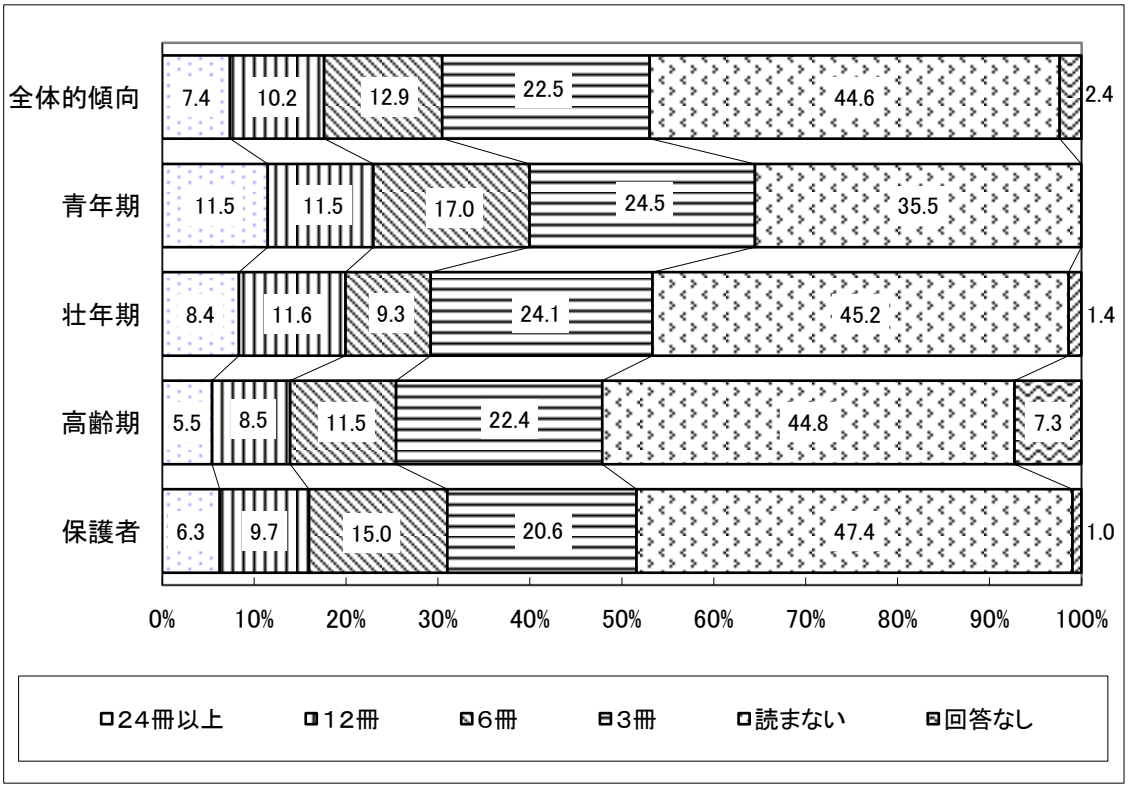
調査内容　42　生涯学習への関心・意欲

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>55　日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。（青年期）
56　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努める。（壮年期）
57　高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。（高齢期）
60　将来を見通して計画的な生活をする。（青年期～壮年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　今後学習したいと思う内容（継続を含む）
選択肢　（○はいくつでも可）１ 趣味や教養　２ 人権問題　３ 子どもの成長発達や教育　４ 健康・スポーツ　５ 職業上必要な知識・技能　６ ボランティア活動　７ 体験活動　８ 家庭生活に役立つ技能　９ 語学　10 パソコン、インターネットなどの情報通信技術（IT）　11 地域づくり、まちづくり　12 子育て支援・家庭生活支援　13 その他</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、「健康・スポーツ」が約１９％、「趣味や教養」が約１８％と高くなっています。青年期は、学生であることから「職業上必要な知識・技能」や「語学」への関心が高くなっています。</td></tr>
</table>

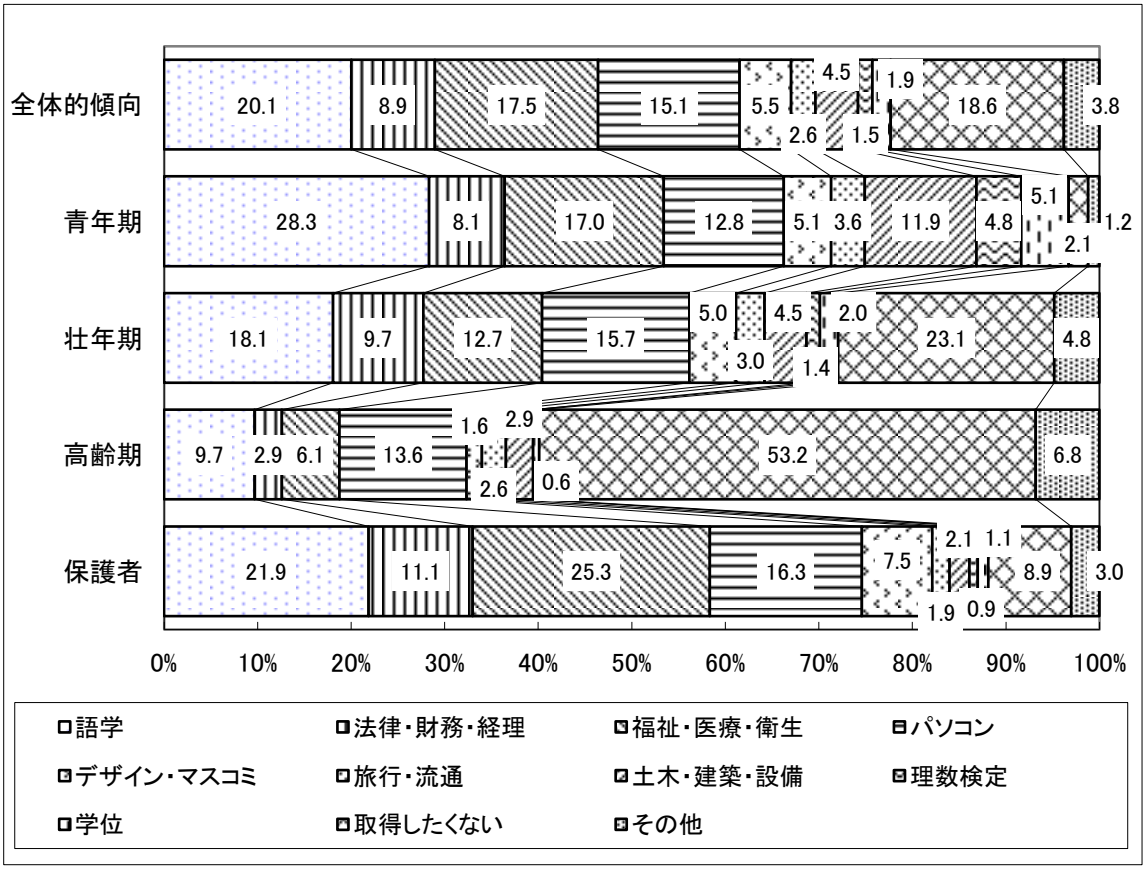
調査内容　43　生涯学習の時間帯

観　点	解　　説	
教育目標との関連	柱	主体的な生活態度の育成
	集約内容	18　自由時間を有効に活用しましょう。
	人生各期の教育目標	62　余暇を有効に過ごす。　（児童期～青年期） 63　進んで計画的に余暇を活用する。（壮年期～高齢期）
調査問題	対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人） 設問１　あなたが主に生涯学習活動をしている時間帯はいつですか。 選択肢　１ 平日午前　２ 平日午後　３ 平日夜間（午後 6 時以降）４ 土曜日午前 ５ 土曜日午後　６ 土曜日夜間（午後 6 時以降）　７ 日・祝午前 ８ 日・祝午後　９ 日・祝夜間（午後 6 時以降）　10 ない　11 その他	
調査結果	○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査） **調査内容　43　生涯学習の時間帯**  	
調査結果の概要	○　全体的傾向として、「ない」が約２７％、「平日午前」が約１６％、「平日午後」が約１３％という順になっています。	

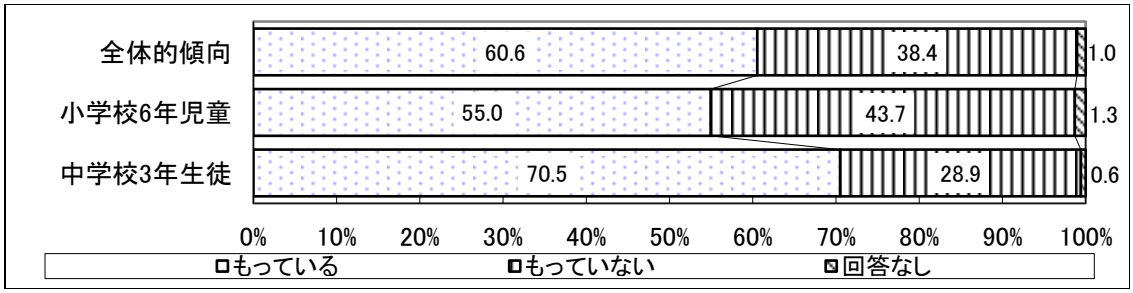
調査内容　44　読書の量に関する実践

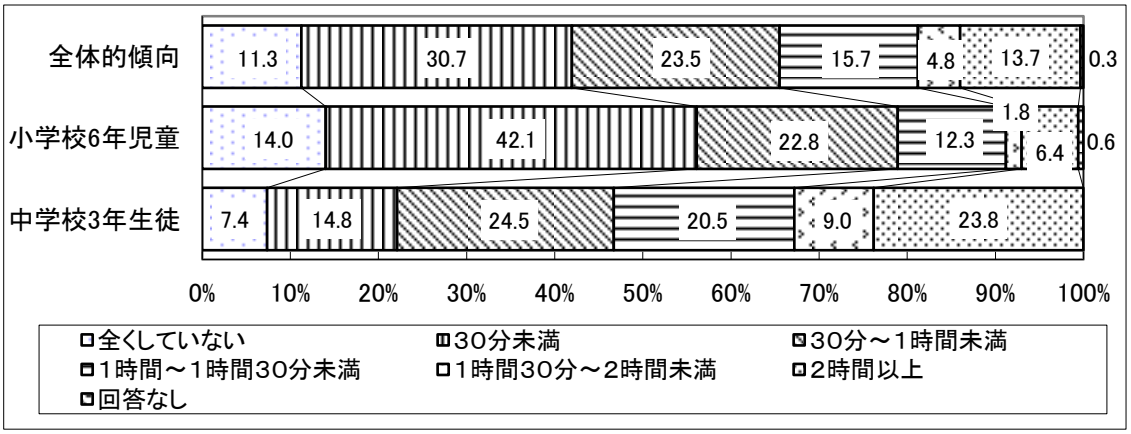
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>18　自由時間を有効に活用しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>62　余暇を有効に過ごす。（児童期～青年期）
63　進んで計画的に余暇を活用する。（壮年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　　あなたは、平均して年に本を何冊（雑誌・漫画は含まない）読みますか。
選択肢　　１　24冊以上　２　12冊くらい　３　6冊くらい　４　3冊くらい
　　５　ほとんど読まない</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　44　読書の量に関する実践
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、「読まない」が約４５％、「３冊くらい」が約２３％、「６冊くらい」が約１３％という順になっています。</td></tr>
</table>

調査内容　45　資格への関心・意欲

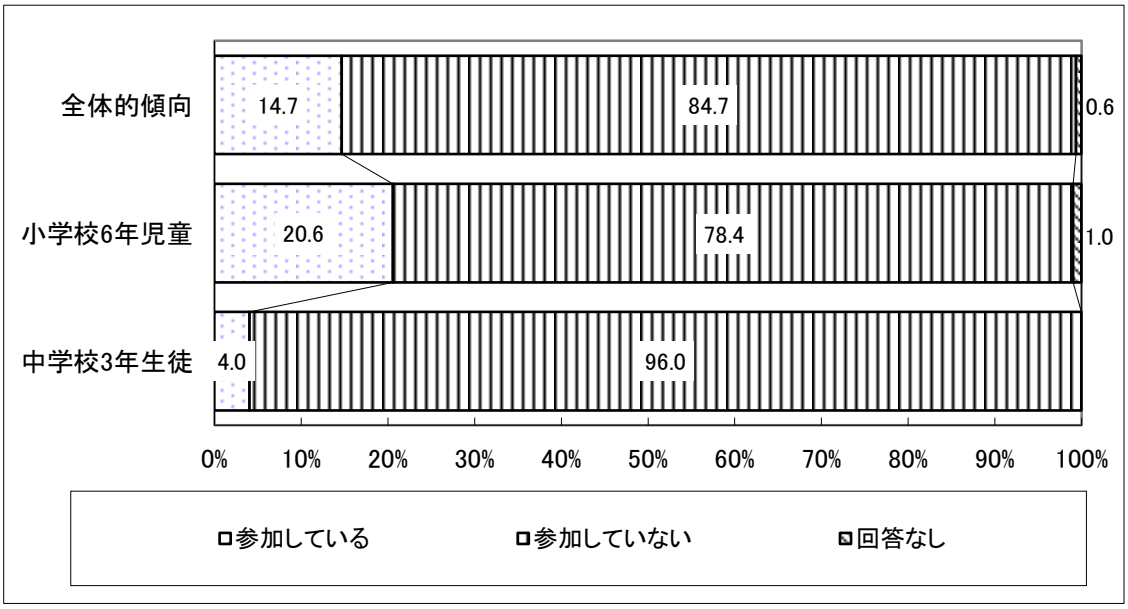
観　点	解　　説	
教育目標との関連	柱	主体的な生活態度の育成
	集約内容	16　社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努めましょう。
	人生各期の教育目標	60　将来を見通して計画的な生活をする。　　（青年期～壮年期）
調査問題	対　象　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人） 設問１　あなたは、どのような資格を取得したいですか。 選択肢　　１　語学　２　法律・財務・経理　３　福祉・医療・衛生　４　パソコン ５　デザイン・マスコミ　６　旅行・流通　７　土木・建築・設備 ８　理数検定　９　学位　10　資格は取得したくない　11　その他	
調査結果	○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査） **調査内容　45　資格への関心・意欲**  	
調査結果の概要	○　全体的傾向として、「語学」が２０％、「福祉・医療・衛生」が約１８％という順になっています。青年期は「語学」をはじめとして、様々な資格を取得したいという結果になっています。	

調査内容　46　携帯電話の所持率と利用状況

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>19　身のまわりの情報の整理と活用に努めましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>62　余暇を有効に過ごす。（児童期～青年期）
64　身のまわりの情報を整理し、活用する能力を身につける。（児童期～青年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年
設問１　あなたは、スマートフォンや携帯電話、タブレットをもっていますか。
選択肢　１　もっている（家族との共有も含む）　２　もっていない
設問２　一日平均どれくらい、スマートフォンや携帯電話、タブレットを使っていますか。
選択肢　１　全くしていない　２　３０分未満　３　３０分～１時間未満
４　１時間～１時間３０分未満　５　１時間３０分～２時間未満
６　２時間以上</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
調査内容　46-1　携帯電話の所持率と利用状況（所持率）
 

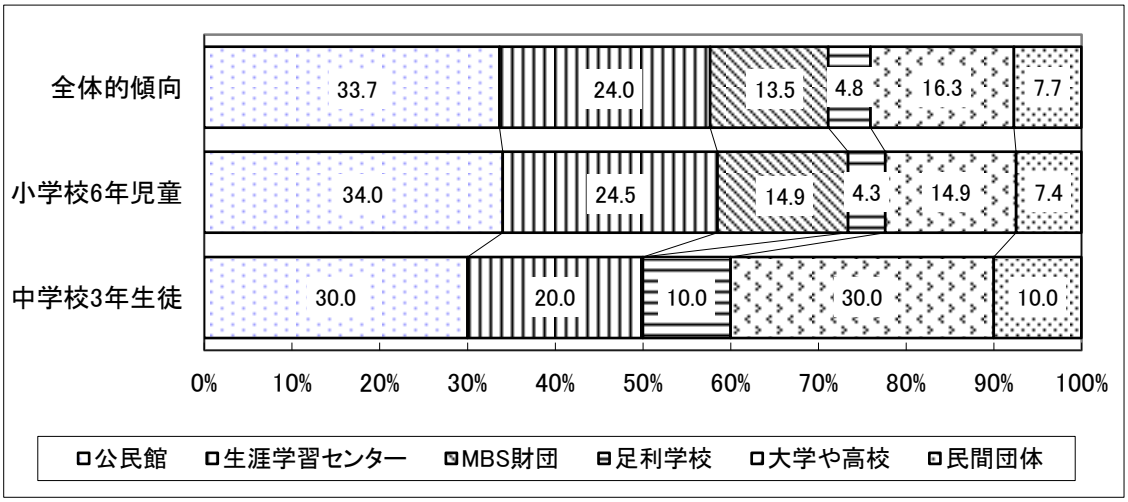
調査内容　46-2　携帯電話の所持率と利用状況（使用時間）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　携帯電話所持率の調査においては、小学６年では５５％、中学３年では約７１％が「持っている」と回答しています。
○　一日平均の携帯電話の使用時間の調査においては、小学６年では１時間以上が約２０％となっていますが、中学３年では、１時間以上が約５３％となっています。</td></tr>
</table>

調査内容　47　各種講座に関する実践

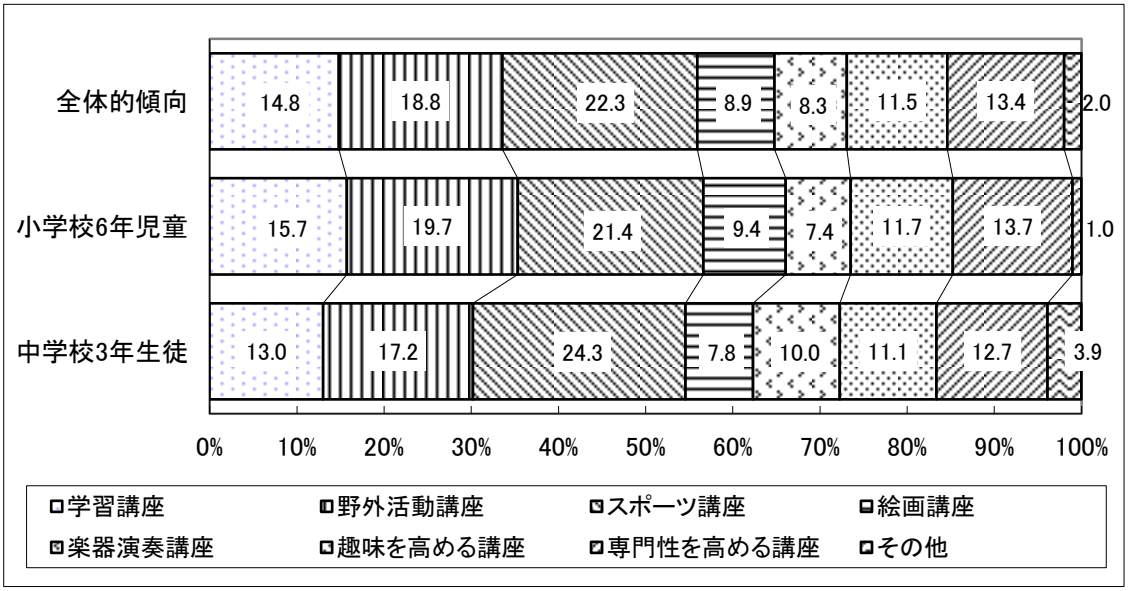
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>18　自由時間を有効に活用しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>55　日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら解決していく態度を身につける。（青年期）
62　余暇を有効に過ごす。（児童期～青年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年
設問１　あなたは、夏休みなどに公民館や大学等が主催している各種の講座に参加していますか。
選択肢　１　参加している　２　参加していない
設問２　どの講座に（塾は除く）参加していますか。
選択肢　１　公民館　２　生涯学習センター
３　MBS 財団（市民プラザや総合グランドなど）　４　足利学校
５　大学や高校　６　民間団体
設問３　あなたは、どのような講座があるとよいと思いますか。
選択肢　１　学習講座　２　野外活動講座　３　スポーツ講座　４　絵画講座
５　楽器演奏講座　６　趣味を高める講座　７　専門性を高める講座</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
調査内容　47-1　夏休み等の各種講座への参加状況
 
</td></tr>
</table>

調査結果

調査内容　47-2　どこで実施する講座に参加しているか



調査内容　47-3　どのような講座があるとよいか



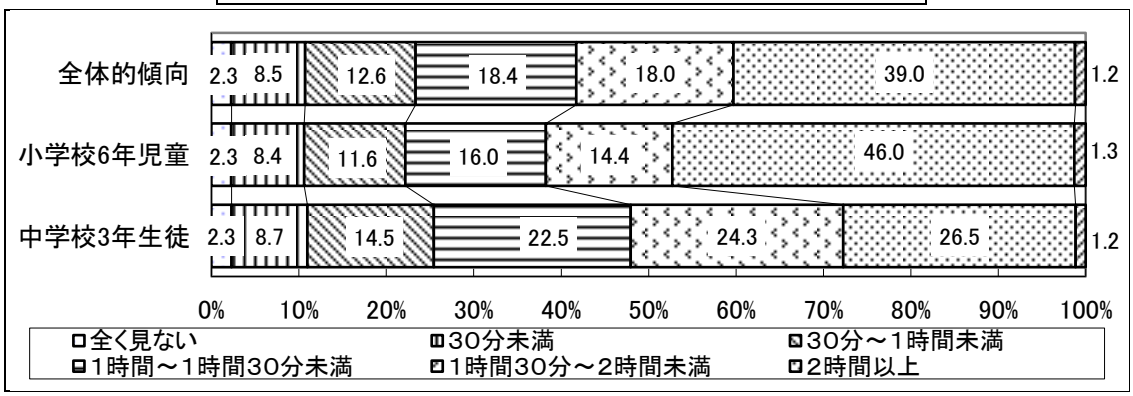
調査結果の概要

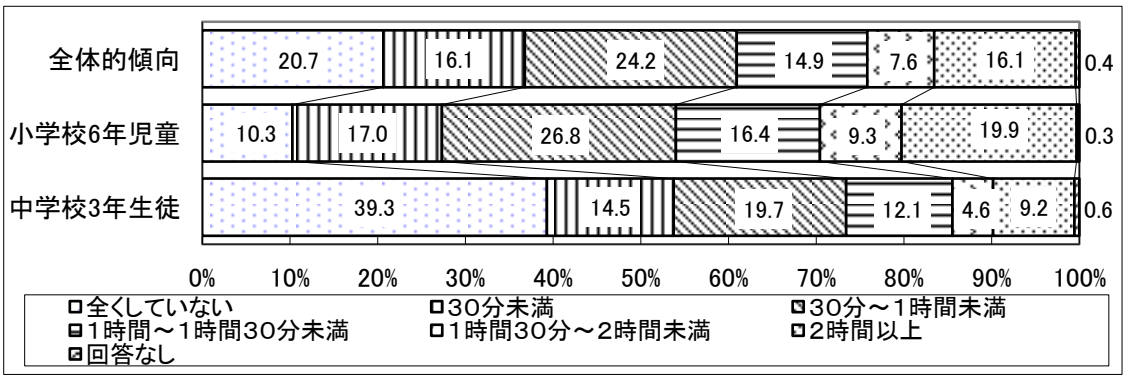
○　夏休みなどに公民館や大学等が主催している各種の講座に参加している割合は、小学６年では約２１％、中学３年では約４％です。

○　どの講座に参加しているかという調査では、「公民館での講座」と回答した割合が小学６年では約３４％、中学３年では３０％、次に「生涯学習センターの講座」が高くなっています。

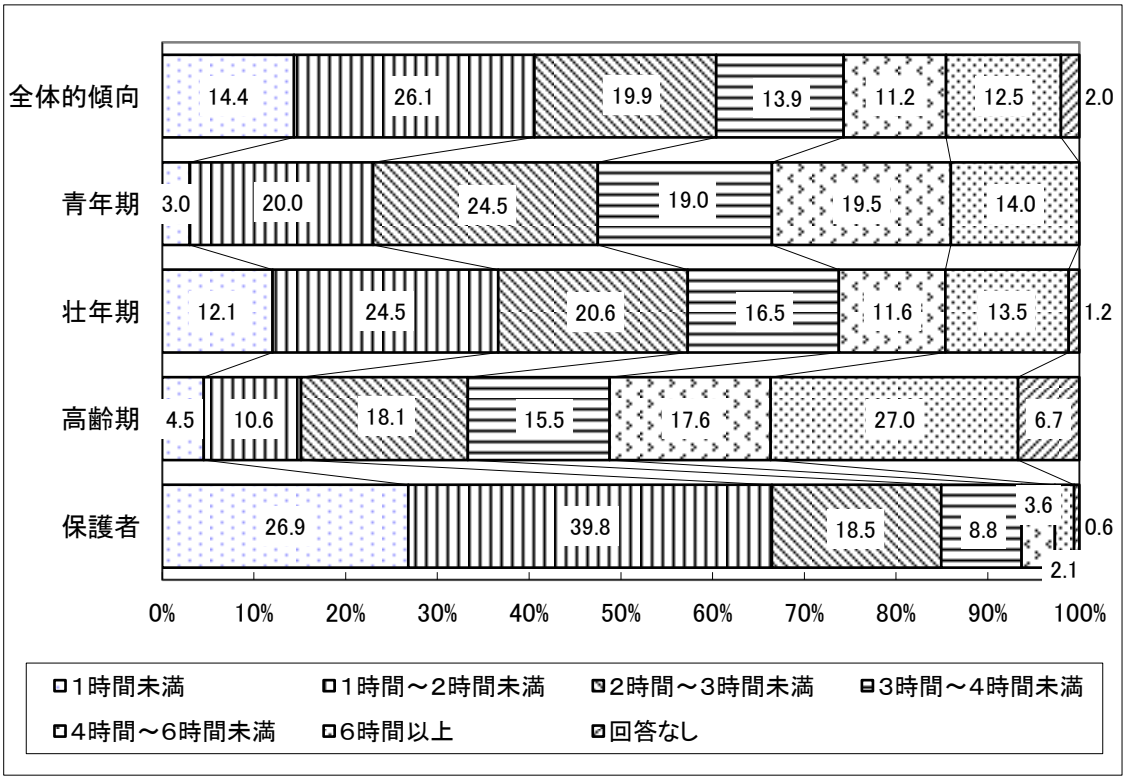
○　どのような講座があるとよいと思うかという調査では、小中学生ともに、「スポーツ講座」「野外活動講座」の順に高くなっています。

調査内容　48　漫画やテレビ、ゲームに関すること

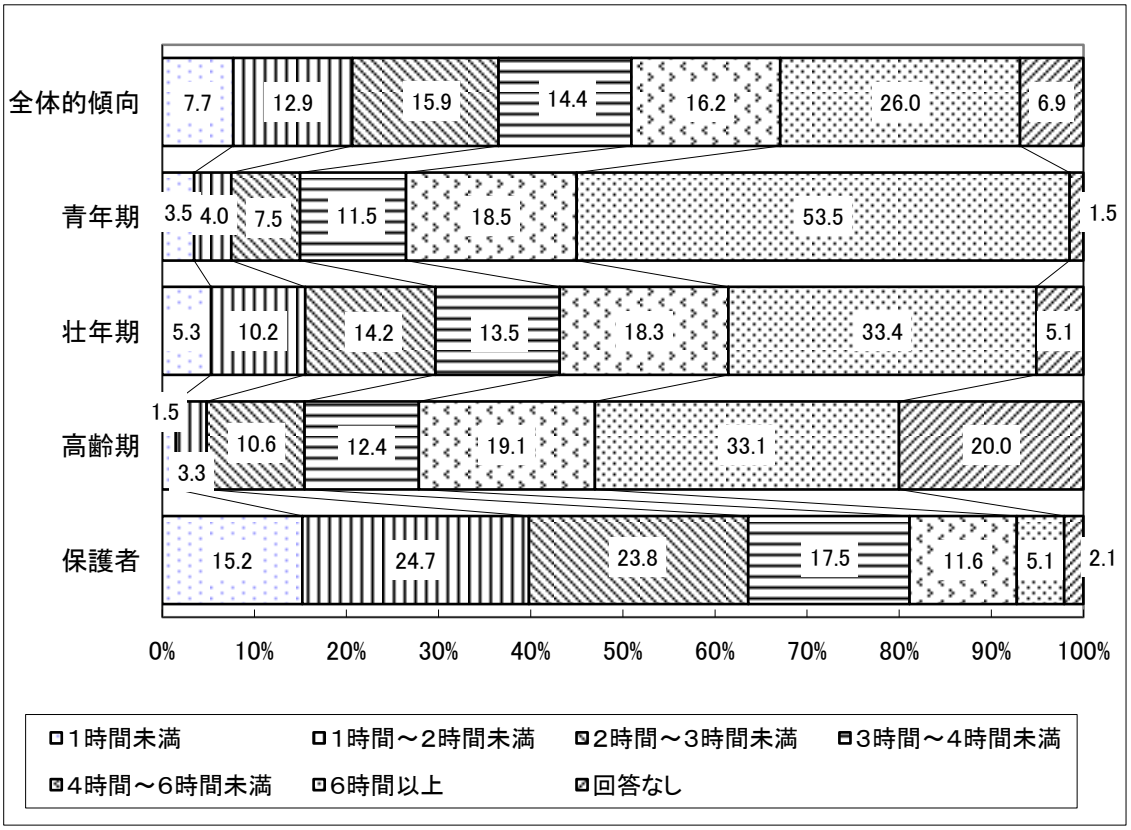
<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>18　自由時間を有効に活用しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>58　自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。
（児童期～青年期）
62　余暇を有効に過ごす。（児童期～青年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　小学６年、中学３年
設問１　あなたは、家に帰ってからどれくらい漫画やテレビを見ていますか。
選択肢　１　全く見ない　２　３０分未満　３　３０分～１時間未満
４　１時間～１時間３０分未満　５　１時間３０分～２時間未満　６　２時間以上
設問２　あなたは、１日平均どれくらい、ゲーム（ＴＶゲームなど）をしていますか。
選択肢　１　全くしていない　２　３０分未満　３　３０分～１時間未満
４　１時間～１時間３０分未満　５　１時間３０分～２時間未満　６　２時間以上</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
調査内容　48-1　漫画やテレビに関すること（時間）
 

調査内容　48-2　ゲームに関すること（時間）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　家に帰ってから漫画やテレビを見ている時間は、全体的傾向として、１時間以上見ている割合を合計すると約７５％という結果になっています。
○　ゲームをしている時間は、小学６年では「30分～1時間未満」が約２７％でもっとも多く、中学３年では「全くしていない」が約３９％という結果になっています。</td></tr>
</table>

調査内容　49　平日の自由時間について

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>18　自由時間を有効に活用しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>62　余暇を有効に過ごす。（児童期～青年期）
63　進んで計画的に余暇を活用する。（壮年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　　あなたは平日の1日の中で自由に自分のことに使える時間は、平均してどれくらいありますか。
選択肢　　１　１時間未満　　２　１時間～２時間未満　　３　２時間～３時間未満
４　３時間～４時間未満　　５　４時間～６時間未満　　６　６時間以上</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　49　平日の自由時間について
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、「１時間～２時間未満」が約２６％、「２時間～３時間未満」が約２０％という順になっています。保護者では、「１時間～２時間未満」が約４０％、「１時間未満」が約２７％となっています。</td></tr>
</table>

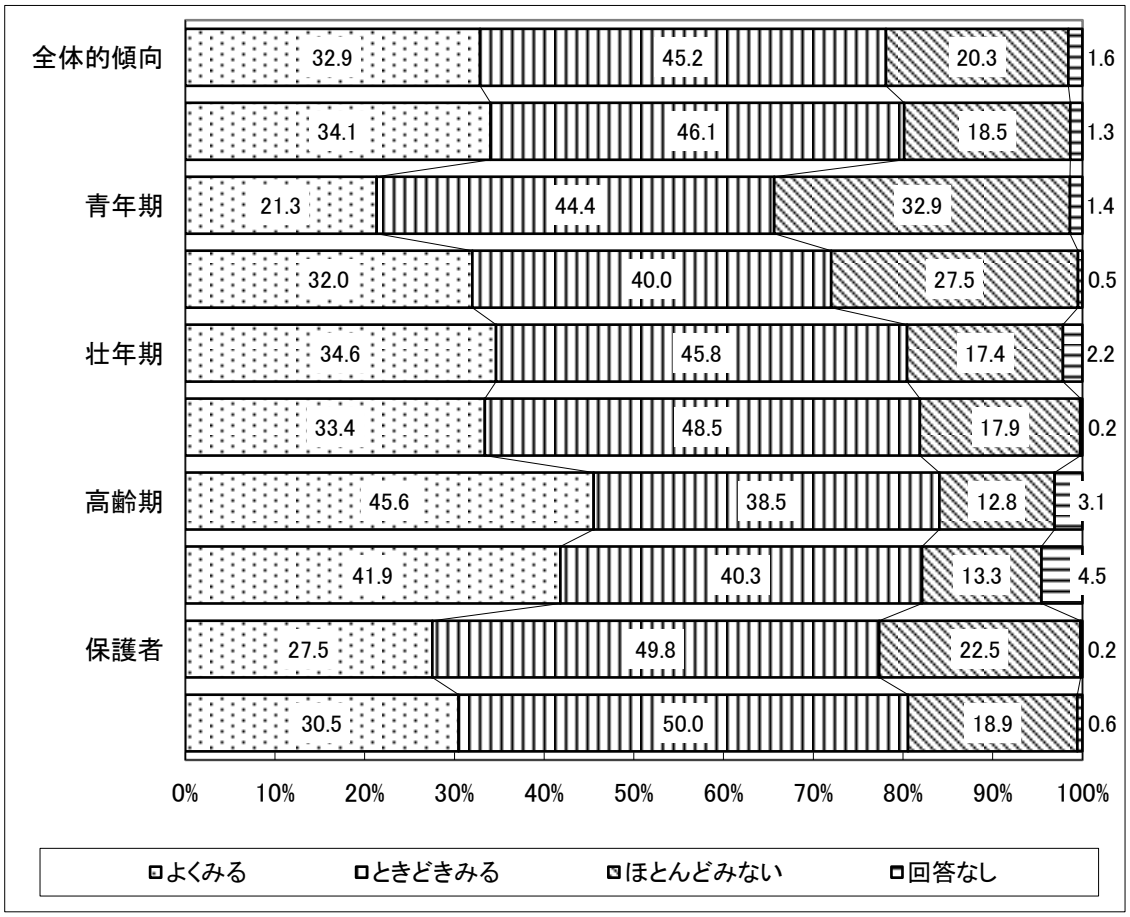
調査内容　50　休日の自由時間について

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>主体的な生活態度の育成</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>18　自由時間を有効に活用しましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>62　余暇を有効に過ごす。（児童期～青年期）
63　進んで計画的に余暇を活用する。（壮年期～高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　　休日の１日の中で自由に自分のことに使える時間は、平均してどれくらいありますか。
選択肢　　１　１時間未満　　２　１時間～２時間未満　３　２時間～３時間未満
４　３時間～４時間未満　　５　４時間～６時間未満　　６　６時間以上</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○全体的傾向、青年期、壮年期、高齢期及び保護者（家庭人）の傾向　（第７次調査）
調査内容　50　休日の自由時間
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、「６時間以上」が約２６％、「４時間～６時間未満」が約１６％という順になっています。</td></tr>
</table>

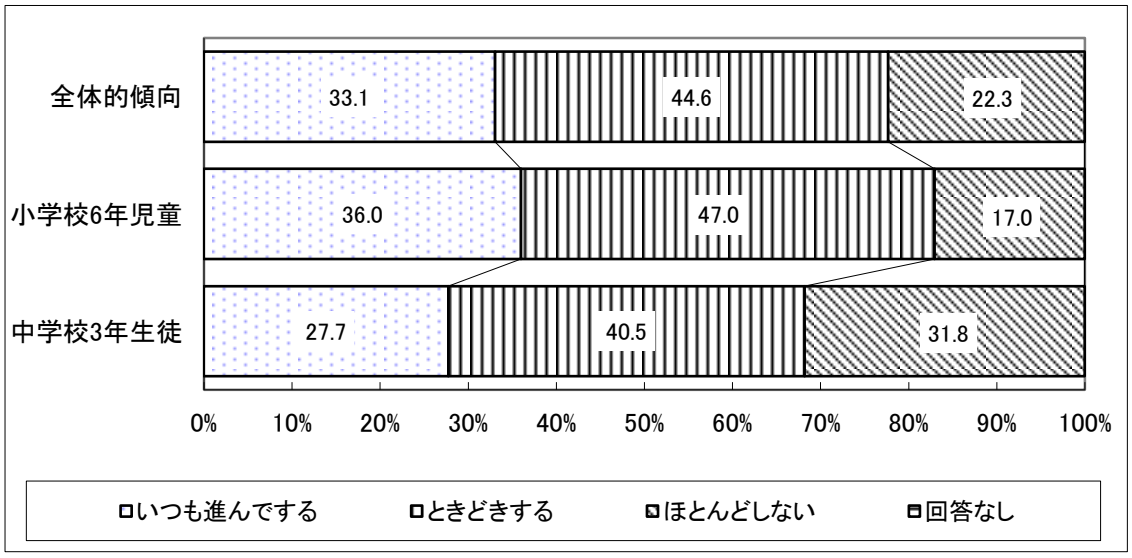
（７）国際社会に生きる日本人としての自覚

調査内容 ⑤1 主体的な情報活用の実践

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>国際社会に生きる日本人としての自覚</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>20　国際社会に生きる日本人としての生き方を身につけましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>67　日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。（児童期～青年期）
68　日本に対する愛情を深めるとともに、世界的視野に立って広く考えることができる。（壮年期）
70　国際感覚の上に立って、世界の高齢者の生き方を学ぶことができる。（高齢期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　１７歳青年、壮年期、高齢期、保護者（家庭人）
設問１　　あなたは、外国について関心をもち、そのことについて積極的に知識や情報を得るために、テレビやインターネット、雑誌などを見ていますか。
選択肢　　１　よく見ている。
２　ときどき見ている。
３　ほとんど見ていない。</td></tr>
<tr><td>調査問題作成の意図</td><td colspan="2">○　現代社会は国際交流が進展し、市民生活も日本の枠を超え、世界各国の政治・経済・文化と関わり合う面が強くなってきています。日本及び世界の国々に対する関心と理解を深めるとともに、国際感覚を身に付け、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める必要があります。
○　外国の知識を得るためにテレビ等を見るかについては、「よく見ている」「時々見ている」と回答した割合は、第５次調査より、第６次調査のほうが実践状況は高くなっていました。
○　そこで、国際社会に生きる日本人としての生き方を身につけるという観点から、テレビやインターネット、雑誌など各種情報メディアから得られる外国の情報に対して市民はどのような関心・態度を示しているかについて、その実践状況を把握し、今後における目標具現のための施策策定の基礎資料とします。</td></tr>
</table>

調査結果	○　全体的傾向、人生各期別及び保護者（家庭人）の傾向 （上段：第６次調査、下段：第７次調査） **調査内容　㊺　主体的な情報活用の実践** 
調査結果の概要及び考察	○　全体的傾向として、「よく見ている」と回答した割合は大きな変化は見られませんが、青年期においては、第６次調査より実践状況が高くなっています。 ○　現在は、スマートフォンやタブレットパソコン等の普及とインターネットの接続状況の向上に伴い、多くの有益な情報を居ながらにして簡単に入手することが可能になってきました。そこで、今後もそれぞれの年代の発達課題に応じた学習の機会を提供していくことが大切です。

調査内容　52　英会話の実践状況

<table>
<tr><th>観　点</th><th colspan="2">解　　説</th></tr>
<tr><td rowspan="3">教育目標との関連</td><td>柱</td><td>国際社会に生きる日本人としての自覚</td></tr>
<tr><td>集約内容</td><td>20　国際社会に生きる日本人としての生き方を身につけましょう。</td></tr>
<tr><td>人生各期の教育目標</td><td>67　日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。　（児童期～青年期）</td></tr>
<tr><td>調査問題</td><td colspan="2">対　象　　小学６年、中学３年
設問１　　あなたは、ＡＬＴ（外国語指導助手）などの外国人に会ったとき、自分から進んであいさつや会話をしていますか。
選択肢　　１　いつも進んでする　２　ときどきする　３　ほとんどしない</td></tr>
<tr><td>調査結果</td><td colspan="2">○　全体的傾向、小学６年児童及び中学３年生徒の傾向（第７次調査）
 
</td></tr>
<tr><td>調査結果の概要</td><td colspan="2">○　全体的傾向として、約８０％の小中学生がＡＬＴ（外国語指導助手）などの外国人に会ったとき、「いつも進んでする」「ときどきする」と回答しています。</td></tr>
</table>

「足利市の教育目標」と
各課の事業数および業務内容

2 「足利市の教育目標」と各課の事業数一覧（平成26年度現在）

教育目標	No.	目標	総務部 経営管理課	総務部 人事課	総務部 管財課	総務部 危機管理課	総務部 税務課	総務部 収税課	総務部 人権・男女共同参画課	総務部 地域福祉会館	政策推進部 企画政策課	政策推進部 広報課	政策推進部 情報管理課	福祉部 障がい福祉課	福祉部 いきいき長寿課	福祉部 児童家庭課	福祉部 こども課	福祉部 健康増進課	生活環境部 クリーン推進課	生活環境部 環境政策課	生活環境部 保険年金課	生活環境部 市民生活課	生活環境部 消費生活センター
自然文化	1	郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。		2						1													
健康安全の保持	2	健康管理や健康増進に努めましょう。		1						1						1		4					
	3	健康安全な生活態度を身につけましょう。		1		3				2					3			5		9	5	5	
社会連帯感の育成	4	足利市民の一員としての自覚を高めましょう。					4	4	1		1	6			1							1	
	5	まわりの人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で接しましょう。																				2	
	6	道徳的な態度を身につけ、実践しましょう。																				1	
	7	同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努めましょう。		2					3	11													
	8	奉仕活動の大切さを理解し、その活動に参加しましょう。		1											2							2	
よき家庭人の育成	9	敬老の精神を身につけ実践しましょう。													1								
	10	男女の特性を理解し、協力する態度を身につけましょう。							1														
	11	明るい健康な家庭づくりに努めましょう。																					
	12	子育てにおける望ましい人格を育てましょう。														3	5	1					
よき職業人の育成	13	職業人として、専門的知識や技能を身につけましょう。	2	1	2												4						
	14	職業を通して生きがいをもてるようになりましょう。																					
	15	資源の開発と活用を図り、産業の発展に努めましょう。																					
主体的な生活態度の育成	16	社会の変化に対応できるため、学習し、創意工夫に努めましょう。							3				2									1	5
	17	ものを大切にし、資源を有効に活用しましょう。																	7				1
	18	自由時間を有効に活用しましょう。		1										1									
	19	身のまわりの情報の整理と活用に努めましょう。										6											2
国際化	20	国際社会に生きる日本人としての生き方を身につけましょう。																				6	
事業数合計		各課別計	2	9	2	3	4	4	8	15	1	12	2	1	7	4	9	10	7	9	5	18	8
		各部別計	47								15			31					47				

教育目標	No.	目標	産業観光部 商工振興課	産業観光部 観光振興課	産業観光部 農務課	都市建設部 市街地整備課	都市建設部 道路河川整備課	都市建設部 道路河川保全課	議会事務局	上下水道部 上下水道総務課	上下水道部 工務課	上下水道部 下水道課	消防本部 消防総務課	消防本部 通信指令課	消防本部 予防課	消防本部 中央・河南消防署	教育委員会事務局 教育総務課	教育委員会事務局 生涯学習課	教育委員会事務局 青少年センター	教育委員会事務局 学校管理課	教育委員会事務局 文化課	教育委員会事務局 史跡足利学校事務所	教育委員会事務局 市民スポーツ課	教育委員会事務局 学校教育課	教育委員会事務局 教育研究所	農業委員会事務局
自然文化	1	郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。		7	2																23	9		3		
健康安全の保持	2	健康管理や健康増進に努めましょう。				1													1				16	7		
	3	健康安全な生活態度を身につけましょう。					1	6				1	2	3	6	6			2	9						
社会連帯感の育成	4	足利市民の一員としての自覚を高めましょう。							1										1							
	5	まわりの人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で接しましょう。																2	1					2		
	6	道徳的な態度を身につけ、実践しましょう。																	11					3		
	7	同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努めましょう。																1								
	8	奉仕活動の大切さを理解し、その活動に参加しましょう。	1															7	2					1		
よき家庭人の育成	9	敬老の精神を身につけ実践しましょう。																								
	10	男女の特性を理解し、協力する態度を身につけましょう。			1																					
	11	明るい健康な家庭づくりに努めましょう。																	2				1			
	12	子育てにおける望ましい人格を育てましょう。																4						3	1	
よき職業人の育成	13	職業人として、専門的知識や技能を身につけましょう。	6		3													1		5				8	7	1
	14	職業を通して生きがいをもてるようになりましょう。	3																							
	15	資源の開発と活用を図り、産業の発展に努めましょう。	1		1		1																			
主体的な生活態度の育成	16	社会の変化に対応できるため、学習し、創意工夫に努めましょう。															3	24	3					10	2	
	17	ものを大切にし、資源を有効に活用しましょう。								2	1															
	18	自由時間を有効に活用しましょう。	1			1												1								
	19	身のまわりの情報の整理と活用に努めましょう。			1																	7				
国際化	20	国際社会に生きる日本人としての生き方を身につけましょう。																3	1					7	1	
事業数合計		各課別計	12	7	8	2	2	6	1	2	1	1	2	3	6	6	3	43	24	14	23	16	17	44	11	1
		各部別計	27			10			1	4			17				195									1

教育目標	No.	目標	安足地区職員研修協議会	国際交流協会	男女共同参画センター	女性団体連絡協議会	社会福祉協議会	シルバー人材センター	老人クラブ連合会	防犯協会	自治会長連絡協議会	観光協会	両毛メート	地場産センター	渡良瀬グリーンプラザ	市民文化財団	文化財愛護協会	市民プラザ	市民会館	ユネスコ協会	合計 教育目標	合計 7つの柱
自然文化	1	郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。										6				10	2		1		66	66
健康安全の保持	2	健康管理や健康増進に努めましょう。			1				3				1					1	1		39	117
	3	健康安全な生活態度を身につけましょう。							2	7											78	
社会連帯感の育成	4	足利市民の一員としての自覚を高めましょう。				4															24	95
	5	まわりの人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で接しましょう。					10		1				1								19	
	6	道徳的な態度を身につけ、実践しましょう。																			15	
	7	同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努めましょう。																			17	
	8	奉仕活動の大切さを理解し、その活動に参加しましょう。							1	1	2										20	
よき家庭人の育成	9	敬老の精神を身につけ実践しましょう。																			1	43
	10	男女の特性を理解し、協力する態度を身につけましょう。																			2	
	11	明るい健康な家庭づくりに努めましょう。			1																4	
	12	子育てにおける望ましい人格を育てましょう。			1													1	16	1	36	
よき職業人の育成	13	職業人として、専門的知識や技能を身につけましょう。	1		1			1					1	3							47	63
	14	職業を通して生きがいをもてるようになりましょう。						3													6	
	15	資源の開発と活用を図り、産業の発展に努めましょう。											1	6							10	
主体的な生活態度の育成	16	社会の変化に対応できるため、学習し、創意工夫に努めましょう。			3													2			58	115
	17	ものを大切にし、資源を有効に活用しましょう。																			11	
	18	自由時間を有効に活用しましょう。			2				1				2		11			8	1		30	
	19	身のまわりの情報の整理と活用に努めましょう。																			16	
国際化	20	国際社会に生きる日本人としての生き方を身につけましょう。		12																	30	30
事業数合計		各課別計	1	12	9	4	10	4	8	8	2	6	6	9	11	10	2	12	19	1	529	
		各部別計	1	12	9	4	10	4	8	8	2	6	6	9	11	10	2	12	19	1		

3「足利市の教育目標」と各課の業務内容（平成26年度現在）

郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興	1郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。	人事課	○ 国宝鑁阿寺と足利学校	・新採職員研修で実施	25	市職員	年1回	・44名受講	①
			○ おもてなし研修	・郷土の歴史や文化を学び、その振興に努める	＊	市職員	年2回	・40名受講	①
		地域福祉会館	○ 定例おはなし会	・民話、昔話などのお話会	＊	小学生	原則、毎月第2水曜日	・参加者（年10回） H22-延310人 H23-延260人 H24-延329人 H25-延347人	⑩
		観光振興課	○ 県立自然公園等ハイキングコースの整備・管理	・施設、設備等の整備	＊	市民及び観光客	随時	・遊歩道、観光トイレ等の整備と管理	②,③
			○ 観光まつり事業	・足利まつり、足利花火大会（足利夏まつり）、足利秋まつり、足利学校さままつり、立春会鎧年越し等各種まつりへの補助	＊	市民及び観光客	随時	・実行委員会、市民団体への補助	①
			○ 両毛広域の観光推進	・広域観光資源、ルートの検討とパンフレットの作成、物産展の開催	＊	市民及び観光客	随時	・足利、佐野、太田、桐生、館林、みどり、伊勢崎	
			○ 観光振興拠点施設の整備	・太平記館の有効活用 足利観光交流館（あし・ナビ）の有効活用	＊	市民及び観光客	年間	・H5 太平記館オープン（観光協会、直営売店、太平記ドラマ展示スペースなど）、H16.3 リニューアルオープン、H25 足利観光交流館オープン（観光案内所、直営売店、喫茶コーナー）	①,②
			○ 観光のまちづくり推進事業	・観光振興施策の実施	＊	市民及び観光客	年間	・観光資源を活用した観光振興施策の実施	①,②
			○ 観光広報宣伝事業	・新聞・雑誌当への広告掲出、ポスターの作成・掲出、全国キャンペーン等	＊	市民及び観光客	年間	・広告掲出、ポスター等作成、全国キャンペーンの実施等	①,②
			○ まちなか遊学館管理運営事業	・まちなか遊学館の管理運営	＊	市民及び観光客	年間	・H15 まちなか遊学館オープン（織物等展示室、会議室）	①
		観光協会	○ 足利の観光風景写真展	・郷土の自然、史跡等の写真を展示	＊	市民	3月	・写真展以外でもイベントなどで利用	①,②
			○ 市内観光めぐり	・足利の歴史、史跡等に対する知識、理解を深める	＊	市民	1月	・年1回実施	①,②
			○ レンタサイクル	・鉄道利用者等の二次交通を補うために自転車の貸し出しを行う	＊	市民及び観光客	年間	・観光拠点施設である太平記館・足利観光交流館における自転車の貸出	①,②
			○ 観光振興事業の実施	・観光来訪者をまちなかへ回遊させるための事業やツアーの造成	＊	市民	年間	・観光来訪者をまちなかへ回遊させるための事業 ・着地型観光や産業・体験観光バスツアーの造成	①,②

郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興	1郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。	観光協会	○ 観光サポーターズ事業	・足利市観光案内人による足利学校・鑁阿寺の案内、観光研修会の開催、観光アシスタントによる観光案内等	＊	市民及び観光客	随時	・足利学校・鑁阿寺と周辺、観光おもてなし研修会の開催、観光キャンペーンやイベント等での案内	①,②,⑪,16,17
			○ 足利の観光絵画展	・子供たちや市民の観光意識の高揚を図ることを目的	＊	小中学生、市民	1月	・絵画展以外でもイベントなどで利用	①,②
		農務課	○ 農業体験学習事業	・小学生に対する農業体験学習の推進	＊	小学生	4～12月	・H15～17県単事業 H18～市単事業 H25～国1/2補助 （稲作実施校）	①
			○ 足利・名草ふるさと自然塾体験プログラム	・田んぼの学校ほか体験プログラム	＊	市民ほか	4～2月		①
		学校教育課	○ 足利学校における論語素読体験	・足利学校の方丈において、論語の素読体験を実施	＊	小中学生	年間		②
			○ 小学生体験学習事業	・「とちぎ海浜自然の家」利用に関する補助	＊	小学生	4～3月		
			○ 学校農園・農業体験	・小中学生の勤労生産的学習の推進	＊	小中学生	随時		①
		文化課	○ 市民文化祭の開催	・本市における各部門ごとの芸術文化活動の発表	＊	市民	10～12月	・文化協会共催	16,17,36,37,38,39,41,42
			○ 芸術・文化活動への援助	・芸術、文化団体の活動に対する事業協力	＊	文化団体等	随時		
			○ 市民文化賞による顕彰	・科学、芸術、文化財保護等文化の発展に寄与した市民の顕彰	＊	市民	11月		
			○ 足利薪能の開催	・代表的な伝統文化である「能」の鑑賞	＊	市民	9月	・実行委員会（組織の中に文化協会も所属）	
			○ 市民ホールコンサート	・多くの市民が音楽にふれる機会をつくり、市役所のイメージアップを図る	＊	市民	随時		
			○ 八木節教室の開催	・足利の代表的郷土芸能である八木節の普及と振興を図る	＊	市民	5～7月		
			○ 芸術文化ボランティア	・芸術文化活動をサポートしていただけるボランティアを募集・登録し、会場案内や事業の企画など様々な形で支援する	＊	市民	年間		⑪,16,17,36,38
			○ 国指定史跡の保存整備	・史跡保存用地の買い上げ及び保存整備	＊	文化財関係者	年間		
			○ 埋蔵文化財の発掘調査	・諸開発に伴う事前の緊急発掘調査、遺跡保護のための発掘調査及び出土遺物の保存調査	＊		年間		
			○ 文化財の修理・維持管理	・指定文化財の修理・維持管理に伴う経費の補助	＊	文化財関係者	年間		

郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興	1郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。	文化課	○ 文化財標識の設置	・指定文化財の標柱・説明板の設置	＊	文化財関係者	随時		
			○ 文化財防火デー関連事業	・指定文化財（建造物）の防火訓練等の実施	＊	文化財関係者	1月		
			○ 小中学生のための考古学教室	・小中学生を対象とした考古学の入門教室の開催	＊	小学4年生～中学3年生	7月～8月		47
			○ 文化財案内ボランティア講座	・足利の文化財一斉公開事業に係る公開場所の案内ボランティア養成講座の開催	＊	市民	6月～11月		⑪,16,17,36,38
			○ 発掘調査成果の周知	・発掘調査成果を広く周知するためのシンポジウム・報告会・現地説明会の開催、及びパンフレットの発行	＊	市民	年間		
			○ 足利の文化財一斉公開事業	・指定文化財の公開や無料巡回バス、文化財めぐりバスの運行	＊	市民	11月		
			○ 世界遺産出前説明会	・世界遺産や本市の提案について、画像を交えて分かりやすく説明	＊	市民	随時		②
			○ 市立美術館企画展の開催	・年4～5回の企画展を開催	＊	市民	年間		
			○ 市立美術館美術作品等の収集・常設展示	・美術作品、その他美術に関する資料の収集及びその美術作品等の展示	＊	市民	随時		
			○ 草雲美術館の公開	・田崎草雲の遺作、遺品等の収集保管、公開	＊	市民	年間		
			○ 足利市歴史文化基本構想出前説明会	・足利市歴史文化基本構想の概略についてパンフレットを用いて説明	24	市民	年間		
			○ 文化財の展示	・郷土資料展示室、ふるさと学習・資料館において文化財を展示	＊	市民	随時		
			○ 物外軒の公開	・市指定文化財茶室および国登録名勝地庭園の公開	＊	市民	4・5・10・11月の土・日・祝日、6月の第2日曜日		
		市民会館	○ 足利ゆかりの伝統芸能フェスティバル	・郷土伝統芸能の発表と足利大田楽公演	＊	市民	1月		
		市民文化財団	○ 文化講演会の開催	・市民文化の高揚と財団設立の趣旨啓発を目的として開催	＊	市民	3月	・足利文化協会と共催	
			○ 財団報の発行と配布	・財団活動の広報及び財団への理解と協力を呼びかける	＊	市民	9月		
			○ ほたるの里づくり事業への協力	・名草源氏ホタル保存会、松田北ホタルファンタジーの保護活動への事業協力	＊	市民	4～3月	・ホタルの産卵小屋、看板の設置、種ホタルの採取産卵、ふ化、養殖等	①
			○ カタクリ保護事業への協力	・名草山草保存会のカタクリ保護活動への事業協力	＊	市民	4～3月	・カタクリ保護看板の設置下草刈等	①

郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
郷土の自然や文化財の愛護と文化の振興	1郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努めましょう。	市民文化財団	○ 文化財の標識設置	・文化財を保護し、理解を深めるための標識設置	＊	市民	3月	・文化課との連携	
			○ 文化財の写真制作と貸し出し	・指定文化財の写真パネル制作と貸し出し	＊	市民	4～3月	・文化課との連携	
			○ 美術・工芸品の収集	・美術、工芸品の収集、保管、公開	＊	市民	随時	・文化課との連携	
			○ 伝統芸能後継者育成事業への協力	・八木節等の保護と活用を図り、後継者育成を図るための事業協力	＊	市民	8～9月	・御厨地区コミュニティ推進委員会等に事業協力	
			○ 芸術、文化活動への事業協力	・市民の芸術、文化団体の自主的活動を促進するための事業協力	＊	各種団体	随時	・文化課との連携	
			○ 足利の文化財めぐりマップの配布	・郷土の文化財と美しい自然を守り、文化財への知識と理解を深める	＊	市民	年間	・文化課との連携	
		史跡足利学校事務所	○ 釋奠	・孔子とその弟子をまつる儀式及び記念事業	＊	不特定	11月23日	・釋奠 ・座主講話 ・特別講演会 ・雅楽演奏 ※ H19から史跡足利学校釋奠保存委員会が実施	②
			○ 史跡足利学校の公開	・史跡内の建造物並びに江戸時代の姿に復原した建物、庭園の公開 ・足利学校所蔵品の展示、公開	＊	不特定	年間	・復原建物方丈内展示 ・遺蹟図書館内展示	②
			○ 足利学校アカデミー	・現代に甦る足利学校とした、著名な講師陣による講座事業	＊	高校生以上	6～7月	・6講座／各講座定員100人	②
			○ 足利学校教養講座	・漢詩など足利学校ならではの内容とした事業	＊	市民	年間	・6講座／各講座定員30人	②
			○ 足利学校文化事業	・絵画大会、書初めなどを開催する	＊	小学生以上	8～10月、1月		②
			○ 現代版「字降松」事業	・足利学校に関する疑問、質問をすることで学校についての関心を深める	＊	小学生以上	年間		②
			○ 足利学校サマースクール	・足利学校で学ぶ体験を通して学校についての関心を深める	＊	小学生、保護者	7～8月	・30人程度	②
			○ クイズラリー「集まれ足利学校博士」	・クイズを解き進みながら、学校内についての知識を深める	＊	小中学生	年間		②
			○ 論語の素読	・孔子の教え「論語」を素読（音読）し、自学自習の精神を養う	＊	市民	年間	・4～11月「日曜論語素読体験」と通年の「論語体験プログラム」がある	②
		文化財愛護協会	○ 文化財研究会	・各地区の文化財を見学	＊	市民	年間		
			○ 文化財愛護実践活動	・渡良瀬クリーン運動参加、文化財パトロール活動、鎧年越参加	＊	市民	随時		16,17

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	2 健康管理や健康増進に努めましょう。	人事課	○ 安全衛生委員会(10ヶ所)の設置	・ 安全衛生委員会の開催	＊	市職員	随時		④
		男女共同参画センター	○ 健康づくり講座	・ 健康に対する知識の習得と運動による健康増進を図る	＊	女性	7月 9月	・ インスパイリングエクササイズ ・ ラフターヨガ ※ 指定管理者(MBS財団)へ事業委託	③,5,6
		地域福祉会館	○ ウォーキング教室	・ 健康に良い歩き方を学ぶ	＊	市民	10月	・ 受講者 H22-24人 H23-35人 H24-29人 H25-31人	⑩
		老人クラブ連合会	○ 高齢者スポーツ推進事業	・ 足老連地区内及び地区対抗スポーツ大会	＊	老人クラブ会員	随時	・ 足利市老人クラブ連合会22地区	③,5,6
			○ スポーツ交流大会	・ 足利市老人クラブ連合会スポーツ大会	＊	老人クラブ会員	6月	・ グラウンドゴルフ、ペタンク、輪投げ、ゲートボール	③,5,6
			○ 栃木県老連スポーツ大会	・ 栃木県老人クラブ連合会スポーツ大会	＊	老人クラブ会員	10月	・ グラウンドゴルフ、ペタンク、輪投げ	③,5,6
		児童家庭課	○ 屋内子ども遊び場事業	・ 季節や天候に左右されることなく遊ぶことができ、子どもの運動機能の向上を図る	26	0～12歳	年間	・ 事業主体:社会福祉法人足利むつみ会	③
		健康増進課	○ ミニ健康展	・ 健康づくり意識の高揚を図るため、検診・指導・展示等を行う	＊	市民	年間	・ 各公民館単位で開催	③,5,6
			○ 生活習慣改善推進事業	・ 生活習慣改善推進員の支援	＊	市民	年間		③,5,6
				・ 40歳未満の健康診査	＊	18～39歳の方	年間		
			○ 健康増進事業	・ 健康の日、健康講座	＊	市民	年間		③,5,6
			○ 歯の健康フェスタ	・ 歯の健康づくりの普及啓発	＊	市民	6月		③,5,6
		両毛メート	○ 健康維持増進事業	・ 全福ネット入院あんしん保険紹介	23	両毛メート会員と家族	年間		
				・ 人間ドック、脳ドック、郵便検診の利用助成	＊		年間		
				・ スポーツ施設の利用補助	＊		年間		
				・ お買物券斡旋	24		年間		
		市街地整備課	○ 都市公園等の整備事業	・ 遊具、健康器具の整備	＊	市民	年間		②,③,④ 49,50
		青少年センター	○ 育成会少女ドッジボール大会	・ 育成会主催による少女ドッジボール大会の実施	＊	小学生	6月	・ 参加者 H21-320人　H22-320人 H23-300人　H24-280人 H25-250人　H26-250人	
		学校教育課	○ 学校心臓・腎臓・結核検診・寄生虫卵検査事業	・ 学校における児童生徒の心臓疾患等の早期発見、適切な事後管理の実施	＊	小中学生	年間		
			○ 防犯教室の開催	・ 防犯教室	＊	小学1年生	年間		④
			○ 新入学児童と保護者のための交通安全教室	・ 新入学児童、保護者の交通安全意識の啓発を図る	＊	新入学児とその保護者	2～5月	・ 市警察交通総務課、県交通安全教育センターとの連携	④
			○ 通学路に関すること	・ 児童、生徒の登下校の通学路の安全確保	＊	小中学生	随時		④

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	2 健康管理や健康増進に努めましょう。	市民プラザ	○ 身体障害者スポーツ教室、身体障害者スポーツ大会	・障害別や障害の程度に応じたスポーツの振興と機能回復	＊	身体障害者とその家族	年間 9コース		③
		市民会館	○ ヨガ教室	・健康体操を実践する	26	女性	10月	・講座終了後の自主グループ結成に繋げて継続を促す	③
		市民スポーツ課	○ 総合運動場等の整備充実	・陸上競技場の改修、各施設の整備、改修	＊	市民	随時		③,5,6
			○ 市民体育館の整備充実	・トレーニング機器の充実・施設の整備	＊	市民	随時		③,5,6
			○ 学校開放事業	・校庭夜間開放（17校） ・体育館夜間開放（33校）	＊ ＊	市民 市民	年間 年間	・年間延 9万人利用 ・年間延 22万人利用	③,5,6
			○ スポーツ推進委員会活動	・事業、研修、広報部による活動	＊	委員	年間	・スポーツ推進委員 48名	③,5,6
			○ スポーツリーダーバンクの運営	・指導者の登録、派遣活用	＊	市民	年間		③,5,6
			○ 各種講習会・研修会の実施	・少年スポーツ活動指導者講習会 ・レクリエーション指導者養成講習会 ・あしかがスポーツカレッジ（スポーツ指導者養成講座） ・スポーツ講演会 ・コミュニティースポーツリーダー講習会	＊ ＊ ＊ ＊ ＊	指導者 市民 市民 市民 市民	2月 5～11月 9～11月 随時 11月	・足利市レクリエーション協会と共催-7名受講 ・20名受講 ・160名来場 ・91名受講	③,5,6
			○ 各種スポーツ教室等の開催	・ジュニアスポーツ教室（21コース） ・一般スポーツ教室（30コース） ・ファミリースポーツ教室（2コース） ・中高年スポーツ教室（5コース）	＊ ＊ ＊ ＊	小中学生 市民 親子 中高年者	年間 年間 年間 5～10月	MBS財団	③,5,6
			○ 各種大会の開催	・市民総合選手権大会	＊		10月	・足利市体育協会関連31競技を実施	③,5,6
				・市民水泳選手権大会	＊		9月	・足利市体育協会関連	
				・市民スキー選手権大会	＊		2月	・足利市体育協会関連	
				・町内対抗少年野球大会	＊	小学生男子	7月	・19チーム参加	
			○ 各種大会への参加	・県民スポーツ大会	＊		5～11月	・足利市体育協会関連26種目	③,5,6
				・県南5市対抗親善駅伝競走大会	＊	市民代表	1月	・足利市体育協会関連	
				・県南4市対抗親善スキー大会	＊	市民代表	2月	・足利市体育協会関連	
				・栃木県郡市町対抗駅伝競走大会	＊	市民代表	1月	・足利市体育協会関連	

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	2健康管理や健康増進に努めましょう。	市民スポーツ課	○ ニュースポーツ交流大会	・ニュースポーツによる各地区との交流	＊	市民	11月	・足利市スポーツ推進委員会と共催	③,5,6
			○ スポーツイベントの誘致	・全国規模及びプロの大会等を誘致	＊	市民	年間	・（公財）足利市みどりと文化・スポーツ財団	③,5,6
			○ 地域スポーツ活動の推進	・地域スポーツ教室、地域チャレンジスポーツ教室の実施	＊	市民	年間	・地区体育協会支部と共催	③,5,6
			○ 体力つくり相談室の実施	・体力診断テストの実施と結果の分析、評価、相談等	＊	市民	年間	・地区体協・地区総合型地域スポーツクラブと共催	③,5,6
			○ 総合型地域スポーツクラブ育成事業	・総合型地域スポーツクラブの創設・活動・継続の支援	＊	市民	年間		③,5,6
			○ 各種講習会・研修会の実施	・スポーツ指導者レベルアップ講習会	＊	指導者	随時		③,5,6
			○ 足利尊氏公マラソン大会	・足利尊氏公マラソン大会	＊	市民	11月	・足利尊氏公マラソン大会実行委員会	③,5,6
		学校教育課	○ 学校心臓・腎臓・結核検診・寄生虫卵検査事業	・学校における児童生徒の心臓疾患等の早期発見、適切な事後管理の実施	＊	小中学生	年間		
			○ 防犯教室の開催		＊	小学1年生	年間		④
			○ 新入学児童と保護者のための交通安全教室	・新入学児童、保護者の交通安全意識の啓発を図る	＊	新入学児とその保護者	2～5月	・市警察交通総務課、県交通安全教育センターとの連携	④
			○ 通学路に関すること	・児童、生徒の登下校の通学路の安全確保	＊	小中学生	随時		④
			○ 薬物乱用防止教室	・薬物乱用防止に関する啓発	22	小中学生	年間		
			○ 交通安全教室	・交通安全に関する指導の充実	22	小中学生	年間		
			○ 地域ボランティアによる見守り	・登下校における見守り活動の推進	22	小中学生	年間		
	3健康・安全な生活態度を身につけましょう。	人事課	○ メンタルヘルス研修	・心を病んでしまった部下を持った場合における管理・監督者としてのあり方・対応の仕方について、事例を交えて学ぶ	＊	市職員	年1回		㉛
		危機管理課	○ 各地区合同防災訓練	・全22地区から毎年4、5ヵ所を選定し、約200～600名程度の規模で地区合同防災訓練を実施	＊	市民、自主防災会	随時		
			○ 防災リーダー研修	・毎年、講義研修・救命研修・資器材研修の各研修を定員120名で実施 全ての研修修了者を防災リーダーとして認定	＊	自主防災会	年2回		
			○ 防災講話	・足利市の防災体制や日常の災害に対する備えなどについての出前講座	＊	市民、自主防災会	随時		

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	3健康・安全な生活態度を身につけましょう。	地域福祉会館	○ 健康講座	・健康な生活のための医学、保健衛生などの知識を習得	＊	市民	未定		⑩
			○ 在宅介護講習会	・介護の仕方の講習	＊	市民	未定	・受講者 H22-28人 H23-33人 H24-36人 H25-33人 ※ H22から健康講座と統合	⑩
		いきいき長寿課	○ 高齢者元気アップ教室	・高齢者の介護予防を目的に、ストレッチ・簡単筋力トレーニング・有酸素運動を組み合わせた教室を開催	＊	高齢者(65歳以上)	年間		③,5,6
			○ 生き活き元気教室	・二次予防事業対象者となった方や対象者となる可能性の高い方を対象に介護予防教室を開催	＊	二次予防事業対象者および対象者となる可能性の高い方	年間		③,5,6
			○ 老人福祉センター健康相談	・老人福祉センター来場者の健康相談	＊	高齢者	月1回	・4幸楽荘	③
		連合老人クラブ会	○ 交通安全教室の開催	・高齢者の交通事故防止のための教室の開催	＊	老人クラブ会員	随時		④,12
			○ 消費生活講座の開催	・高齢者に対する消費者トラブルや消費者被害防止のための講座の開催	＊	老人クラブ会員	随時		12
		健康増進課	○ 健康診査	・特定健診、特定保健指導	＊	市民	年間		③,5,6,37
				・結核検診	＊	市民	年間		
				・胃がん検診	＊	市民	年間		
				・子宮がん検診	＊	女性	年間		
				・肺がん検診	＊	市民	年間		
				・乳がん検診	＊	女性	年間		
				・大腸がん検診	＊	市民	年間		
				・前立腺がん検診	＊	男性	年間		
				・骨粗鬆症検診	＊	女性	年間		
				・歯周病検診	＊	市民	年間		
			○ 健康相談・訪問指導	健康相談、訪問指導					③,5,6,37
				・健康づくりの開設	＊	市民	年間		
				・病態栄養相談	＊	該当者	年間		
				・訪問指導	＊	該当者	年間		
			○ 母子保健事業	健康診査					25
				・妊婦一般健康診査	＊	妊婦	年間		
				・乳幼児健康診査	＊	乳幼児	年間		
				健康教育相談					
				・両親学級	＊	両親	年間		
				・母親学級	＊	妊婦	年間		
				・思春期講座	＊	小中学生、保護者	随時		
			○ 歯科保健事業	・1歳6ヶ月児親子歯科健診	＊	1歳6ヶ月児親子	年間		
				・3歳児よい歯のコンクール	＊	3歳児	随時		
			○ 予防接種事業	・三種混合、二種混合、急性灰白髄炎(ポリオ)、日本脳炎、風しん・麻しん、BCG、四種混合(H25)、ヒブ肺炎球菌、子宮頸がん(H22)、水痘(H26)、高齢者用肺炎球菌(H26)	＊	該当者	年間		
				・高齢者インフルエンザ	＊	該当者	10～2月		

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	3 健康・安全な生活態度を身につけましょう。	保険年金課	○ 保養施設利用補助	・健康の保持増進を目的とした施設の利用費補助	＊	国保被保険者	年間	・四万温泉利用人数 H22-294人 H23-263人 H24-418人 H25-320人 H26-実施中 ・渡良瀬ゴルフ場利用人数 H22-488人 H23-556人 H24-602人 H25-579人 H26-実施中	
			○ 人間ドック・脳ドック検診補助	・健康の保持増進、疾病の早期発見を目的とした検診費補助	＊	国保被保険者	年間	・検診受診者数 H22-478人 H23-510人 H24-492人 H25-529人 H26-実施中	
			○ 国保30代健診補助	・健康の保持増進、疾病の早期発見を目的とした健診費補助	＊	国保被保険者	年間	・健診受診者 H22-186人 H23-146人 H24-128人 H25-123人 H26-実施中	
			○ 保養施設利用補助	・健康の保持増進を目的とした施設の利用費補助	23	後期高齢者医療制度被保険者	年間	・四万温泉利用者数 H23-211人 H24-310人 H25-262人 H26-実施中 ・渡良瀬ゴルフ場利用者数 H23- 75人 H24-120人 H25-130人 H26-実施中	
			○ 人間ドック・脳ドック検診補助	・健康の保持増進、疾病の早期発見を目的とした検診費補助	23	後期高齢者医療制度被保険者	年間	・検診受診者数 H23- 58人 H24- 86人 H25-103人 H26-実施中	
		環境政策課	環境保全意識の啓発活動						
			○ 環境観察会の実施		＊	市民	随時		②
			○ 環境レポーター活動	・身近な動植物の観察をとおして、自然に親しむ	＊	市民	通年		②
			○ 消費生活展	・環境保全意識の高揚を図る	＊	市民	11月9日		㉝
			○ 環境月間ポスター募集・展示	・入選者表彰及び市民ホールで展示	＊	小中学生	6月～10月	・H26応募点数 296点	㉝
			○ 環境保全功績者へ感謝状贈呈	・市内22地区からの推薦者を市政感謝のつどいで表彰	＊	市民	6月		①,㉝
			○ 緑のカーテンの普及啓発	・地球温暖化防止対策の一環として、つる性植物を利用した緑のカーテンにより省エネルギーの推進を図る	＊	市民等	5～10月	・小中学校、保育所、公民館、市有施設	㉝

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	3健康・安全な生活態度を身につけましょう。	環境政策課	○ 空き缶等のポイ捨て防止推進事業	・ 啓発用品の配布、市民ボランティアと協働のクリーン活動等により、市民への啓発を図り、清潔で美しい街づくりを目指す	＊	市民	随時	・ 街頭啓発及び啓発用のぼり旗の設置、市民のボランティア協働のクリーン活動等	①,⑧,⑬
			○ 住宅用太陽光発電システム設置費補助金	・ 自然エネルギーの普及促進	＊	市民	年間	・ H25実績 536件	㉝
			○ あしかがの環境メールニュースの配信	・ 自然環境や地球温暖化防止に関する情報の提供	＊	市民	年間	・ PC版、モバイル版	
		市民生活課	○ 住みよい郷土運動の推進	・ 地域安全活動の推進	＊	市民	年間	・ 足利市防犯協会、足利市地域安全防犯推進協議会と連携	④
			○ 防犯灯維持費の助成	・ 防犯灯の各自治会所有灯数に応じて助成	＊	自治会	年1回	・ H21まで足利市自治会長連絡協議会の事業として実施	④
			○ 交通安全運動の実施	・ 交通安全思想の啓発	＊	市民	春秋・年末	・ 足利交通安全都市推進協議会	④
			○ 交通安全教室の開催	・ 交通安全思想の啓発	＊	幼稚園、保育所、老人クラブ	随時		④
			○ 足利交通安全都市推進協議会への助成	・ 交通安全対策を推進し、交通安全教育の充実を図り、明るく住み良いまちづくりを目指す	＊	関係団体	随時	・ 道路管理者、取り締まり機関、交通安全協力団体、地域代表者で組織。	④
		防犯協会	○ 生活安全情報提供紙「安全あしかが」の発行	・ 身近な犯罪や地域の安全確保に必要な情報を提供し、安全意識の高揚と事件・事故等の防止を図る	＊	市民	年2回	・ 警察署と連携、編集会議を経て発行	④
			○ 防犯街頭広報	・ 地域安全足利市民のつどいの開催及び防犯広報車等による地域防犯パトロール	＊	地域住民	年3回	・ 警察・足利市地域安全防犯推進協議会と連携	④
			○ 地域安全防犯推進協議会への助成	・ 各町内において具体的に防犯活動を推進する組織の充実と活動を助成	＊	関係団体	随時		④
			○ 幼児誘拐防止事業	・ 小学校・幼稚園・保育所（園）を巡回し、この種の事件の再発防止対策を推進する	＊	幼児・児童	随時	・ 警察署と連携	④
			○ 防犯ポスターの募集及び入賞者の表彰	・ 防犯ポスターの募集を通して防犯思想の啓発	＊	小中学生、高校生	年1回	・ 警察署と連携	④
			○ 防犯講習会	・ 地域安全運動への参加、薬物対策、各種犯罪被害防止等の指導を行い、地域安全防犯意識の高揚を図る	＊	市民、小中学生、高校生	随時	・ 警察署、足利市地域安全防犯推進協議会、小中学校、高校、自治会、老人会等と連携	④
			○ 特殊詐欺対策	・ 広報紙「あしかがみ」、回覧、寸劇等により防止対策を推進する	＊	市民	随時	・ 警察署、金融機関、虎の子守り隊等と連携	④

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	3 健康・安全な生活態度を身につけましょう。	道路河川整備課	○ 河川・排水路の整備推進	・治水上の安全確保と良好な河川環境づくり	＊	市民	年間		④
		道路河川保全課	○ 河川愛護会の育成、指導	・河川愛護、美化運動	＊	市民	随時	・県河川愛護連合会、日本河川協会より表彰を受ける	⑧,13
			○ 道路等の補修工事	・オールカバー、パッチング、路肩補修等	＊	市民	随時	・道路の安全確保のため、継続とする	④
			○ 道路の清掃	・路肩の除草、土砂等の除去等、清掃車への業務委託	＊	市民	随時	・道路の安全確保のため、継続とする	④
			○ 河川・溝渠の清掃	・側溝の浚渫、河川の草刈等	＊	市民	随時	・市民生活の保全を図るため継続とする	④
			○ ゴミ等の不法投棄物の処理	・道路、河川のゴミ等回収処理	＊	市民	随時	・市民生活の保全を図るため継続とする	④
			○ 環境衛生の保持	・汚泥の吸い上げ運搬、犬、猫等の死体処理、側溝等の消毒	＊	市民	随時	・市民生活の保全を図るため継続とする	④,⑧,13
		下水道課	○ 下水道促進デーの推進	・下水道及びトイレ水洗化の普及促進	＊	整備区域市民	9月	・水処理センター施設公開来場者250人 ・下水道いろいろコンクール、作品応募など	
		消防・総務課	○ 火災予防思想の啓発に関する事業	・消防出初式及び消防表彰式(分列行進、防火パレード、一斉放水、表彰)	＊	市民	1月	・消防団員と防火・防災団体の表彰式・消防署・団・防火協会、婦人防火クラブ等のパレード約1,500人	④
			○ 消防団活性化事業	・消防団互助会事業	＊	消防団員と家族	年間		36
		通信指令課	○ 各種災害情報及び気象情報の提供	・テレホンサービスによる市民への情報提供	＊	市民	随時		④
			○ Eメール災害情報案内	・火災・その他の消防活動・気象情報・地震情報・避難情報などEメールにて提供	＊	市民	随時		④
			○ 救急情報テレホンサービス	・市民への安全・安心のサービス向上と、救急車の適正利用を目的として実施しているもの	＊	市民	随時	・救急情報テレホンサービスの専用電話(72-0099)回線を設けて、市民からの救急車を呼ぶほどの急病等ではないが、診察可能な病院等の案内や応急手当の指導を、通信指令課員が24時間体制で対応している。	④

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	3健康・安全な生活態度を身につけましょう。	予防課	○ 火災予防思想の啓発に関する事業	・ 火災予防運動（ポスター、立て看板、のぼり旗等の掲出）	＊	市民	3・11月		④
				・ 新聞、市広報紙による広報	＊	市民	随時		
				・ 広報車による広報	＊	市民	随時		
				・ 防火キャンペーンの開催	＊	市民	3・11月		
				・ 防火標語募集及び作成、配布	＊	市民	11月	・ 作品をチラシにして全戸配布	
				・ 少年消防クラブ研究発表会の開催	＊	少年消防クラブ	年1回	・ 第56回目の開催	
			○ 防火安全対策に関する事業	・ 事業所等の立ち入り検査	＊	事業所	随時		④
				・ 独居老人宅の防火指導	＊	独居老人	9月		
				・ 消防訓練、訪問講話の開催	＊	市民団体	随時		
			○ 住宅用火災警報器の設置促進に関する事業	・ 広報用のぼり旗、懸垂旗、横断幕の掲出	＊	市民	年間		④
			○ 住宅用火災報知器の設置促進に関する事業	・ 市・消防ホームページに掲載	＊	市民	年間		
				・ 広報用チラシの配布	＊	市民	年間		
				・ 消防フェアでのPR	＊	市民	年1回		
				・ 街頭PR	＊	市民	随時		
				・ 自主防災訓練、事業所等の消防訓練、防火講話等でのPR	＊	市民	随時		
				・ 独居宅訪問指導でのPR	＊	独居者	9月		
				・ 防火防災団体の育成指導	＊	防火防災団体	随時		
			○ 各種講習会	・ 危険物取扱者保安義務講習会	＊	危険物取扱者	年1回	・ H25受講者 193名	
			○ 各種災害の原因及び被害者等の調査	・ 安全対策改善のための資料作成	＊	市民	随時		
		中央消防署・河南消防署	○ 各種災害の警戒防ぎょ	・ 災害発生時における人命救助、防御活動	＊	市民	随時		④
			○「救急の日」の広報	・ 救急に対する理解を深めるため広報資料の掲示、配布	＊	市民	9月	・ 事業所にポスターを配布	
			○ 各種講習会	・ 普通救命資格取得講習会	＊	市民	随時	・ H25受講者 累計26,213名	41,42
				・ 応急手当て講習会	＊	市民	随時	・ H25受講者 累計78,312名	
			○ 火災予防思想の啓発に関する事業	・ 消防車による防火パトロール	＊	市民	随時	・ 予防課と連携	④

健康・安全の保持増進

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
健康・安全の保持増進	3 健康・安全な生活態度を身につけましょう。	中央消防署・河南消防署	○ 防火安全対策に関する事業	・事業所等の立ち入り検査	＊	事業所	随時		④
				・独居老人宅の防火指導	＊	独居老人	9月		
				・消防訓練、防火講話の開催	＊	市民団体	随時		
			○ 各種災害の原因及び被害等の調査	・安全対策改善のための資料作成	＊	市民	随時		
		青少年センター	○ 夏期教育キャンプの開設	・教育キャンプの実施	＊	小中学生、市民	7･8月	・H21-8団体／310人 ・H22-8団体／405人 ・H23-5団体／157人 ・H24-9団体／358人 ・H25-5団体／201人 ・H26-6団体／226人	⑪,15,㉝
			○ 環境浄化	・少年を健全育成するために有害な環境の排除	＊	市民	年間		
		学校管理課	○ 献立表,指導資料の配布	・給食の献立を活用し、食生活に対する正しい理解と望ましい食習慣の形成を図る	＊	小中学生、保護者	毎月		
			○ 給食だより、食育だよりの発行	・食事についての知識の向上と、食生活の改善を図る	＊	小中学生、保護者	年6回		⑲
			○ 食育指導	・給食時間や授業時間等に食に関する指導を行う	＊	小中学生、保護者	年間		⑲
			○ 給食主任会議	・学校と共同調理場の連絡を深め、学校給食の向上を図る	＊	教員	年2回		
			○ 学校給食安全衛生委員会	・労働災害及び健康障害の防止	＊	市職員	随時		
			○ 納入業者衛生状況視察	・納入業者の衛生に対する意識の高揚を図る	＊	納入業者	随時		
			○ 栄養指導研究会	・専門的知識や技術を習得し、資質の向上を図る	＊	栄養士ほか	毎月		
			○ パン品質審査会	・専門的知識や技術を習得し、資質の向上を図る	＊	パン納入業者	年2回	・足利市学校給食基本方針 ※H27年度から県給食会で実施	
			○ 献立会議	・児童・生徒の健康を考えた献立の作成	＊	栄養士、教員、市職員	毎月		

社会連帯感の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
社会連帯感の育成	4 足利市民の一員としての自覚を高めましょう。	税務課	○ 市税について「あしかがみ」による広報	・ 市税への理解を深める「市税あれこれシリーズ」の掲載	＊	市民	随時		
			○ 租税教育の推進 足利市租税教育推進協議会	・ 小中学校、高校で租税教室を開催	＊	小中学生、高校生	随時	・ 収税課と合同	
			○ 税に関する作文の募集		＊	小中学生、高校生	6～9月		
			○「税を考える週間」の実施	・ 税に関する講演会及び納税表彰式	＊	高校生、市民	11月	・ 収税課と合同	
		収税課	○ 納税について「あしかがみ」による広報	・ 納期の周知及び納税についての理解を求める	＊	市民	年間		
			○「納税強調月間」の実施	・ 広報媒体の利用及び広報幕を掲示する	＊	市民	5･12月		
			○「税を考える週間」の実施	・ 税に関する講演会及び納税表彰式	＊	市民、納税団体	11月	・ 税務課と合同	
			○ 租税教育の推進 足利市租税教育推進協議会	・ 小中学校、高校で租税教室を開催	＊	小中学生、高校生	随時	・ 税務課と合同	
		人権・男女共同参画課	○ 足利市女性団体連絡協議会の育成と活動の推進	・ 加盟している女性団体相互の連携と協力体制及び自主的活動の促進	＊	女性	年間	・ H26-11団体加盟	12
		女性団体連絡協議会	○ 男女共同参画週間事業の開催	・ 男女共同参画週間に合わせ、映画上映や講演会等を行い、男女共同参画について市民への理解を深める	＊	市民	6月	・ H26映画･講演 130名 ※ 市と共催 男女共同参画に関する標語の表彰式を同時開催	12
			○ 人権研修会の開催	・ 団体会員及び市民の人権問題に関する意識向上を目的に研修を実施	＊	市 民	12月	・ H26講演会 未定	12
			○ 広報紙「あしかがの女性」発行	・ 活動状況の広報のため、市公共機関で配布	＊	市 民	3･9月	・ 各1,500部発行	12
			○ 国際協力事業	・ 使用済みインクカートリッジを回収し、海外支援事業に協力	＊	市 民	通年	・ H26-4回発送見込	
		企画政策課	○ 松田小学校跡地活用検討委員会	・ 松田小学校跡地の活用について検討	＊	市民	随時		
		広報課	○ 市長を囲む市政懇談会等の開催	・ 市民の意見、要望を市政に反映	＊	地区自治連等	随時	・ 地区自治連とはH26から「ふれあいトーク」とした	12
			○ 市長への手紙事業	・ 市民ニーズを的確に把握し、市政への関心と理解、参加を高める	＊	市民	年間	・ 専用封筒、通信文を市内39ヵ所に配置	12
			○ 市長へのファックス通信事業	・ 市民ニーズを的確に把握し、市政への関心と理解、参加を高める	＊	市民	年間		12
			○ 市長への電子メール事業	・ 市民ニーズを的確に把握し、市政への関心と理解、参加を高める	＊	市民	年間		12

社会連帯感の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
社会連帯感の育成	4 足利市民の一員としての自覚を高めましょう。	広報課	○ 広報「あしかがみ」の発行	・ 市政の情報、行事の案内等情報提供	＊	市民	毎月1回	・ 1日発行	40
			○ 市長とのざっくばランチトーク	・ 市長と直接対話することで、市政への関心と理解、参加を高める	25	市民	随時		
		長寿課	○ 高齢者ふれあいサロンの開設事業	・ 高齢者の閉じこもり防止のために、ふれあいサロンを開設するものに、事業費の一部を補助する	＊	市民	随時	・ 地区社会福祉協議会長申請	12
		市民生活課	○ 自治組織の育成事業	・ 市政感謝のつどいの開催	＊	自治会長等	6月	・ 足利市自治会長連絡協議会との連携	12
		議事課	○ 「市議会だより」の発行	・ 議会活動の広報情報(議会の活動状況を提供する)	＊	市民	年4回		
			○ 議会報告会・意見交換会	・ 市民に議会活動や市政に関する情報を提供するとともに、市民と議会が自由に情報や意見を交換する	25	市民	5・11月 年8回		
		青少年センター	○ 育成会育成者養成講習会	・ 育成会、子ども会活動指導者の発掘と養成	＊	市民	6月	・ H21-3回-102人 ・ H22-3回- 91人 ・ H23-3回-119人 ・ H24-3回-119人 ・ H25-3回-106人 ・ H26-2回-101人	14,16,17
			○ 青少年団体等の自主的活動の援助、指導	・ 青少年団体及び育成団体等の自主活動の促進	＊	市民	年間		⑪
			○ 成人式	・ 新成人の前途を祝福	＊	新成人	1月	・ H21-1,251人(85.2%) ・ H22-1,274人(87.8%) ・ H23-1,275人(87.6%) ・ H24-1,171人(86.4%) ・ H25-1,191人(87.0%) ・ H26-未定	
	5 まわりの人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で接しましょう。	社会福祉協議会	○ 「あしかが社協だより」の発行	・ 福祉への理解と情報の提供及び啓発を図る	＊	市民	年4回		
			○ 高校生のボランティアスクール	・ より多くの高校生に、ボランティア活動に参加してもらうきっかけを与え、ボランティア活動と自分の暮らす地域に興味や関心を持つことを目的に、身近なところでのボランティア活動の体験を実施する	＊	高校生	年1回		9,⑪,16
			○ 中学生のボランティアスクール	・ 自分達には何が出来るかをより実践的に考える機会と、ボランティア活動に参加するきっかけを与えることを目的に実施する体験学習	＊	中学生	年1回		9,⑪,16
			○ 小学生のボランティアスクール(親子)	・ 児童が福祉に興味や関心をもつ一歩となり、自分以外の人に思いやりの心をもって助け合う態度を育てることを目的に実施する体験・交流学習	＊	小学生とその保護者	年1回		9,⑪

社会連帯感の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
社会連帯感の育成	5 まわりの人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で接しましょう。	社会福祉協議会	○ 手話奉仕員養成講座	・ 手話奉仕員として活動することを目的に、手話で日常会話に必要な単語や表現技術を習得する	＊	市民	4～3月		⑨,16,17,37,41,43
			○ ボランティア養成講座	・ 点訳ボランティア活動が出来る方を養成する点訳講座を開催	＊	市民	5～9月		⑨,16,17,37,41,43
				・ より良い傾聴が出来る方を養成する傾聴ボランティア活動養成講座を開催	26	市民	11月		
				・ 災害時のボランティア活動が行える方の養成や減災・防災意識を高めることを目的に開催する災害ボランティア講座を開催	＊	市民	年1回		
			○ 福祉教育出前講座・総合的な学習への支援	・ 市内の小中学校、高校等からの依頼により、学校へ当事者と共に出向き、車いす、高齢者、点字、手話等の疑似体験学習や福祉講話等で福祉教育を行なう	＊	小中学校、高校	年間		⑨
			○ 地域福祉活動	・ 誰もが、安心して生活できるまちの実現を目指す	＊	地域住民	随時	・ 市内22地区	⑪,16,17,36
			○ ふれあいのつどい事業	・ 障害者、老人、子ども、一般市民が集い、ふれあいを深め、相互理解、相互親睦を図る中で、福祉意識の醸成と地域福祉の充実に資する	＊	市民	10月		⑨,⑪,36
			○ ボランティアの発掘・育成及び支援	・ 新たなボランティアの発掘及びボランティア活動に関する情報提供、相談等の実施	＊	市民	随時		⑪
		老人クラブ連合会	○ 友愛訪問活動	・ 地域の寝たきり、一人暮らし老人を定期的に訪問	＊	老人クラブ会員	毎月 2回以上		12
		市民生活課	○ 御厨地区コミュニティづくり	・ 地区住民のもとに、連携感意識の高揚を図る	＊	御厨地区住民	年間	・ 八木節のふるさとづくり、スポーツレクリエーション活動、独居老人給食提供、人権擁護、防犯運動等	14
			○ 助戸地区コミュニティづくり	・ 日常生活の場において地域住民相互の親近感と連帯意識を高める	＊	助戸地区住民	年間	・ 健康な心身づくり、美しい街づくり、高齢者から若い人までの交流(生涯学習課及び地元組織との連携)	14
		両毛メート	○ 給付事業	・ 慶弔見舞金の支給	＊	両毛メート会員と家族	年間		
		生涯学習課	○ 地域ふれあい講座	・ 子どもと親、地域住民の交流の場の設定	＊	小中学生とその保護者、地域住民	年間		⑨,⑪,14,21,37

社会連帯感の育成

柱	約集内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
社会連帯感の育成	5 まわりの人たちの立場や気持ちを理解し温かい心で接しましょう。	生涯学習課	○ 地域活動への参加促進	・ボランティア活動	＊	市民	年間		⑨,⑪,14,37
				・コミュニティ活動	＊	市民	年間		
				・地域の文化活動への参加	＊	市民	年間		
		青少年センター	○ 青年団体の育成と団体活動の促進	・各種青年団体の相互連携、協力体制整備、活性化	＊	青少年	年間		⑪,37
		学校教育課	○ 心の教育相談員推進事業	・児童への声かけや教育相談、学習活動の支援	＊	小学生	年間		⑱,⑲,25～30
			○ 心の教室相談員推進事業	・生徒の悩み相談、話し相手、地域と学校の連携の支援	＊	中学生	年間		⑱,⑲,25～30
	6 道徳的な態度を身につけ、実践しましょう。	市民生活課	○ 飼い犬猫のふん害等の防止	・ふん害防止に向けた啓発・指導	＊	市民	年間	・足利市飼い犬猫のふん害等の防止に関する条例制定	12,13
		青少年センター	○ 優良青少年・団体表彰	・家庭、学校、地域における徳行者等優良青少年、団体表彰	＊	青少年	11月	・個人・団体表彰 H21-39件　H22-37件 H23-37件　H24-36件 H25-37件　H26-35件 ※件数は個人と団体の合計	
			○ 街頭補導 ・計画補導	・青少年の立ち回り場所等を午後、宵、夜間に巡回補導	＊	青少年	年間		④,14,15
			・特別補導	・花火大会、恵比寿講(西宮、福居)に合わせた補導	＊	青少年	8・11月		
			・列車内補導	・列車内での補導	＊	青少年	5月		
			・警察との合同補導	・全国地域安全運動等に合わせた警察との合同補導	＊	青少年	10月		
			○ 地域活動 ・地域内補導等	・中学校区を単位とした青少年健全育成連絡協議会と連携した活動	＊	青少年	年間		④,14,15
			○ 継続補導 ・招致指導	・継続しての指導が必要な特定の者を青少年センターに招致して指導	＊	青少年	年間		④,14,15
			・協力体制	・専門機関、関係機関との連携による指導	＊	青少年	年間		
			○ 研修・会議 ・少年指導運営協議会		＊	協議会委員	年3回		
			・少年補導員研修	・補導員等の資質、技術の向上を図る	＊	少年補導員	年2回		
			・県少年指導センター、県少年指導員会連絡協議会		＊	市職員口	年3回		
			・市内高等学校等生徒指導連絡協議会		＊	高校教員等	年7回		

社会連帯感の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
社会連帯感の育成	6 道徳的な態度を身につけ、実践しましょう。	青少年センター	○ 市内中学校生徒指導連絡会		＊	中学校教員	年22回		
			○ 市内中・高生徒指導連絡協議会		＊	中学校・高校教員	年3回		
			○ 市内児童生徒対策協議会		＊	小中学校教員	年2回		
			○ 全国・関東甲信越静青少年補導センター連絡協議会		＊	市職員	年2回		
			広報活動						
			○「あしかがみ」等に非行防止啓発記事の掲載	・ 青少年非行防止の啓発	＊	市民	7月		
			○「社会を明るくし青少年を非行からまもる運動」事業	・ 足利市青年団体連絡協議会、足利市青少年育成会連絡協議会が関連	＊	市民	7月		
		学校教育課	○ 教育相談研修会	・「いじめ」や「不登校」等の子供に対する具体的な早期発見、早期指導の在り方について研修する	＊	小中学校教員	毎年1回		
			○ 教職3年目研修会	・ 授業力を核とした専門的な実践指導力の向上	26	小中学校教員	年3回		㉛
			○ 特色ある道徳教育研究学校	・ 創意工夫を生かした道徳教育の推進	25	小学生、小中学校教員	年4～5回		
	7 同和問題をはじめ、人権問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努めましょう。	人事課	○ 人権問題研修	・ 全庁的人権問題研修	＊	市民、市職員	7・8月に3回	・ 人権・男女共同参画課と連携 1,090名受講	⑩
			○ 人権研修	・ 新採、初級、中級、新任副主幹及び技能労務職員研修で実施。また、年1回講演会形式の研修を実施	＊	市職員	随時	・ 新採 40名受講 初級 23名受講 中級 29名受講 新任副主幹 41名受講 技能 21名受講 ・ 講演会 55名受講	
		人権・男女共同参画課	○ 啓発運動の実施	・ 各地区開催行事等における街頭啓発	＊	市民	8月	・ 人権擁護委員13名	⑩
				・ 人権週間における街頭啓発	＊	市民	12月	・ 人権擁護委員と社会教育関係機関団体（自治連協等）との連携	
				・ ひとtoひとのフォーラムの開催	23	市民	12月	・ 第1部：人権ポスター・書道・作文の表彰式など ・ 第2部：講演会・映画上映会など 実行委員会主催 ・ 第3部：人権啓発ギャラリー、公演会など	
				・「いのち・愛・人権」展の開催	＊	市民	8月	・「いのち・愛・人権」展実行委員会主催	
			○ 人権相談所の開設	・ 人権に関する相談	＊	市民	毎月1回	・ 人権擁護委員13名と法務局との連携	⑩
			○ 人権問題講演会	・ 人権問題における講演会	＊	市民、市職員	7・8月に3回	・ 人事課と連携	⑩

社会連帯感の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
社会連帯感の育成	7 同和問題をはじめ、人権問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努めましょう。	地域福祉会館	○ なんでも相談	・ 生活上の問題・課題等を解決するための相談	＊	市民	随時	・ 相談者 H22-14人 H23-25人 H24-25人 H25-19人	⑩
			○ ミニ人権展	・ 人権・同和問題に関する写真、パネル等の展示、啓発資料の配布	＊	市民	10月	・ 山前文化祭で実施 参加者延人数 H22-521人 H23-347人 H24-412人 H25-360人	⑩
			○ 利用者団体代表者懇談会	・ 会館の目的、事業の広報と円滑な利用促進を図る	＊	市民	3月	・ H22-25団体 H23-23団体 H24-22団体 H25-21団体	⑩
			○ 人権講演会	・ 人権・同和問題の啓発	＊	市民	2月	・ 受講者 H22-125人 H23- 91人 H24- 81人 H25- 85人	⑩
			○ 親子交流教室	・ 星空観察会、親子料理教室	＊	親子	未定 （親子料理教室12月）	・ 受講者 H22-2講座 63人 H23-2講座 81人 H24-2講座 51人 H25-2講座 56人	⑩
			○ 歴史講座	・ 同和問題の啓発	＊	市民	9月	・ 受講者 H22-40人 H23-51人 H24-43人 H25-38人	⑩
			○ ジュニア卓球教室	. 卓球の基礎から簡単なゲームができるまで	＊	小学生	6月	・ 受講者（全5回） H22-延88人 H23-延90人 H24-延91人 H25-延91人	⑩
			○ こども将棋教室	・ 初心者から経験者までを対象に、基礎知識から対局まで楽しくできる教室	22	小学生	7～8月	・ 受講者（全3回） H22-延73人 H23-延78人 H24-延73人 H25-延50人	⑩
			○ こどもパソコン教室	・ 小学1～3年生の初心者を対象に基礎知識や基礎技術を学ぶ教室	23	小学生	8・10月	・ 受講者 H23-18人 H24-24人 H25-24人	⑩
			○ こども絵手紙教室	・ 描きたい題材を自分の気持ちに素直に表現したオリジナル絵手紙をつくる教室	24	小学生	8月	・ 受講者 H24-29人 H25-27人	⑩
			○ こどもバスケットづくり教室	・ 手芸の楽しさを学びながらフェルト生地を編んで作るバスケットづくり	25	小学生	7月	・ 受講者 H25-30人	⑩
		教育総務課	○ 人権教育推進本部	・ 人権問題を解決するための啓発運動をする各機関のとりまとめ、会議の開催	＊	関係者	年2回		⑩

社会連帯感の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
社会連帯感の育成	8 奉仕活動の大切さを理解し、その活動に参加しましょう。	商工振興課	○ 企業人権啓発推進等事業	・ 人権教育啓発、高年齢者・障がい者雇用促進関連パンフレットの作成、配布	＊	事業主、従業員	年間	・ H26-3,000部作成、約500事業所等へ配布	⑩
		人事課	○ 福祉研修（新採用職員研修）	・ 車椅子やアイマスク体験を通して福祉意識を醸成	＊	市職員	4月	・ 44名受講	⑨
		いきいき長寿課	○ 元気アップサポーター養成講座	・ 高齢者元気アップ教室等のボランティア指導者を養成する	＊	市民	1～2月	・ 年1講座（全9回）	⑪,16,17,41,42
			○ 認知症サポーター養成講座	・ 認知症を正しく理解し、認知症の知識や関わり方について学ぶ	＊	市民	随時	・ H26までの総サポーター数11,148人	12
		連合老人クラブ会	○ 社会奉仕活動	・ 各単位老人クラブ毎に実施	＊	老人クラブ会員	随時	・ 年2回は「社会奉仕の日」として一斉実施	⑪,16,17,41,42
		市民生活課	○ 足利市民活動センターの活用	・ NPO・ボランティア活動の支援 ・相談 ・情報の受・発信、提供 ・活動場所の提供	＊	市内の社会貢献活動団体等	年間		⑪,16,17
			○ 市民活動の支援	・ 市民自らが企画し、自主的に取り組む市民活動としての事業等に補助	＊	市民団体等	年間		⑪,16,17
				・ 市のテーマ（課題）に対し、市自らの企画を募集し、市民と市が協力して事業を行う	＊	市民団体等	年間		
		自治会長連絡協議会	○ 各種福祉募金への協力	・ 関係機関の要請に応え、各種福祉活動に協力し、日赤社資募集、社会福祉協議会賛助会費、共同募金及び歳末たすけあい募金を行う	＊	市民	年間		16,17
			○ 全市一斉清掃	・ 全市自治会が一斉に行う清掃運動への参加	＊	市民	12月		⑪,16,17
		生涯学習課	社会人権教育に関する						
			○ 社会教育機関における人権教育	・ 各社会教育機関、団体の下部組織における人権教育の充実	＊	関係者	年間		⑩
			○ 啓発活動の実施	・ 人権教育、啓発県民運動強調月間における啓発活動	＊	市民	8月		⑩
				・ 人権週間における啓発活動	＊	市民	12月		
				・ パンフレット、広報紙による啓発活動	＊	市民	随時		
			○ 公民館における人権教育の推進	・ 学級、講座等公民館事業における人権教育の推進	＊	市民	年間		⑩

社会連帯感の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
社会連帯感の育成	8 奉仕活動の大切さを理解し、その活動に参加しましょう。	生涯学習課	○ 組織、団体における人権教育	・地域の各種団体における人権教育の促進、支援	＊	婦人会、老人クラブ等	年間		⑩
			○ 集会所事業の充実	・各集会所における事業の内容、方法等の改善	＊	地域住民等	年間		⑩
				・事業への参加促進及び地域住民との交流の促進					
			○ 関係機関のリーダーに対する研修会の充実	・団体における人権教育指導者としての資質向上のための研修	＊	各リーダー	年間		⑩
				・人権教育指導者養成講座	＊	市民、市職員ほか	10月		
				・幼保・小中学校保護者に対する研修	＊	教育関係者、保護者	10月		
			○ 社会教育行政職員の資質の向上	・公民館人権教育推進会議、集会所事業推進会議	＊	公民館職員ほか	6・2月		⑩
		学校教育課	○ 学校における人権教育の推進	・「足利市の学校における人権教育推進の方策」の活用促進	＊	教員	年間		⑩
				・人権教育研究学校、人権教育推進校の指定	＊	教員	年間		
				・人権教育研修会の実施	＊	教員	年1回		
				・「社会科における同和問題に直接かかる内容の指導のポイント」の活用	＊	教員	年間		
				・「道徳における同和問題に直接関わる内容の指導のあり方」の活用	＊	教員	年間		
				・「各教科指導における人権問題にかかわる内容、記述の一覧」の活用	＊	教員	年間		
		青少年センター	○ ジュニアリーダースクール	・高校生の団体活動、ボランティア活動の育成を図るための必要な援助指導	＊	高校生	5・8月	・参加者 H21-3回 延38人 H22-3回 延63人 H23-3回 延55人 H24-3回 延65人 H25-3回 延87人 H26-3回 延89人	37
			○ 中学生地区活動ボランティアクラブ	・各地区（町内）育成会行事等における中学生のボランティア活動	＊	中学生	年間	・クラブ員登録者数 H21-329人 H22-301人 H23-315人 H24-417人 H25-524人 H26-521人	⑪

よき家庭人の育成

柱	約束事項	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
よき家庭人の育成	9.敬老の精神を身につけ実践しましょう。	いきいき長寿課	○ 敬老事業	・ 多年にわたり、地域社会の進展につくされてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝福するため、各地区又は町内で敬老会を実施する	＊	75歳以上の高齢者	9月		⑨,12
	10.男女の特性を理解し、協力する態度を身につけましょう。	人権・男女共同参画課	○ 男女共同参画に関する標語の募集	・ 男女共同参画の意識を高めるために標語を募集し、優秀作品を表彰	＊	小学5年生～高校生	4～5月	・ H26応募数 1,374点（足利市女性団体連絡協議会関連）	⑱,⑲,⑳
		農務課	○ 農業、農村男女共同参画推進事業	・ 農業における男女共同参画社会の推進	＊	市民	随時		㉛
	11.明るい健康な家庭づくりに努めましょう。	男女共同参画センター	○ 生活技術講座	・ 生活技術の向上と家庭生活の協働、人生設計の見直しに役立たせるための講座	＊	市民	年間	・ 料理教室 ・ ライフプランセミナー ・ ハワイアンキルト ・ スマートフォンを使ってみよう ・ パン作り＆ワインの楽しみ方 ※ 指定管理者（MBS財団）へ事業委託	
		青少年センター	○ 青少年作文の募集	・ 明るく楽しい家庭づくりの推進を目指し、作文を募集し、表彰する	＊	小中学生、高校生	7～2月	・ 応募数／入賞数 H21-457点／70点 H22-444点／71点 H23-397点／67点 H24-398点／68点 H25-430点／68点 H26-未定	⑱,⑲,⑳
			○ 家庭の日の啓発	・ 家庭の日の実践の促進（毎月第3日曜日は家庭の日）	＊	市民	年間	・ 広報あしかがみ等掲載	⑱,⑲
		市民スポーツ課	○ ファミリースポーツ教室の開催	・ 2コースを開設	＊	親子	年間	・ MBS財団と共催	⑱
	12.子育てにおける望ましい人格を育てましょう。	男女共同参画センター	○ 家族ふれあい講座	・ 親子でふれあいの時間を共有し、健全で明るい家庭をつくる	＊	5歳以上の児童とその家族	8・10月	・ キッズとパパのいっしょにクッキング ・ キャラ弁作り教室 ※ 指定管理者（MBS財団）へ事業委託	⑱,⑲,㉒,23,25,26,27,28
		ユネスコ協会	○ 足利ユネスコ学校	・ 夏休み等を利用して、市内の小学生を対象に国際理解教育や郷土愛を育てる活動を行い、社会づくりの担い手を育てる	＊	小学3～6年生	夏休み期間（6日間）		①,②,㉝,42,51,52
		児童家庭課	○ 母子家庭の相談業務	・ 母子家庭の福祉の向上と子供の健全育成	＊	母子家庭	年間	・ 1,920世帯(H26.4.1)	⑱,⑲
			○ 父子家庭の巡回訪問指導及び相談業務	・ 父子家庭の福祉の向上と子供の健全育成	＊	父子家庭	年間	・ 258世帯(H26.4.1)	⑱,⑲
			○ 母子・父子福祉団体の育成と助成	・ 地区の組織活動の充実と強化及びリーダー養成	＊	ひとり親家庭、寡婦		・ 親子ふれあい事業、ひとり親学級各種研修の実施 ・ 足利市母子寡婦福祉連合会活動の援助	30
		こども課	○ 児童館の運営と地域活動クラブの育成指導	・ 地域児童に健全な遊び場を与え児童の健康増進と情操豊かな子供の育成	＊	地域の児童及び保護者	随時	・ 児童館4館 ・ 地域活動クラブ4クラブ	⑱,⑲
			○ 子育て相談事業の実施	・ 子育て家庭の福祉の向上と子どもの健全育成	＊	市民	随時	・ 公立保育所 11ヶ所 民間保育園 12ヶ所 幼稚園 15ヶ所	㉒,23,25,26,27,28,29,30
			○ 特別保育事業の実施	・ 一時預かり ・ 開放保育 ・ 延長保育	＊	市民	随時	・ 公立保育所 11ヶ所 民間保育園 12ヶ所	㉒,23,25,26,27,28,29,30
			○ 地域子育て支援センター事業の実施	・ 育児不安等の相談指導及び子育てサークル等の育成・支援など子育て家庭への支援	＊	市民	随時	・ 公立保育所 2ヶ所 こども館 1ヶ所	㉒,23,25,26,27,28,29,30
			○ 子育て支援事業	・ 預かり保育 ・ 園庭開放 ・ 子育て支援サークルの開催	＊	市民	随時	・ 幼稚園 15ヶ所	㉒,23,25,26,27,28,29,30
		健康増進課	○ 母子保健事業	健康診査 ・ 乳幼児健康診査 健康教育相談 ・ 両親学級 ・ 母親学級 ・ 思春期講座	 ＊ ＊ ＊ ＊	 乳幼児 両親 妊婦 小中学生、保護者	 年間 年間 年間 随時		㉒,23,25,26,27,28,29,30

よき家庭人の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
よき家庭人の育成	12.子育てにおける望ましい人格を育てましょう。	教育研究所	○ 学校・家庭教育相談室	・家庭教育上の悩みに対する電話による相談	＊	市民	年間		㉒,23,25,26,27,28,29,30
		生涯学習課	○ 家庭教育学級	・家庭教育学級	＊	親等	年間		7,12,15,18,21,㉒,23,24,25,26,27,28,29,30
				・乳幼児学級	＊	親等	年間		
				・父親学級	＊	父親等	年間		
			○ 家庭教育出前講座	・学校、幼稚園、保育所等に出向いての学習機会の提供	＊	親等	年間		㉒,23,25,26,27,28,29,30
			○ 家庭教育通信	・家庭教育に関する情報提供（印刷物配布）	＊	家庭	12月	・3歳児～中3の子どもを持つ家庭	㉒,23,25,26,27,28,29,30
			○ 家庭教育懇談会	・家庭や地域の教育力の向上のための地区別懇談会	＊	市民	年間	・公民館地区別懇談会年間4～5地区	7,12,15,18,21,㉒,23,24,25,26,27,28,29,30
		学校教育課	○ 学校評議員設置事業	・各小・中学校に学校評議員を設置し、校長の学校運営に関して意見を求める	＊	学校評議員	年間		㉒,23,25,26,27,28,29,30
			○ 特別支援教育巡回相談事業	・発達障害等のある児童生徒の実態把握と校内支援体制の確立に向けた巡回相談	＊	小中学生	年間		㉒,23,25,26,27,28,29,30
			○ すこやか支援員配置事業	・個別の支援が必要な児童生徒の学習指導や学校生活の支援	＊	小中学校	年間		㉒,23,25,26,27,28,29,30
		プラザ市民	○ 人形劇こどもフェスティバル	・幼児を中心にプロの人形劇の鑑賞	＊	幼児と家族	6月		26
		市民会館	○ ぬいぐるみ人形劇	・親子のふれあいと情操を深める	＊	幼児	2月	・幼稚園・保育所、団体鑑賞・一般鑑賞	26
			○ 小中学校音楽教室	・音楽鑑賞を通して児童、生徒の芸術、文化の向上を図る	＊	小中学生	6月	・小中学校芸術教室研究会との共催事業	26
			○ 小中学校演劇教室	・演劇鑑賞を通して児童、生徒の芸術、文化の向上を図る	＊	小中学生	6・9月		26
			○ 小学校狂言教室	・狂言鑑賞を通して児童の芸術、文化の向上を図る	＊	小学生	11月		26
			○ 小学校音楽教室出前コンサート	・身近に音楽に触れ楽器を体験することで児童の芸術・文化の向上を図る	＊	小学生	通年		26
			○ 小学校演劇教室演劇ワークショップ	・演劇の特徴である表現することを体験することで児童の芸術・文化の向上を図る	＊	小学生	通年		26
			○ 市内高等学校芸術鑑賞会	・音楽や演劇などの芸術鑑賞をとおして生徒の芸術・文化の向上を図る	＊	高校生	11月	・高校芸術鑑賞会との共催事業	
			○ 足利ユースオーケストラ	・市民会館付属の子どもたちのためのオーケストラの活動	＊	小学4年生～大学生	5月～3月		
			○ 専属プロフェッショナル芸術団体プロジェクト「足利ミュージカル」	・研究科講習会、定期公演、福祉施設等アウトリーチ、親子ミュージカル劇場	25	市民	随時		24,26
			○ 専属プロフェッショナル芸術団体プロジェクト「足利カンマーオーケスター」	・定期演奏会、福祉施設等アウトリーチ、市内高校管弦楽クリニック	25	市民	随時		24,26
			○ 専属プロフェッショナル芸術団体プロジェクト「オペラ・リリカ」	・研究科講習会、夏休み絆コンサート、定期公演、福祉施設等アウトリーチ、市内高校合唱部指導	25	市民	随時		24,26
			○ 市民会館「移動劇場」	・専属プロフェッショナル芸術団体「足利ミュージカル」「足利カンマーオーケスター」「オペラ・リリカ」による足利市民芸術鑑賞教室	26	市民	随時	・市内公民館等で開催	21,24,26

よき職業人の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
よき職業人の育成	13.職業人として、専門的知識や技能を身につけましょう。	経営管理課	○ 職員実績及び提案制度	・職員の創意・工夫の奨励	＊	市職員	随時		㉛
			○ 庁内5S運動	・職場環境の改善、業務の効率化及びコストの削減を図る	23	市職員	随時		㉛
		人事課	○ 各種研修						㉛
			・新採用職員研修	各階層での必要な能力を身に付け、また職務遂行能力向上を目的とする	＊	市職員	年間		
			・初級職員研修		＊				
			・中級職員研修		＊				
			・JST		＊				
			・新任副主幹研修		＊				
			・新任課長研修		＊				
			・技能労務職員研修		＊				
			・中堅職員事前研修		＊				
			・評価者研修		＊				
			・交通安全研修		＊				
			・職場研修推進講座		＊				
			・防災研修		＊				
			・財務担当者研修		＊				
			・補助職員研修		＊				
			・行政法研修		22				
			・民法研修		25				
			・地方自治法研修		＊				
			・地方公務員法研修		23				
		安足地区職員研修協議会	○ 各種研修						㉛
			・新採用職員研修	安足地区2市の職員の共同研修として実施 基本的職務遂行能力、政策形成向上を目的とする	＊	2市の職員	年間		
			・初級職員研修		＊				
			・主事・技師級研修		＊				
			・中級職員研修		＊				
			・政策法務研修		＊				
		財管課	○ 建設技術研修会の開催	・建設業者の施工管理・技術の向上	＊	建設業者	随時		
			○ 建設業者への指導育成	・新しい知識や技術の習得を図る	＊	建設業者	随時		
		男女共同参画センター	○ 職業講座	・就業に役立つ職業技術や事務処理能力の向上を図るための講座	＊	市民	年間	・ファイナンシャルプランナー2級合格準備講座 ・調理師試験合格講座 ・パソコン教室 ・再チャレンジ支援セミナー ※ 指定管理者（MBS財団）へ事業委託	㉛
		こども課	○ 保育研究会の充実	・保育情勢の把握 保育の知識・技術の向上	＊	保育所職員	随時	・職種別研修会（所長、主任、保育士、調理員、技能員）	㉛
			○ 保育所職員研修	・保育の質の向上	＊	保育所職員	随時	・各種研修会参加 所内研修	㉛
			○ 保育計画の作成と評価反省	・自己評価の継続と自己研鑽	＊	保育所職員	月1回	・職員間の共通理解	㉛
			○ 実習生・ボランティア等の受け入れ	・育成・指導のスキルアップ	＊	保育所職員	随時		㉛
		商工振興課	○ 技能者褒賞事業	・技能労働者の資質の向上と中小企業の育成	＊	勤労者	12月		㉛
			○ 足利市共同高等産業技術学校	・勤労者及び技能労働者等の資質の向上と勤労意欲の向上	＊	勤労者及び就職予定者	年間		㉛

よき職業人の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
よき職業人の育成	13.職業人として、専門的知識や技能を身につけましょう。	商工振興課	○ 各種講座の開催	・ 就労支援を目的にキャリアアップや資格取得に役立つ講座を実施	＊	勤労青少年等	年5講座		㉛
			○ あしかが産学官連携推進センター事業	・ 学術と技術の交流・情報交換、産学協同研究の支援など産学官の連携を推進する 情報提供事業・研修事業他	＊	企業	年間	・ 設立H16.6.1 メールマガジン・ニュースレター発行	㉛
			○ 足利インキュベーション・オフィス（A-BOX）	・ 創業や新分野で事業をはじめる予定のある方に、オフィスを提供しながら経営アドバイスなどの支援をし、創業者としての自立を応援するプロジェクト	＊	創業を目指す方等	年間		㉛
			○ 労務なんでも相談会	・ 社会保険労務士が人事・労務管理、労働問題、年金などに関する相談を実施	＊	労働者及び事業主	毎月1回	・ H25-相談者10人	㉛
		両毛メート	○ 文化教養健康事業	・ 各種講座等の開催 ・ 外部講座（2市主催）等の受講補助 ・ 通信教育補助、資格取得支援	＊ ＊ ＊	両毛メート会員と家族	年間		41,42,43,47
		地場産センター	○ 人材育成事業	・ 階層別・職能別各種セミナーを開催し、企業の人材育成を支援する	＊	企業	随時	・ 営業マンセミナー、生産管理セミナー、管理監督者セミナー及び経営セミナーを開催	㉛
			○ 足利市中小企業大学校	・ セミナーを開催し、中堅社員、信頼されるリーダーを目指して活躍できる人材の育成を図る	＊	企業	随時	・ H25 2回開催／参加者19人	
			○ 足利市ISO人材育成セミナー	・ 内部監査員養成セミナーを開催し、企業のISOマネジメントシステムの支援を行う	＊	企業	随時	・ ISO9001内部監査員養成セミナー、ISO14001内部監査員養成セミナーを開催	㉛
		農務課	○ 農業研修センターでの各種研修会の開催	・ 新しい知識や技術の習得	＊	農業者	随時		㉛
			○ 青少年クラブ協議会の育成指導	・ 農業振興の意識を高めるための経営感覚の向上	＊	農業後継者	随時		㉛
			○ 農業経営基盤強化促進事業	・ 農地の有効活用と農業経営の改善を図る	＊	農業者	随時		㉛
		生涯学習課	○ 公民館職員の資質の向上	・ 公民館職員研究部会（学級・講座担当者）	＊	公民館職員	毎月		㉛
				・ 窓口職員研修会	＊	公民館職員	随時		㉛
		学校教育課	○ 新規採用教職員研修会	・「足利市の教育目標」等について研修し、自覚を深める	＊	新採教員	8月	・ 県総合教育センター主催の研修会との連携	㉛
			○ 新任校長研修会	・ 管理者としてのビジョン、事務処理研修	＊	新任校長	7月		㉛
			○ 新任教頭実務研修会	・ 教頭職の実務研修会	＊	新任教頭	5月		㉛
			○ 学校事務職員研修会	・ 業務の問題点についての検討、協議	＊	学校事務職員	6月		㉛

よき職業人の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
よき職業人の育成	13.職業人として、専門的知識や技能を身につけましょう。	学校教育課	○ 教職3年目研修会	・ 授業力を核とした専門的な実践指導力の向上	26	教員	年3回		㉛
			○ 若手教職員研修会	・ 教師としての社会性、人間性の育成	26	教員	年3回		㉛
		学校管理課	○ 学校給食従事職員衛生講習会	・ 食品衛生の知識を学び衛生管理の徹底を図る	＊	学校給食従事者	7月		㉛
			○ 調理講習会	・ 専門的知識や技術を習得し、資質の向上を図る	＊	学校給食従事者	年1回		㉛
			○ 献立試作会	・ 新食材の検討を行うと供に新しい献立の開発を行う	＊	栄養士、調理員等	年2回		㉛
			○ 栄養指導研究会	・ 専門的知識や技術を習得し、資質の向上を図る	＊	栄養士ほか	毎月		㉛
			○ パン品質審査会	・ 専門的知識や技術を習得し、資質の向上を図る	＊	パン納入業者	年2回	・ H27から県給食会で実施	㉛
		教育研究所	○ 研究員研究の推進	・ テストバッテリー有効活用のための研究 ・ わかる授業のためのICT活用研究 ・ 国語科に関する学習指導改善研究 ・ 足利版「CAN-DOリスト」の作成研究 ・ 学校事務共同実施	＊	教員	年3回	・ 5グループ	㉛
			○ 教育研究所研究員集録の作成	・ 各教科、領域等に関する教育論文の募集、刊行 教育研究所研究員の研究成果	＊	教員ほか	2月	・ Webページによる配信	㉛
			○ 教育研究所情報の提供	・「教育情報」「教育研究所Webページ」による情報提供	＊	教員	随時	・ Webページによる配信	40
			○ 研究図書整備	・ 調査、研究推進に関する図書の購入	＊	教員	年間	・ 国際理解、生涯学習、環境教育、福祉教育、その他学習指導用	44
			学習指導教材センター						
			○ 学習指導教材センター整備	・ 新教育機器の設置、機器のシステムアップ及び備品、物品の整備等	＊		年間		40
			○ 学習指導教材センター専門部	・ 2専門部による研究、研修、活用の研究、教材の作成	＊	教員	年3回	・ 専門部員10名	40
			○ 学習指導教材センターの活用	・「教育研究所Webページ」による学習教材の提供	＊	教員ほか	随時		40
		農業委員会	○ 農業簿記記帳等の講習会の開催	・ 農業経営合理化の基礎となる簿記の普及と併せて、適性納税のための農業青色申告の普及、推進	＊	農業者	年5回		42

よき職業人の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
よき職業人の育成	14.職業を通して生きがいをもてるようになりましょう。	シルバー人材センター	○ 高齢者労働能力活用事業	・ 高齢者が自己の経験や能力を活用して働くことができる就業機会の確保と提供	＊	高齢者	年間		㉛
			○ 高齢者無料職業紹介事業	・ 臨時的かつ短期的な就労を希望する高齢者に対する無料職業紹介事業を実施	＊	高齢者	年間		㉛
			○ 一般労働者派遣事業	・ 臨時的かつ短期的な就労を希望する高齢者に対する一般労働者派遣事業を実施	＊	高齢者	年間		㉛
		商工振興課	○ 就職支援セミナー	・ 就職活動基礎セミナー	24	求職者	6～1月	・ H25 4回開講／受講者19名	㉛
				・ 履歴書・職務経歴書作成セミナー	＊	求職者	7～2月	・ H25 4回開講／受講者21名	㉛
				・ 就職試験対策セミナー	＊	求職者	7～2月	・ H25 4回開講／受講者11名	
				・ ニート・フリーター未然防止のための講演会	＊	中学生、高校生	随時	・ H25 中学校3校、高校2校で実施	
				・ 市内産業団地案内ツアー	＊	高等学校進路指導教諭等	2月	・ H25 参加者10名	
			○ 勤労者表彰事業	・ 勤労者の資質の向上、勤労意欲の増進	＊	勤労者	12月	・ H26受賞者 永年勤続者68名 産業振興功労者1名 発明・創意工夫等功績者該当なし	㉛
			○ 青少年職業的自立支援相談事業	・ 職業、生活等の相談及び指導	＊	勤労青少年等	毎月1回		㉛
	15.資源の開発と活用を図り、産業の発展に努めましょう。	商工振興課	○ 通行量調査の実施	・ 市内15ポイントでの通行者の調査	＊	市民	3月	・ 毎年度3月実施	
			○ 地域商業団体活動事業の促進	・ 補助金交付	＊	団体	随時	・ 地域商業団体活動事業補助	
			○ 商店街共同施設事業の促進	・ 補助金交付	＊	団体	随時	・ 商店街共同施設整備事業補助	
			○ 中小企業（商業）の診断指導事業の推進	・ 個別商店の経営・商店街の合理化、近代化のための診断の実施	＊	個別商店、商店街	随時		
			○ 商工団体の育成強化	・ 足利商工会議所、坂西商工会、足利商業連合会、栃木県中小企業団体中央会に対する業務の補助	＊	団体	随時	・ 商工会議所等事業費補助	
			○ 商店経営者講習会	・ 経営者、従業員としての研修、あるいは技術の習得	＊	経営者、従業員	随時	・ 商工会議所との連携	㉛
			○ 一店逸品運動	・ 商店の商品やサービスをブラッシュアップし、独自に新商品や新サービス（逸品）を作り出し、商店や商店街の魅力を高め、活性化を目指す	＊	商業者、市民	随時	・ 勉強会などの開催	㉛
			○ 学生チャレンジショップ	・ 中心市街地の賑わいの創出・活性化とともに、学生の起業心の醸成を目的に実施	＊	高校生、専門学生	5・11月		㉛

よき職業人の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
よき職業人の育成	15.資源の開発と活用を図り、産業の発展に努めましょう。	商工振興課	○ 産業振興貢献企業表彰事業	・市内で製造業を営む企業の受注の拡大を図り、産業振興に寄与する	＊	市外（取引先）	10月	・H26受賞企業 特別表彰1企業 一般表彰6企業	㉛
			○ 中小企業基盤強化事業	・企業体質を強化する事業を支援することにより地域の産業振興を図る	＊	中小企業	随時	・産業財産権取得事業補助等	㉛
			○ 地域産業振興事業	・新製品の開発研究を支援することにより企業体質の強化を図る	＊	中小企業	5月	・地域産業振興事業奨励金	㉛
		両毛メート	○ 財産形成事業	・貸付金の紹介 ・中退共の紹介 ・サービスセンター共済の紹介	＊ ＊ ＊	両毛メート会員と家族	年間		
		地場産センター	○ 新商品開発能力育成事業	・デザイン活用の普及啓発のためのセミナー開催及び専門家によるデザイン力向上のための支援を実施	＊	企業	随時		
			○ 販路開拓事業	・企業の販路開拓のための産業展への出展及び展示会出展の補助を行う	＊	企業	随時	・インターナショナルギフトショー、鎌倉市姉妹都市物産展等への出展及び足利工業製品展示会等、出展支援事業補助金により支援	
			○ 情報収集提供事業	・適切な情報の収集と提供	＊	企業	随時		
			○ 相談指導事業	・企業の抱える各種課題克服のための相談指導	＊	企業	随時	・宇都宮大学地域共生研究開発センターサテライトオフィスとして、担当教官による技術相談会を開催	
			○ 5S推進事業	・5S導入のための指導事業勉強会等の開催、及び補助金で企業支援を実施	＊	企業	随時	・足利市中小企業経営管理支援事業補助金により、5S導入企業を初年度支援	
			○ 地域産業活性化事業	・地域産業に関わる人材確保・養成のために勉強会を開催及び企業OB登録指導員による個別課題解決のための支援を実施	＊	企業	随時		
		農務課	○ 地産地消等推進事業	・学校給食での地元産食材利用に対する補助 ・農林業まつりへの協力・補助	＊ ＊	小中学生 市民	随時 3月		
		道路河川整備課	○ 地価公示価格、地価調査価格の情報提供	・地価公示の標準地及び地価調査の基準地の位置や価格等の情報を市民に提供する	＊	市民	随時		

主体的な生活態度の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	16.社会の変化に対応できるため、つねに学習し、創意工夫に努めましょう。	人権・男女共同参画課	○ 女性の生き方何でも相談	・女性が抱える様々な悩みに女性の視点で対応し、問題解決に向けて支援する	＊	女性	年間	・毎週木曜日 9:30～15:20	
			○ 男女共同参画社会づくりに関する啓発	・広報紙「あしかがみ」、情報紙「かけはし」及びリーフレット等による啓発活動	＊	市民	年間	・「かけはし」全戸配付 ・子ども向けパンフレットを小学校4年生に配付 ・啓発リーフレットの作成・配布	12
			○ 女性人材リストの整備・活用	・各種審議会・委員会等へ女性委員を積極的に登用するため、人材の発掘を行う	＊	市民	年間	・35人／延274人登録 （H26.4現在）	
		男女共同参画センター	○ 男女共同参画セミナー	・男女共同参画社会の形成・推進を図るため、必要な技術や知識の習得と理解を深めるための講座	＊	市民	9～10月 12月 1月	・セミナーⅠ ・セミナーⅡ ・男性向けセミナー ※ 指定管理者（MBS財団）へ事業委託	36,37,38,39,40,43,44,45
			○ 市民企画セミナー	・男女共同参画社会に関心を持つ市民に、セミナーを企画し実施してもらう	＊	市民	12月	・H26「思春期の発達障がい児の親を支える講座」 ※ 指定管理者（MBS財団）へ事業委託	36,37,38,39,40,43,44,45
			○ 市民プラザまつり	・自主グループ活動の成果を一堂に集結したまつり	＊	市民	4月	・実行委員会主催	36,37,38,39,40,43,44,45,49,50
		情報管理課	○ 市民公開講座 （パソコン講座）	・パソコンの基本操作とWord、Excelの基本機能についての学習	＊	市民、市内勤務者	5・8・11・2月（年4回）	・足利工業大学へ委託 受講者数 H22-98人 H23-67人 H24-86人 H25-63人	45
			○ 市民パソコン相談	・パソコン（主にWord、Excel）に関する相談	＊	市民、市内勤務者のパソコン初心者	年間	・市民資料室の公開端末機を利用 相談件数 H23-12件 H24- 5件 H25-33件	45
		市民生活課	○ 市民相談に関すること	・市民の市政に対する要望、日常生活上の困りごと、悩みごとの相談	＊	市民	年間		12
		消費生活センター	○ 消費生活展の開催	・安全で豊かな消費生活への情報提供	＊	市民	秋		12
			○ 消費生活講座・講演会の開催	・消費者被害の未然防止と自立した消費者の育成	＊	市民	年間	・講座、講演会、寸劇など	12
			○ 消費生活リーダーの養成	・地域における実践活動のリーダーとして活躍する消費者を養成する	＊	市民	年間		12
			○ 消費者団体の育成	・「足利市くらしの会」への指導、助言	＊	消費者団体	年間		12
			○ 消費者相談	・消費生活全般に関する苦情や問合せへの情報提供、助言	＊	市民	年間		12

主体的な生活態度の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	16.社会の変化に対応できるため、つねに学習し、創意工夫に努めましょう。	教育総務課	○ 奨学資金貸付	・経済的な理由により修学の希望を達することが困難な人に奨学金を貸与	＊	大学生・高校生等	募集期間2月	・大学生等30,000円、50,000円選択制 高校生等15,000円 他に、緊急在学採用制度（大学生等）30,000円 海外留学奨学金貸与制度30,000円、50,000円（選択制、随時募集）	
			○ 入学資金融資あっせん	・大学・高校等入学時に要する資金の融資あっせん	＊	大学生・高校生等の保護者	10～3月	・入学時に納入する入学金や施設費等で150万円を限度とする	
			○ 交通遺児就学奨励費補助	・交通遺児家庭へ就学費を助成し、就学の機会を確保	＊	小中学生、高校生	随時	・小学生　6,000円 ・中学生　8,000円 ・高校生　10,000円	
		生涯学習課	○ 生涯学習振興大会の開催	・生涯学習社会の実現をめざし、教育尊重の気運を醸成	＊	市民	10月		36,37,38,41,42
			○ 生涯学習奨励賞の助成	・生涯学習活動の拡大のために活動奨励金を贈り、「足利市の教育目標」の具現化を推進する	＊	市民	10月		36,37,38,41,42
			○ 教育目標だよりの発行	・生涯学習に関する市民の実践活動等の紹介を通して、啓発と教育目標の趣旨徹底を図る	＊	市民	1月		40
			○ 生涯学習メニューパンフレット「自学自習のてびき」の作成	・各種学習機会を網羅した情報をホームページに掲載	＊	市民	4月・10月		40,41
			○ 生涯学習推進月間の実施	・期間内に市民が自由に参加できる関係事業を一括広報	＊	市民	10～11月		36,37,38,41,42
			○ キャッチコピーの募集	・啓発用キャッチコピーを公募し、優秀作品を生涯学習関連事業等で使用	＊	市民	3年に1回		36,37,38,41,42
			○ 移動図書館の充実と利用促進	・ともしび号の巡回による図書の貸出し（39ステーション）	＊	市民	年間		44
			○ 子ども向けメニューパンフレット「発見！探検！かがやけ自分」の発行	・各種学習機会より子ども向け、親子向けの講座等を網羅した冊子を作成	＊	小中学生	5月		47
			○ 子ども向け学習通信「発見！探検！かがやけ自分」通信の発行	・メニューパンフレットより講座等に参加した児童生徒の活動の様子を紹介し,て次回参加への参考とする	＊	小中学生	3月		47
			○ 市民大学あしかが学校	・市民の誇りである日本最古の「足利学校」の学び合い、自学自習の精神を受け継ぎ、市民の学習意欲の高揚とその成果を地域で生かされるよう支援するために開校	＊	市民	年間	・H25認定証授与者 入門位　8人 入徳位　4人 学校位　4人 杏壇位　3人 修学位　3人 奨励賞　6人	49,50

主体的な生活態度の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	16.社会の変化に対応できるため、つねに学習し、創意工夫に努めましょう。	生涯学習課	○ 生涯学習情報のホームページ上での提供	・ 生涯学習メニューパンフレットに掲載した各種学習機会やグループ、サークル、指導者などの情報をホームページ上で提供	＊	市民	随時		40
			○ 学校ボランティア研修会及びボランティア出前市	・ 学校を支援するボランティアとして継続的に活動を希望する人や、より効果的な活動を展開したいと希望する人を対象に、資質の向上及びボランティア同士の交流を図る。また、出前市で出向き、実際に子どもたちへの指導をする	＊	市民、小中学生	年間	・ H22～26ボランティア出前市実施校 北郷小、三重小、坂西北小、葉鹿小、名草小、桜小、久野小	⑪,16,17
			○ 市民企画実践講座	・ 市内に活動している団体・グループの方が、自分達の実践を独自の講座として企画し、市民の和の拡大を目指す講座	＊	市民	年間	・ H22- 8講座／延733人 ・ H23-14講座／延713人 ・ H24-16講座／延1,001人 ・ H25-17講座／延954人	37,38
			○ 足利工業大学・上智大学連携講座「Theあしかが学」	・ 両大学が持つ人的、知的、物的資源を活用し、本市固有の歴史・文化や自然・環境などの特徴や特性を学び、地域の様々な課題に対して、学んだ成果を生かしながら、主体的に行動できる市民の育成を目指す講座	＊	市民	年間	・（前期） 足利工業大学連携講座 全8回 ・（後期） 上智大学連携講座 全6回	37,42
			○「足利市の教育目標」リーフレットの発行	・ 足利市の教育目標は家庭、学校、地域、職場、行政などが相互に連携を図りながら、市民一人ひとりが自立し社会性を身につけ、思いやりと生きがいに満ちた心豊かな市民となることを願いつくられたことを周知する	＊	小学1年、中学1年の保護者	4月		36,37,38,41,42
			○ 施設図書（興国文庫）の充実と利用促進	・ 図書購入と利用促進	＊	市民	年間		44
			○ 少年の砦	・ 自然体験、生活体験をとおしての地域のよりよき仲間集団の育成	＊	小学4～6年生	5～3月	・ 市内4砦を開設	②④
			○ 高齢期における学習機会の充実	・ 高齢者学級、各種講座の充実（高齢者学級19）	＊	高齢者	年間		36,37,38,41,42
				・ 老人クラブ等既存団体、組織との連携	＊	高齢者	年間		
			○ 地域活動への参加促進	・ 高齢者ボランティア活動	＊	高齢者	年間		12,14
				・ コミュニティ活動	＊	高齢者	年間		
				・ 地域の文化活動への参加	＊	高齢者	年間		
			○ 地域ふれあい講座	・ 子どもと保護者、地域住民の交流の場の設定	＊	小中学生とその保護者、地域住民	年間		⑪,12,14,21

主体的な生活態度の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	16.社会の変化に対応できるため、つねに学習し、創意工夫に努めましょう。	生涯学習課	○ 視聴覚ライブラリーの整備充実と活用	・視聴覚教材、機械の貸し出し	＊	市民	年間		40
			○ 自主学習グループ、サークルの育成	・地域自主グループ、サークルへの援助、助長	＊	市民	年間		37
			○ 公民館、集会所における学級、講座の充実	・市民への学習機会の提供	＊	市民	年間		36,37,38,41,42
			○ 成人大学講座	・現代的課題の解決を目指すための学習	＊	市民	年間		36,37,38,41,42
		青少年センター	○ 少年の主張発表大会	・中学生の清新かつ建設的な意見を発表する機会を設け、少年少女が日常感じていることを表明できる技術の習得と自主性の育成	＊	中学生	9月	・各中学校1人 H21-12人 H22-12人 H23-12人 H24-12人 H25-12人 H26-12人	
			○ ヤングの主張コンクール	・現代の若者が今何を思い、何を考え、どう生きようとしているのかなどを発表する機会を設け、お互いの意見交換、相互理解を深める	＊	青少年（15歳以上25歳以下。但し中学生参加不可）	9月	・発表者数 H21- 7人 H22-21人 H23-14人 H24-18人 H25-25人 H26-18人	
			○ 精神科医による教育相談事業	・児童生徒、教師、保護者が一体となって問題解決を図るための精神科医による教育相談事業	＊	小中学生、教師、保護者	年11回	・開催回数／件数 H21-5回／ 8件 H22-6回／11件 H23-5回／ 9件 H24-4回／ 5件 H25-3回／ 5件	25,26
		市民プラザ	○ 市民プラザまつり	・市民プラザの主催講座及び講座終了後の自主グループ活動の成果を一堂に集結したまつり	＊	市民	4月		37,38,50
			○ 親子講座	・親と子のふれあいを深めるための講座（陶芸、工芸等）	＊	児童と保護者	8月		28,29,37,47
		学校教育課	○ 研究学校の指定	・人権教育の実践研究 ・学習指導の実践研究	＊	小中学校	年間	・研究指定は2～3校 年間：小学校1校、中学校1校	38
			○ 学習指導研修会	・学習指導改善に関する研修会	＊	教員	7月		38
			○ 学校週5日制推進事業	・各学校施設の開放による学区の子どもへの活動の場の提供	＊	小中学生	8月を除く毎土曜日		⑪,21
			○ 学びの指導員推進事業	・学習活動の支援、学習指導改善にかかわる教材作成等	＊	小中学生	年間		
			○ わくわく学習サポート事業	・各学校における特色ある学校づくりの推進	＊	小中学校	年間		
			○ マイ・チャレンジ推進事業	・地域での人とのかかわりを主とした社会体験活動	＊	中学生	年間		

主体的な生活態度の育成

柱	約集内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	16.社会の変化に対応できるため、つねに学習し、創意工夫に努めましょう。	学校教育課	○ 小規模特認校指導員・保健指導員推進事業	・小規模特認校の平日や土曜日授業における学習活動の支援	23	中学生	年間20日		
			○ 特別支援教育総合推進事業	・様々な障がいを抱える子供たちへの支援体制整備	22	3歳以上18歳以下	年1回		
		教育研究所	○ スーパーバイザーによる教育相談	・専門講師による教員並びに保護者への相談活動	＊	教員、保護者	月2回		㉒,23,25,26,27,28,29,30
			○ いじめストップアドバイザーによる教育相談	・臨床心理士による教員並びに保護者・児童生徒への相談活動	25	教員、保護者、小中学生	5～2月		
	17.ものを大切にし、資源を有効に活用しましょう。	クリーン推進課	○ 資源物集団回収事業報奨金及び助成金交付制度	・限られた資源の有効な活用	＊	自治会、育成会等、回収業者	随時		㉝
			○ 家庭用生ごみ処理器等設置費補助金交付制度	・生ごみ等のたい肥化の促進を図り、ごみを減量化する	＊	市民	随時	・コンポスト容器、EMストッカー、電気式生ごみ処理機	㉝
			○ 南部クリーンセンターの見学会	・市内の清掃施設の見学を通して、ごみ処理やごみ減量、リサイクルについて理解を深める	＊	市民	随　時		㉝
			○ ごみ減量リサイクルの啓発活動	・ごみを減らすため、5種12分別による排出の徹底と3R運動を推進するため広報紙やホームページの媒体や出前講座を通じて、さまざまな年齢層に周知を図り、実践行動を促す	＊	市民、幼児、小中学生	随時		㉝
			○ リサイクル・エコショップ認定制度	・ごみ減量化、再生利用に積極的に取り組んでいる商店、大型店、チェーン店等（事業者）をリサイクル・エコショップとして認定することにより、その利用を市民に推奨するとともに、ライフスタイルを環境にやさしいものに誘導しリサイクル社会の実現を目指した制度	＊	店舗	随時		㉝
			○ 資源物の拠点回収事業	・ごみステーションでの資源物の持ち去りを防止するとともに、市民の資源物排出の利便性を確保し、資源物のより一層の回収を図るため、市有施設19か所に回収ボックスを設置し、資源物を回収するもの	＊	市民	随時	・各公民館・クリーンセンター	㉝
			○ ごみ減量・リサイクル推進のための標語の募集	・ごみ減量・リサイクル意識を高めるため募集。優秀作品は啓発活動に活用	＊	小中学生	6～9月	応募作品　310点	㉝

主体的な生活態度の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	17.ものを大切にし、資源を有効に活用しましょう。	消費生活センター	○ 埋もれている生活用品の有効活用化	・生活用品の再利用運動の推進	＊	市民	年間	・制服リサイクルバンク ・生活展におけるフリーマーケット	㉝
		上下水道総務課	○ 水道週間の実施	・水道についての理解と関心を高め、水を大切にすることの啓発 ・ポスター、習字の募集	＊	小学生	6月		㉝
			○ 水道出前講座	・水道の歴史や水道水ができる過程、水道料金のしくみ等の学習を通して、水道事業に対する理解を深めるとともに、安全で低廉な足利の水道水について周知を図る	23	市民	年間	・講座数 H23-2回 H24-5回 H25-3回(112人) H26-2回(49人)	㉝
		工務課	○ 水の安定供給	・いつでもどこでも安全な水道水の安定した供給	＊	市民	年間	・H25給水サービスを受けた人口普及率 97.5%	㉝
	18.自由時間を有効に活用しましょう。	人事課	○ 通信研修	・新任副主幹を対象に実施	＊	職員	随時		
		男女共同参画センター	○ 趣味教養講座	・生活に安らぎを与え、心のリフレッシュを図る	＊	社会人	年間	・きもの着装＆マナー ・カラーセラピー入門 ・民舞 ・茶道 ※ 指定管理者(MBS財団)へ事業委託	49,50
			○ 図書の貸し出し	・余暇時間を有意義に過ごすために図書の貸し出しを行う	＊	市民	年間	※ 指定管理者(MBS財団)へ事業委託	44,49,50
		障がい福祉課	○ 福祉バス運行	・市内の障がい者団体、老人クラブ等の福祉団体が行う研修旅行等に対して無料で運転手つきのバスを貸し出す	＊	障がい者団体、老人クラブ等	随時		49,50
		老人クラブ連合会	○ 余暇活動推進事業	・高齢者が積極的に余暇を活用できるような知識と技術を習得する事業	＊	老人クラブ会員	随時		36,37,38
				・老後の趣味活動による作品を公開、展示し、地域住民の高齢者福祉に対する理解と関心を高める	＊	老人クラブ会員	随時		36,37,38
		商工振興課	○ (一財)両毛地区勤労者福祉共済会への助成	・従業員、事業主等の福利厚生の充実、向上	＊	両毛メート会員と家族	随時		49,50

主体的な生活態度の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	18.自由時間を有効に活用しましょう	両毛メート	○ 余暇施設利用事業	・レジャー施設利用補助	＊	両毛メート会員と家族	年間		41
			○ 余暇活動事業	・宿泊施設利用補助	＊	両毛メート会員と家族	年間		41
				・旅行、スポーツ大会、レクリエーションの実施	＊				
				・旅行等補助	＊				
				・PASMO等の利用補助	＊				
				・佐野新都市バスターミナル駐車場回数券斡旋	25				
		市街地整備課	○ 足利渡良瀬ゴルフ場の開設	・市民の健全なレクリエーションの場の提供	＊	市民	年間	※ 足利グリーンサービス㈱へ業務委託	③,49,50
		渡良瀬グリーンプラザ	○ 足利市緑化推進大会	・花と緑と公園をテーマとした大会。緑化功労者等の感謝状贈呈、映画上映、講演会等	＊	市民	11月		①
			○ 市の木・市の花等植樹事業	・本市の豊かな緑と美しい花のあふれる明るく住みよい町づくりの創出により市の木・市の花をはじめとする緑化樹木を公共施設等に植樹することを目的に実施	＊	自治会	年間		①
			○ 緑・花いっぱいコンテスト	・花と緑を思い思いの形で飾った庭や花壇等のコンテストの実施	＊	市民	4～8月		
			○ 人生記念樹	・数々の思い出を記念して市内の公園に植樹し、あわせて公園緑地等の緑化推進を図る	＊	市民	年間		
			○ フラワーボランティア事業	・公園施設の花壇を市民参加によるボランティア活動により運営を行う。花壇作りにおける参加者の技術や知識の習得、情報交換の場としての活用を目的に実施	＊	市民	年間		
			○ ガーデニング講習会	・「花と緑に親しみ、心豊かなライフスタイルを育む」ことで実施	＊	市民	年間		②
			○ 緑化まつり	・草花等の展示即売、緑化苗木の無料配布及び緑化相談等の実施	＊	市民	5・10月		②

主体的な生活態度の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	18.自由時間を有効に活用しましょう。	渡良瀬グリーンプラザ	○ おもしろ自然フェスティバル	・ わたらせビーチ、じゃぶじゃぶ池等を中心に魚のつかみ取り大会、自転車ゲーム等	＊	市民	7月		②
			○ 足利渡良瀬ウォーターパークの開設	・ 市民の健全なレクリエーションの場（渡良瀬ビーチ、じゃぶじゃぶ池）の提供	＊	市民	7～8月		②
			○ サイクルランドの開設	・ 市民の健全なレクリエーションの場の提供	＊	市民	4～10月		
			○ 松田川ダムふれあい広場の開設	・ 市民の健全なレクリエーションの場（バーベキュー場、オートキャンプ場、キャンプ場）の提供	＊	市民	4～11月	※ 公園緑地課から渡良瀬グリーンプラザへ担当替	②
		生涯学習課	○ 各種講座	・ 趣味的な内容の短期学習	＊	市民	年間		36,37,38,41,42
		市民会館	○ 自主事業（音楽、演劇等）	・ 音楽、演劇等の鑑賞により市民の芸術文化の向上	＊	市民	年間		
		市民プラザ	○ 市民プラザまつり	・ 市民プラザの主催講座及び講座終了後の自主グループ活動の成果を一堂に集結したまつり	＊	市民	4月		37,38,50
			○ 趣味教養講座	・ 勤労者が余暇の活用を図るための一般教養講座	＊	市民	年17コース		37,41,49
			○ 市民プラザ囲碁・将棋大会	・ 個人戦	＊	市民	7・9月		38,50
			○ 親子映画	・ 親と子のふれあいを深めるための映画と人形劇等	＊	市民	年3回		29,50
			○ 小中学生囲碁・将棋大会	・ 個人戦	＊	小中学生	11・2月		38,47
			○ 参加型公演事業	・ 舞台芸術活動への参加	＊	市民	年間7事業		37,38,50
			○ 自主事業（音楽、演劇等）	・ 音楽、演劇等の鑑賞により市民の芸術文化の向上	＊	市民	年間		37,38,50
			○ 市民プラザ付属シニア劇団「燦SAN」定期公演	・ シニア層の演劇活動グループの演劇ワークショップと定期公演	24	市民	3月		

主体的な生活態度の育成

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
主体的な生活態度の育成	19.身のまわりの情報の整理と活用に努めましょう。	広報課	○ あしかがガイドマップの発行	・転入者などに市の概要や地図の情報を提供	＊	市民	随時	・転入届提出者に無料配布 ・史跡足利学校・足利市立美術館・草雲美術館の無料入場券を配布	
			○ 足利市ホームページ	・最新情報 ・イベント情報 ・観光情報 ・行政情報 ・生涯学習情報	＊	市民	随時更新		40
			○ Ashikagaメールマガジン	・イベント情報 ・行政情報	＊	市民ほか	週1回	・メールマガジン登録者に毎週火曜日配信	40
			○ わたらせテレビ	・行政、イベントなど話題の情報提供	＊	市民	毎日	・デジタル111ch	40
			○ 公式ツイッター	・イベント情報 ・観光情報 ・行政情報 ・災害情報	22	市民	随時		
			○ 公式フェイスブック「たかうじ君の足利さんぽ」	・イベント情報 ・観光情報 ・行政情報 ・災害情報	26	市民	随時		
		消費生活センター	○ パネル展示及び啓発資料等による消費者情報の提供	・消費者被害の未然防止と消費生活情報の提供	＊	市民	年間		
			○ 広報紙、テレビなど、センター以外の機関による啓発	・「あしかがみ」「啓発チラシ」「わたらせテレビ」等による広報	＊	市民	年間		
		農務課	○ 市場まつり	・市場を市民に公開し、その役割、機能等について認識してもらうとともに、市場の理解を得る	＊	市民	10月又は11月（年1回）	・主催：足利市、足利市公設地方卸売市場協力会	
		史跡足利学校事務所	○ 足利学校アカデミー	・現代に甦る足利学校とした、著名な講師陣による講座事業	＊	高校生以上	6～7月	・6講座/各講座定員100人	②
			○ 足利学校教養講座	・論語や漢詩など足利学校ならではの内容とした事業	＊	市民	年間		
			○ 足利学校文化事業	・絵画大会、書初めなどを開催する	＊	小学生以上	8～10月、1月	・6講座/各講座定員30名	
			○ 現代版「字降松」事業	・足利学校に関する疑問、質問をすることで学校についての関心を深める	＊	小学生以上	年間		
			○ 足利学校サマースクール	・足利学校で学ぶ体験を通して学校についての関心を深める	＊	小学生、保護者	7～8月	・30名程度	
			○ クイズラリー「集まれ足利学校博士」	・クイズを解き進みながら、学校内についての知識を深める	＊	小中学生	年間		
			○ 論語の素読	・孔子の教え「論語」を素読（音読）し、自学自習の精神を養う	＊	市民	年間	・4～11月「日曜論語素読体験」と通年の「論語体験プログラム」がある	②

国際社会に生きる日本人としての自覚

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
国際社会に生きる日本人としての自覚	20.国際社会に生きる日本人としての生き方を身につけましょう。	人権・男女共同参画課	○ 栃木県次世代人材づくり事業	・次代を担う人間性豊かで地域に貢献する実践的な女性リーダーを育成する	＊	満30歳以上66歳未満の女性	7月～2月	・栃木県と市町の共催 県外・県内研修、H26-1人	12
		市民生活課	○ 友好都市交流の推進	・訪中団の派遣	＊	市民	随時	・友好都市（中国・山東省済寧市）との相互交流	51
				・済寧市訪日団の受け入れ	＊		随時		
			○ 姉妹都市交流の推進	・訪米団の派遣	＊		随時	・姉妹都市（米国・スプリングフィールド市）との相互交流	51 52
				・訪日団の受け入れ			随時		
				・海外友好姉妹都市等交流活動支援奨励金等の交付	＊	市民	随時	・済寧市、スプリングフィールド市、鎌倉市を訪問する市民への助成金交付	
			○ ボランティア通訳人材バンクの募集・活用	・市民からの通訳を募集し、市内に在住する外国人に対する「ことばのサービス」の提供	＊	市民	年間	・足利市国際交流協会との連携	
			○ 在住外国人への情報提供	・広報「あしかがみ」多言語版の発行	＊	外国人	年間		
				・市民生活ガイドブックの発行	＊	外国人	4月		
			○ 国際理解促進出前	・足利市の国際交流事業の概要についての説明	＊	中学1年生	年間	・足利市国際交流協会へ依頼	
			○ 国際交流団体の育成と活動の推進	・足利市国際交流協会との連携による活動の展開	＊	市民	年間		
		国際交流協会	○ 青少年 英語スピーチコンテスト	・青少年の国際理解と英語力のステップアップのコンテスト ・アメリカ第16代大統領リンカーンの民主主義を象徴する「ゲティスバーグ演説」と「国際交流」に関する日本語によるスピーチの総合審査	＊	「中学生以下の部」、「高校生以上20歳以下の部」の2部門	6月		51 52
			○ 外国人による 日本語スピーチコンテスト	・外国人の日本語学習を奨励し、生活体験を通しての意見発表の場を提供し、諸外国の人々との真の相互理解を深め、地域の国際交流を図る	＊	日本に住んでいる在日5年以内の方			
			○ 海の向こうのくらし	・本市出身者またはゆかりのある方が海外生活体験や異文化等の講演を行い国際理解を深める	＊	市民	10～12月頃		51 52
			○ 外国人のための日本語講座	・市内在住外国人に日常生活に必要な初歩的な日本語と簡単な基礎的日本語を協会のボランィアメンバーが指導する5講座開講（昼の部・夜の部）	＊	外国人	年間 毎週（火・水・木・第1～3金曜日）	・市民プラザ ・生涯学習センター	

国際社会に生きる日本人としての自覚

柱	集約内容	課	事業名	事業内容等	開始年度	対象	実施時期	備考	調査内容NO
国際社会に生きる日本人としての自覚	20.国際社会に生きる日本人としての生き方を身につけましょう。	国際交流協会	○ 地球サロン「NGO・NPO新時代」	・各界で活躍の講師陣が世界的視野のもとにNGO・NPO活動を語る	＊	市民	未定	・市民プラザ ・市民会館 ・市民活動センター	㊿
			○ ポットラックパーティー	・料理を持ち寄って沢山の外国人と交流する	＊	外国人、市民	未定	・生涯学習センター	㊿
			○ 多文化共生推進事業	・ワークショップ、講演会、外国料理試食など	＊	外国人、市民	10月	・市民会館	㊿
			○ ニューイヤーパーティー	・外国人と共に日本のお正月を祝う	＊	外国人、市民	1月	・市民会館	
			○ 各種語学講座	・英語、スペイン語、中国語	＊	市民		・生涯学習センター	
			○ ファミリークリスマス	・外国人とクリスマスを祝う	＊	外国人、市民	12月	・市民プラザ	
			○ 料理教室「ICCキッチン」	・外国料理を実習し食文化について学ぶ	＊	外国人、市民	未定	・生涯学習センター	㊿
			○ 外国人相談	・行政書士による在留資格相談	＊	外国人	年間 毎月第2水曜日	・生涯学習センター	
		生涯学習課	○ 地球市民講座	・国際化の進展に対応した国際理解学習	＊	市民	1～3月		
			○ 英会話講座	・英会話を通した国際理解学習	＊	幼児～小学生と親等	年間		
			○ サマー・ティーチング・プログラム	・上智大学英語学科の学生と楽しく学ぶ英会話教室	＊	小中学生	8月	・H23秘書広報課より移管	㊿52
		青少年センター	○ 次世代人材づくり事業（栃木県次世代人材づくり事業）	・国際社会に対応する青年の育成をめざした地域、職場における青年リーダーの育成	＊	青少年（満18歳以上36歳未満）	10～11月	・H19「栃木県青年の船」から名称変更 足利市参加者数 H21-0人　H22-1人 H23-1人　H24-1人 H25-0人　H26-0人	
		学校教育課	○ 外国語指導助手設置事業	・ネイティブスピーカーによる英語語学力の向上	＊	ALT 11名	年間		
			○ 両毛地区中学生ふれあいネットワーク	・両毛地区の中学生が一堂に会して、相互理解と親善を深める	＊	中学生	隔年	・H26佐野市にて実施	
			○ スプリングフィールド市との青少年国際交流事業	・姉妹都市との交流	＊	中学生	6・9月		
			○ 外国人児童生徒教育専門指導員配置事業	・巡回指導員による外国人児童生徒への日本語指導および適応指導	＊	指導員	年間		
			○ 英会話学習推進事業	・小学校で英会話学習を実施 ・EAAの活用	＊	小学生	年間		
			○ 中学校英語教育推進事業	・英語力を把握するためのCAN-DOリストの作成 ・英語技能検定料の半額補助	25	中学校教員、中学生	年間		52
		教育研究所	○ 英語教育研究会	・英語教育並びに国際理解教育の充実	＊	教員、ALT、EAA	4月	・英語関係指導者 200名	

足利市の教育目標

第７次具現状況評価報告書

平成２７年３月　発行

編　集　　足利市生涯学習推進本部
　　足利市生涯学習推進委員会

発　行　　足 利 市 教 育 委 員 会
　　足利市本城３丁目２１４５